

構造特記仕様書(施工方法等計画書、使用材料一覧表を兼ねる)

1共通事項

・ 図面及び本仕様書に記載されていない事項は、
「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修、最新版)による。

・ 項目番号に ○ 印を付した項目を適用範囲とし、さらに、その項目内で ○ 印の付いているものは ● 印を適用とする。

・ 設計図書の優先順位は次の通りとする。
1. 質疑回答書、現場指示書
2. 設計図及び本特記仕様書
3. 「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」

・ 各工事前に施工要領書、計画書を提出し、不明事項に関しては監理者と十分に打合せを行うこと。

2土工事

①根切り及び埋戻し

・ 埋戻し及び盛土

● A種(山砂の類)

● B種(根切り土の中の良質土)

○ C種(他現場の建設発生土の中の良質土)

○ D種(再生コンクリート砂)

・ 建設発生土の処理

● 構内処理

● 構外搬出 搬出場所：

②山留め

・ 山留めの設置

● 親杭横矢板壁

○ 鋼矢板壁(シートパイル)、鋼管矢板壁

○ 柱列山留め壁

○ 連続地中壁

○ その他 ()

・ 山留めの撤去

○ 存置する

● 存置しない

・ 確認・検査項目

● 山留め工事施工計画書(計算書を含む)

3地業工事

①直接基礎

・ 基礎の形式

● 独立基礎

○ 布基礎

○ べた基礎

・ 支持層及び長期許容支持力度

砂層

400 (kN/m²)

・ 地盤改良工事

・ 工 法

○ 浅層混合工法

セメント系固化材添加量

— (kg/m³)

○ 深層混合工法

○ ラップル・コンクリート

・ 改良深さ

・ 品質管理

「建築物のための改良地盤の設計及び品質監理指針(日本建築センター)」に準拠すること

・ 設計基準強度

・ 確認・検査項目

● 床付け検査 (支持層の砂層を確認する)

○ 地盤調査 [調査名 試験箇所数]

● 平板載荷試験 [試験箇所数 1箇所 最大荷重 1,200 kN/m²]

2.杭基礎

・ 杭の寸法、継手箇所、支持層及び許容支持力度は図面による。

・ 杭の支持力算定は、平成13年7月2日国土交通省告示第1113号による。

・ 杭の施工後の処理

○ 杭芯ずれの許容値 ±100(mm)

○ 杭頭レベルずれの許容値 ±30(mm)

○ 許容値を超えた場合は監理者の指示による補強を行う。

○ 杭芯ずれ報告書

○ 杭頭補強 杭頭補強の施工要領は図面による。

・ 確認・検査項目

○ 施工結果報告書

○ 試験杭 [○ 最初の1本 ○ 図面に指示]

○ 試験掘り 深さ G.L.-(m) 本数 (本)

○ 杭頭補強 杭頭補強の施工要領は図面による。

3.既製杭

・ 杭の種類

○ PHC杭 [○ A種 ○ B種 ○ C種]

○ PRC杭 [種別は杭リストによる]

○ ST杭

○ SC杭 鋼材種別

○ 鋼管杭 鋼材種別 —

・ 杭の施工方法

○ 打込み工法

○ プレボーリング併用打撃工法 ○ 打撃工法

・ ハンマー種別

○ ディーゼルハンマー ○ 油圧式ハンマー

・ オーガー径

杭径=50(mm)程度

・ プレボーリング長

本杭長=2φ(m)

・ ペントナイト安定液 使用 [○ する ○ しない]

・ 埋込み工法

○ セメントミルク工法 ○ 中掘り工法 ○ 回転圧入工法

○ プレボーリング拡大掘め工法(認定工法)

・ 杭の形状

・ 先端形状

○ 開放型 ○ 閉塞型

・ 継手

○ なし ○ あり [○ アーク溶接 ○ その他(無溶接継手)]

・ 杭頭部の処理

○ ダイヤモンドカッターにより所定の高さに切り揃える。

○ 杭頭部の空洞に底板を敷き、基礎コンクリートの流入を避ける。

4.場所打ちコンクリート杭

・ 杭の種類

○ A種(無水掘り) ○ B種(無水掘り以外)

・ 杭の施工方法

特殊工法の場合は監理者の承諾を得ること。

○ BH工法

・ 掘削工法

○ アースドリル工法

○ オールケーシング工法

○ 掘底杭工法

○ リバースサーキュレーション工法

○ 深礎工法

・ 特殊工法

○ 拡張杭工法

○ 鋼管コンクリート杭工法

⑤砂利、捨てコンクリート地業

・ 砂利の種類

● 再生クラッシュラン(RC-40)

○ 切込み砂利

○ 切込み砕石

・ 砂利及び捨てコンクリート地業の厚さは以下の通りとする。

適用範囲	砂利地業	捨てコンクリート地業
基礎梁下	60(mm)	50(mm)
基礎スラブ下	60(mm)	50(mm)
土間スラブ下	60(mm)	—

4鉄筋工事

①鉄筋の種類、継手工法及び定着

・ 鉄筋は JIS G3112(鉄筋コンクリート用棒鋼)による規格品とする。

・ 溶接金網は JIS G3551(溶接金網及び鉄筋格子)による規格品とする。
寸法、形状及び鉄線の径は図面による。

・ 鉄筋の種類と適用範囲及び継手工法は下表による。

種 類	呼び径	継手工法	適用範囲
SD295A	D10～D16	重ね継手	躯体全般
SD345	D19～D25	ガス圧接継手	躯体全般
SD390	D29～D32	—	—
SD490	D29～D35	—	—

・ 特殊継手・定着工法を用いる場合は認定工法、建築性能証明等を取得したものとする

・ 機械式継手・定着

○ 機械式継手・溶接継手(A級以上)

ネジテツコングラウト継手(エースジョイント、エポックジョイント):BCJ-RC0021-04

フリージョイント工法:BCJ-RC012-03 もしくは同等の性能を有する工法

○ 機械式定着

プレートナット工法(BCJ-RC0152-07)

もしくは同等の性能を有する工法

・ 継手位置及び定着長さは鉄筋コンクリート標準図による。特殊継手の場合はその認定内容に準じる。

②鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

・ かぶり厚さ及び間隔は鉄筋コンクリート標準図による。

・ HOOP、STP の加工に用いるかぶり厚さは、5(mm)を加えた数値を標準とする。

・ スペーサーは見本を提出して監理者の承諾を得ること。

・ スラブ筋に対しては鋼製バースペーサーを用いる。

③ガス圧接

● ガス圧接工は、JIS Z3881 による 2 種有資格者以上によること。

○ 圧接技量資格者の技量確認試験を行う。

● ガス圧接完了後の試験

● 外観検査 100(%)

● 抜取り検査 一試験ロットは一組の作業班が一日に行った圧接箇所
○ 引張試験 3 本 / 一試験ロット

● 超音波探傷試験 30 箇所 / 一試験ロット

・ 超音波探傷試験は JIS Z3062 により、専用の探傷機器を使用する。

・ 試験従業者はガス圧接工事に従事しない者とし、鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者技量資格を有する者とする。

・ 超音波探傷試験を行う場合も最初の1ロットについては引張試験も併用すること。
1回の試験は3本以上とする。

④設備配管との取合い、梁貫通孔の補強

● 設備配管と鉄筋の取合いについては、設備施工者と十分に協議すること。

● ガス圧接部については鉄筋コンクリート標準図を参考にして施工図書を作成し、提出のこと。

● 梁貫通孔の補強筋に、建築技術評価規定に基づく評価又は日本建築センター評定を受けたものを用いる場合、監理者の承諾を必要とする。

⑤確認・検査項目

・ 書類確認

● 材料証明

● 鉄筋加工図 標準的な納まりを除き、特殊部分を対象とする

● ガス圧接抜取り試験結果

・ 立会い検査

● 配筋検査

・ 監理者による配筋検査前に施工者による自主検査を実施し、報告する。

配筋検査による是正事項は施工者の責任で是正し、写真記録を取ること。

5コンクリート工事

①コンクリートの種類、強度及びスランプ

● 普通コンクリート

○ 軽量コンクリート(嵩上げコン、均しコン)

設計基準強度	スランプ	使用範囲
● 18(N/mm ²)	15(cm)	捨てコン、土間スラブ、ラップルコン
○ 21(N/mm ²)	15(cm)	
● 24(N/mm ²)	18(cm)	2階床
○ 27(N/mm ²)	15(cm)	
● 30(N/mm ²)	18(cm)	基礎、基礎梁～1階床

・ レディーミクストコンクリートの種別 [● Ⅰ類 ○ Ⅱ類]

②コンクリートの品質

・ コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容差並びにその測定方法を施工計画書の品質計画において定め、監理者の承諾を得る。

・ コンクリート表面の仕り状態

● 合板せき板を用いるコンクリートの打直し仕上げの種別 [● A種 ○ B種 ○ C種]

● コンクリートの仕上り平坦さを施工計画書の品質計画において定め、監理者の承諾を得る。

③材料

・ セメント

	規 格	名 称	種 別	適用範囲
●	JIS R5210	ポルトランドセメント	普 通	躯体全般
○	JIS R5211	高炉セメント	○ A種 ○ B種	—
○	JIS R5212	シリカセメント	○ A種 ○ B種	—
○	JIS R5213	フライアッシュセメント	○ A種 ○ B種	—

・ 混和材料

種 類	規 格	名 称	種 別	適用範囲
○		AE剤	—	—
○		減水剤	○ 標準形 ○ 遅延形 ○ 促進形	—
○	JIS A6204	AE減水剤	○ 標準形 ○ 遅延形 ○ 促進形	—
●		高性能AE減水剤	● 標準形 ○ 遅延形	躯体全般
○	JASS ST-402	流動化剤	○ 標準形 ○ 遅延形	—
○	JIS A6205	防錆剤	—	—

・ 練混ぜ水

・ 練混ぜ水は JISA5308(レディーミクストコンクリート)附属書3(規定)による。

・ 砂利、砂は JISA5308(レディーミクストコンクリート)による。

・ アルカリシリカ反応性による区分 [● A ○ B]

・ JIS A 1129による試験で求められる骨材の乾燥収縮率は、700μ以下とする。

・ 床面積が大きいので、ひび割れに配慮した配合計画(膨張材等)とする

・ 骨材

・ 練混ぜ水

・ 砂利、砂は JISA5308(レディーミクストコンクリート)による。

・ アルカリシリカ反応性による区分 [● A ○ B]

・ JIS A 1129による試験で求められる骨材の乾燥収縮率は、700μ以下とする。

・ 床面積が大きいので、ひび割れに配慮した配合計画(膨張材等)とする

・ その他

④調査及び試験

・ 調査管理強度

● 設計基準強度に構造体強度補正値を加えた値以上とする。

・ 調査条件

単位水量	単位セメント量	水セメント比	所要空気量
175(kg/m ³)以下	270(kg/m ³)以上	60(%)以下	4.5(%)

・ 塩化物量試験

・ 試験回数は製造工場及びコンクリートの種類が異なるごとに、一日一回以上かつ、150(m³)ごと及びその端数につき一回以上とする。(※1)

及びその端数につき一回以上とする。最初の測定は打込み当初とする。

・ 圧縮強度試験

試験項目	試験の目的	養生方法	材 齢	試験回数
調査管理強度の管理試験	● 調査管理強度の管理	JIS A 1132による標準養生	28日	(※1)による
構造体コンクリート強度の推定試験	● 構造体コンクリートの材齢28日圧縮強度の推定	工事現場における水中養生	必要に応じて定める。	
	● 型枠取り外し時期の決定	工事現場における封かん養生	28日を超え91日以内	(※1)による

・ 試験回数は製造工場及びコンクリートの種類が異なるごとに一日一回以上かつ、150(m³)ごと及びその端数につき一回以上とする。(※1)

・ 強度試験は原則として、公的試験機関で行う。ただし、型枠脱型用試験は生コン会社でもよい。

・ 供試体の個数は、適切に間隔をあけた運搬車から3度に分けて、試験目的ごとに3個採取する。ただし、調査管理強度の管理試験用は一台の運搬車から3個採取する。

⑤養生(建築基準法施行令第75条による)

・ 打込み後5日間以上は、コンクリート温度を2℃以上に保つ。

・ 打込み後のコンクリートは、普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種の場合は5日以上、高炉セメントB種の場合は7日間以上、散水その他の方法で湿潤状態を保つ。

・ 硬化初期のコンクリートが、有害な振動や外力による悪影響を受けないようにする。

⑥型枠及び支保工(建築基準法施行令第76条による)

・ せき板の材料は複合板合とし、「コンクリート型枠用合板の日本農林規格」によるB・C又は所要の品質を確保できるものとする。

・ せき板及び支保工の存置期間は、部位及びセメントの種類、気温に応じて、次表(A)の存置日数以上が経過するか、(B)の圧縮強度以上となるまでとする。

(B)の圧縮強度による場合、監理者に圧縮強度試験結果を提出の上、承諾を得ること。

	部 位	(A)平均気温に応じた存置日数 15(℃)以上 5～15(℃) 5(℃)未満	(B)コンクリートの 圧縮強度
型 枠	基礎、梁側面、柱、壁	3 5 8	5(N/mm ²)
	スラブ下、梁下	6 10 16	Fc の 50(%)
支保工	スラブ下	17 25 28	Fc の 100(%)
	梁 下	28	Fc の 100(%)

・ 支保工の盛りかえは下記に従う。
● 大衆の支保工の盛りかえは行わない。
● 直上階に著しく大きい積載荷重が存在する場合は、支保工の盛りかえは行わない。
● 支保工の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらす可能性のある振動や衝撃を与えないようにする。
● 支保工の盛りかえは逐次行い、同時に多数の支保工について行なわない。

7.特殊コンクリート

○ 寒中コンクリート 適用期間：

○ マスコンクリート 適用箇所：

○ プレストレストコンクリート

⑧確認・検査項目

・ 書類確認

● 生コン調査表及び材料試験結果

● 圧縮強度試験結果

・ 立会い検査

○ 試験練り

● 型枠撤去後の躯体検査

・ 打込み不足、じゅんか、目違い等の有害な不良部分が認められた場合、
監理者の指示により、施工者の責任で補修を行う。

6鉄骨工事

①鉄骨製作

● 鉄骨製作工場は使用数量に応じて定める。いずれの場合においても、監理者の承諾を得ること。

・ 使用量が 30(t)を超える場合は国土交通大臣認定((株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国鉄構工業協会の認定)の工場とし、グレードは下記とする。
[○ S グレード ● H グレード ● M グレード ○ R グレード]

・ 使用量が 30(t)未満の場合は、選定した鉄骨製作工場の施工実績、作業管理組織、工作設備等を記載した資料を提出の上、承諾を受けること。

● 監理者が承諾した工場とする。

● 全ての部材について1/20程度の詳細図を作成する。詳細図には仕上げ材取り付け金物、仮設用金物などを含めて表現すること。

● 鉄骨の製作精度は JASS6 鉄骨工事付則 6「鉄骨精度検査基準」による。

②鋼材種別

	規 格	種 別	適用範囲
●	JIS G3101	SS400	小梁、ブレース、二次部材
○		SN400A	
●	JIS G3136	SN400B	大梁
●		SN490B	大梁、ベースプレート
○		SN490C	ダイアフラム
●	JIS G3350	SSC400	二次部材
○		STKN400B	
○	JIS G3444	STKN490	
●	JIS G3466	STKR400	水平ブレース
○		STKR490	
○	その他(法37条に基づく認定品)		

● 高力ボルト

● S10T(トルシアボルト：JIS B1186 の 2 種相当) 認定品 MBLT-9010など

● F10T(JIS形ボルト：JIS B1186 の 2 種)

● F8T(溶融亜鉛めっき高力ボルト：JIS B1186 の 1 種 A) 認定品 MBTL-9026など

● 普通ボルト

ボルトは JIS B1180、ナットは JIS B1181 認定品とする。

・ 摩擦面の処理の方法は標準仕様書による。

・ 溶融亜鉛めっき高力ボルトで、ボルトの長さが呼び径の 5 倍を超える場合のナット回転量は、実験により決定する。

④アンカーボルト

● 構造用

・ JIS G3138 による認定品の SNR400B (ABR400) とする。

・ 保持及び埋込み工法 [○ A 種 ● B 種 ○ C 種]

● 建方用

・ JIS G3101 による認定品の SS400 とする。

・ 保持及び埋込み工法 [○ 図面による]

・ 柱底均しモルタル [● A 種 ○ B 種]

⑤頭付きスタッド及びデッキプレート

● 頭付きスタッド

・ JIS B1198 認定品とする。

○ デッキプレート

○ 構造床 JIS G3352 による SDP1T とする。

○ 合成スラブ JIS G3352 による SDP1T とする。

○ 型枠用(鉄筋トラス付可とする) JIS G3352 による SDP1T 同等品とする。

・ スタッド溶接部分には塗装を行わないこと。

・ 合成スラブ用デッキプレートの溶接は焼ばさ栓溶接とする。ただし、スタッドをデッキ上から溶接する場合は兼用してよい。

⑥ターンバックル

・ 胴の種類

[● 割枠式

● バイブ式(見え掛かりとなる部分)]

・ ボルトの種類

[● 羽子板ボルト ○ アイボルト ○ 両ねじボルト]

⑦溶接部の検査

● 超音波探傷試験の規率は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程」による。

● ずれ、食い違い、アンダーカットの外観検査規率は、平成12年建設省告示第1464号による。

● 完全溶込み溶接部(工場溶接)

・ 工場溶接の場合の検査方法、抜取り率は下表による。一試験ロットは一節又は 300 溶接線程度とする。ロットからの抜取りは均等となるように無作為に行う。

種 類	検査者及び検査率		
	社 内	第三者	監理者
外観検査	100(%)	30(%)	適宜
超音波探傷試験	100(%)	AQOL2.5% 第4水準	適宜

● 完全溶込み溶接部(工事現場溶接)

・ JIS Z9008(計数連続生産型抜取検査(不良個数の場合))に準じて行い、全ての完全溶込み溶接部を対象とする。

● その他の溶接部は外観検査とする。

○ マクロ試験

○ 浸透探傷試験(JIS Z2343)

● 第三者検査機関は CNW 認定を取得した機関とする。

⑧錆止め塗装

● 錆止め塗装を行わない範囲

・ 現場溶接を行う箇所に隣接する両側それぞれ 100(mm)以内、かつ、超音波探傷試験に支障をきたす範囲

・ 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面

・ コンクリートに埋め込まれる部分及び接触する部分

・ 密閉となる内面

・ 外周部の柱・梁を除いた耐火被覆材を接着する部分

● 素地ごしらえ

・ 見え掛り [○ A 種 ○ B 種 ● C 種]

・ 見え隠れ [○ A 種 ○ B 種 ● C 種]

● 塗料種別

	種 別	規 格	名 称	種 類	適用範囲
○		JIS K5622	鉛丹さび止めペイント	○ 1種 ○ 2種	—
○		JIS K5623	亜酸化鉛さび止めペイント	○ 1種 ○ 2種	—
○	A 種	JIS K5624	塩基性鉛酸鉛さび止めペイント	○ 1種 ○ 2種	—
○		JIS K5625	シアナト・鉛さび止めペイント	○ 1種 ○ 2種	—
●		JIS K5674	鉛・クロムワズび止めペイント	● 1種 ○ 2種	—
○	B 種	JIS K5621	一般用さび止めペイント	○ 1種 ○ 2種	—

● 塗装回数

・ 工場 2回

・ 現場 0回

⑨溶融亜鉛めっき工法

・ めっき付着量

550(g/m²)

・ 適用箇所

外部露出する部分

・ 素地ごしらえ

[● A 種 ○ B 種 ○ C 種]

⑩確認・検査項目

・ 書類確認

● 製品自主検査記録

● 鋼材規格証明

・ 立会い検査

● 原寸検査

○ 仮付け検査

● 仮組み検査

● 製品検査

● 建方検査

○ 本締め検査

7その他

令第129条の2の4Iに関する事項

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による

☑ 建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。

☑ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。

☑ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

☑ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さは5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☑ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
☑ 建築物の部分を通過して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

☑ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

☑ 給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれがないものとするほか、
風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

				特記						工事名称 東秩父村新庁舎建設工事 図面名称 構造特記仕様書	図面尺度	日付		区分 構造	図面番号 S-001
--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	------	----	--	----------	---------------

1. 一般事項

(1) 共通事項

- ・鉄骨詳細図と本規準との間に違いが生じている場合は、鉄骨詳細図を優先とする。また、詳細図に明示のない部分については、全て本規準図に準拠すること。
- ・本規準に記載のない事項は、「JASS6」「鉄骨工事技術指針」(日本建築学会)による。

(2) 製作一般

- ・選定した鉄骨製作工場は、監理者の承諾を受ける。
- ・鉄骨製作および施工に先立ち、「鉄骨工事施工要領書」を提出し監理者の承諾を受ける。

(3)使用材料

- ・使用材料はJIS規格品または(社)日本建築センターの評定・評価を取得した材料とする。
- ・鋼材の材質表示は、下記の記号または特記による。

材 質	SS400	SN400A	SN400B	STK400	SN490A	SN490B	STK490
記 号	無印	□	ⓑ	無印	○	ⓑ	○

(4) ボルト接合

- ・本締めするボルトと、仮締めボルトとを併用しないこと。
- ・ボルト表示は、下記の記号または特記による。

ボルト径(呼び)	現場HTB	工場HTB	中ボルト
M16			
M20			
M22			
M24			

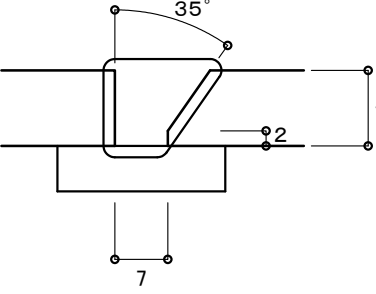
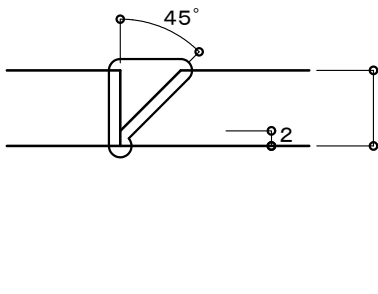
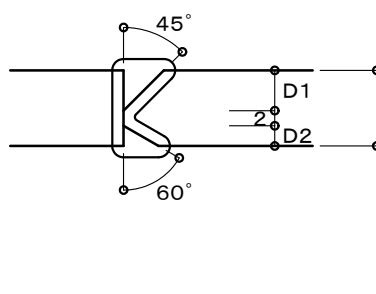
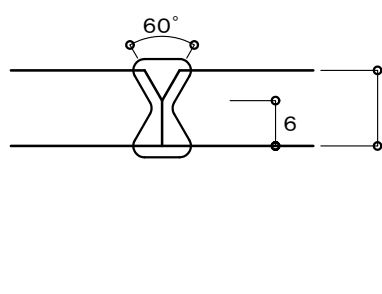
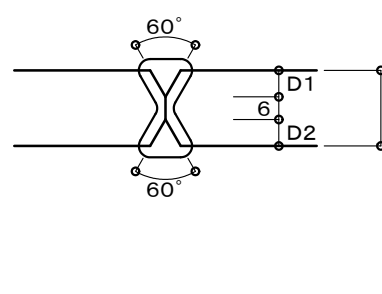
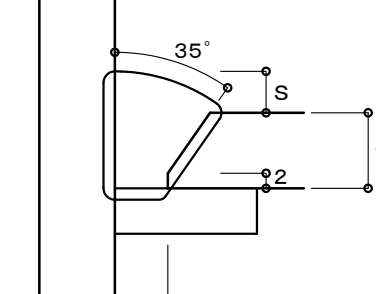
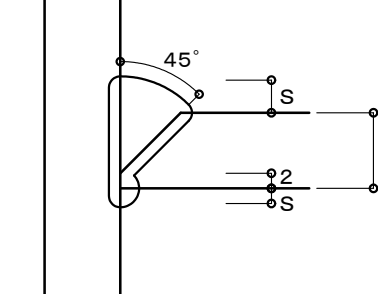
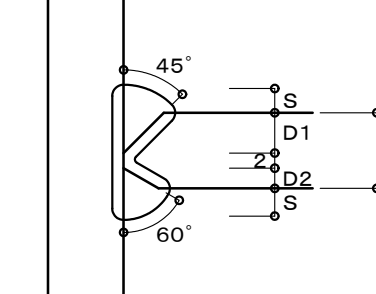
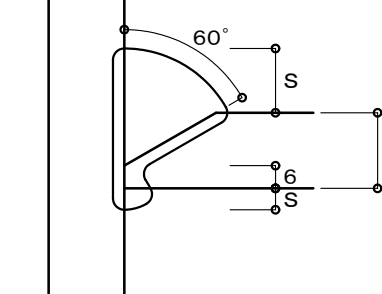
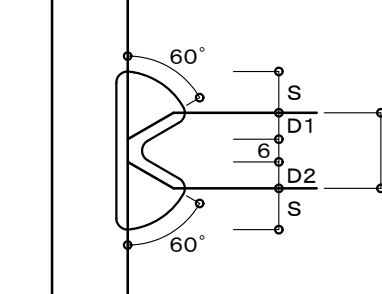
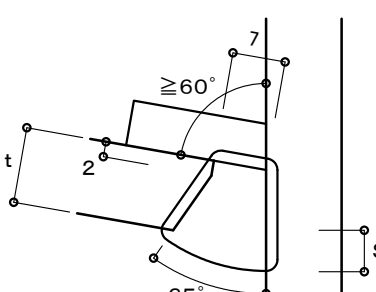
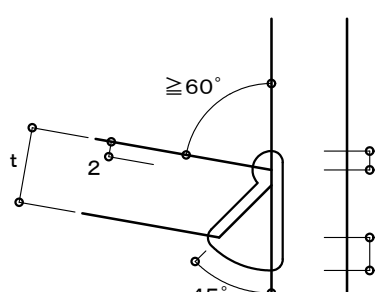
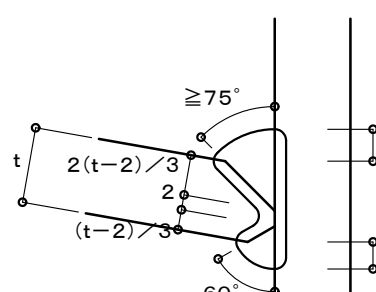
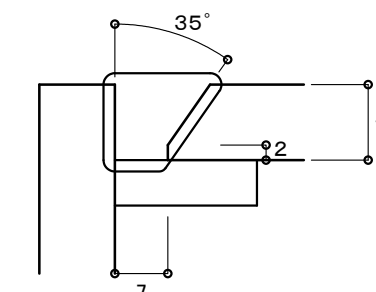
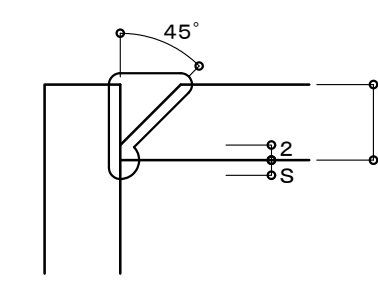
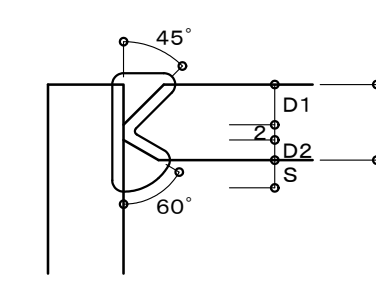
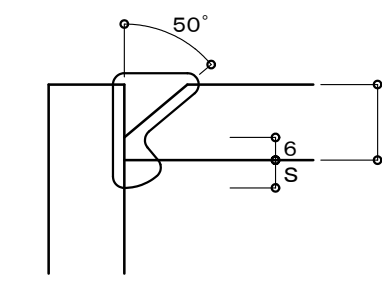
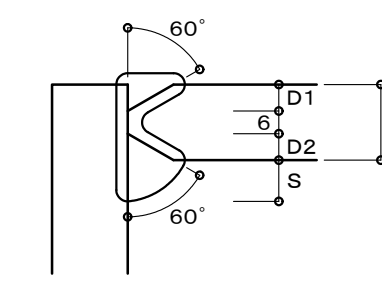
2. ノンスカラップ工法

- ・原則として、ノンスラップ工法とする(ノンスラップ製作要領書を提出すること)。

柱通しタイプ ノンスカラップ工法（工場溶接） 裏当てで金方式	
梁通しタイプ ノンスカラップ工法（工場溶接） 裏ではり方式 裏当てで金方式	

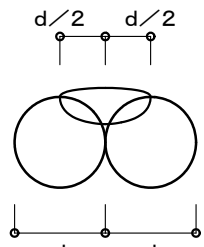
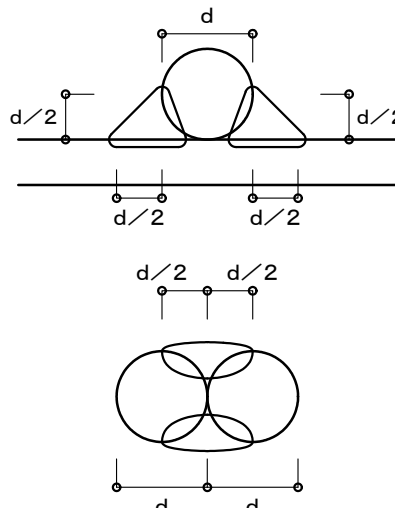
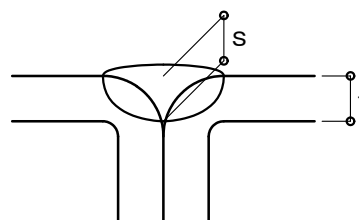
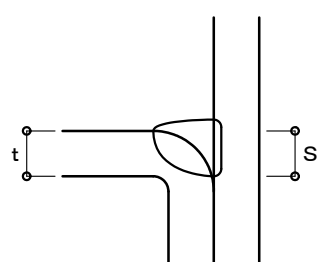
3. 開先規準

(単位:mm)

溶接方法		アーク手溶接			A		サブマージアーク自動溶接		
溶接面		ガスシールドアーク手溶接 セルフガスシールドアーク手溶接							
		1. 片面溶接					2. 両面溶接(裏はつり)		
完全溶込み溶接	B	   $D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$					  $D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$		
	T	   $D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$ $t/4 \leq S \leq 10$					  $D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$ $t/4 \leq S \leq 10$		
	丁継手	   $D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$ $t/4 \leq S \leq 10$							
	L	   $D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$ $t/4 \leq S \leq 10$					  $D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$ $t/4 \leq S \leq 10$		
適用板厚		t ≤ 19					t ≤ 22		
		19 < t					22 < t		

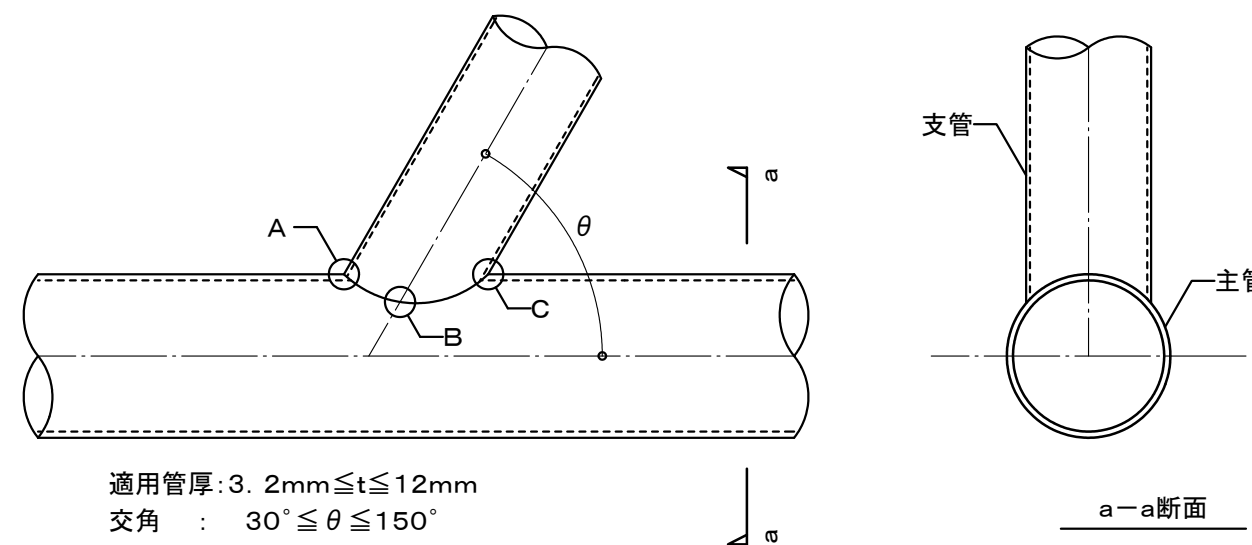
(単位: mm)

溶接面		1. 片面溶接		2. 両面溶接		溶接面		1. 片面溶接		2. 両面溶接																																																			
P						F																																																							
部分溶込み溶接						隅肉溶接																																																							
		<table><tr><td>t</td><td>12</td><td>16</td><td>19</td><td>22</td><td>25</td><td>28</td><td>32</td><td>36</td><td>40</td></tr><tr><td>D</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>15</td><td>16</td></tr></table> $t/4 \leq S \leq 10$		t	12			16	19	22	25	28	32	36	40	D	10	11	12	13	13	14	15	15	16	$D1 = (t-2) / 2$ $D2 = (t-2) / 2$ $t/4 \leq S \leq 10$				<table><tr><td>t</td><td>t<4</td><td>4~7</td><td>8</td><td>9</td><td>10~11</td><td>12</td><td>13~14</td><td>15</td><td>16</td><td>19</td><td>22</td><td>25</td><td>28</td><td>32</td><td>36</td><td>40</td></tr><tr><td>S</td><td>1.5t</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>11</td><td>13</td><td>15</td><td>17</td><td>19</td><td>21</td><td>24</td></tr></table>		t	t<4	4~7	8	9	10~11	12	13~14	15	16	19	22	25	28	32	36	40	S	1.5t	5	6	7	8	9	10	11	12	11	13	15
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40																																																				
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16																																																				
t	t<4	4~7	8	9	10~11	12	13~14	15	16	19	22	25	28	32	36	40																																													
S	1.5t	5	6	7	8	9	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24																																													
適用板厚		$12 \leq t \leq 40$		$16 \leq t \leq 40$		適用板厚		$t \leq 16$		$t \leq 16$		$16 < t \leq 40$																																																	

FL		丸銅等片面溶接	丸銅等両面溶接	軽量形銅V形溶接	軽量形銅/形溶接
フレア溶接					
				$t \geq 3$ の場合 $S = t$ $t < 3$ の場合 $S = 3$	$t \geq 3$ の場合 $S = t$ $t < 3$ の場合 $S = 3$

4. 鋼管分岐継手

・主管の管軸と支管の管軸は一致させること。



(單位:mm)

A 断面	B 断面	C 断面

5. 溶接の製作目標値

・余盛高さおよび完全溶込み溶接T継手の補強隅肉溶接の製作目標値は、下記による。

余盛高さ		補強隅肉溶接	
突合せ溶接	隅肉溶接	T 継手	
B: ビード幅 h: 余盛高さ			
$B < 15$ $0.5 \leq h \leq 3$ $15 \leq B < 25$ $0.5 \leq h \leq 4$ $25 \leq B$ $0.5 \leq h \leq 4B/25$	$0 \leq a \leq 0.4S$ かつ $a \leq 3$	$0 \leq \Delta S \leq 7$ $t \leq 40$ $S = t/4$ $40 < t$ $S = 10$	

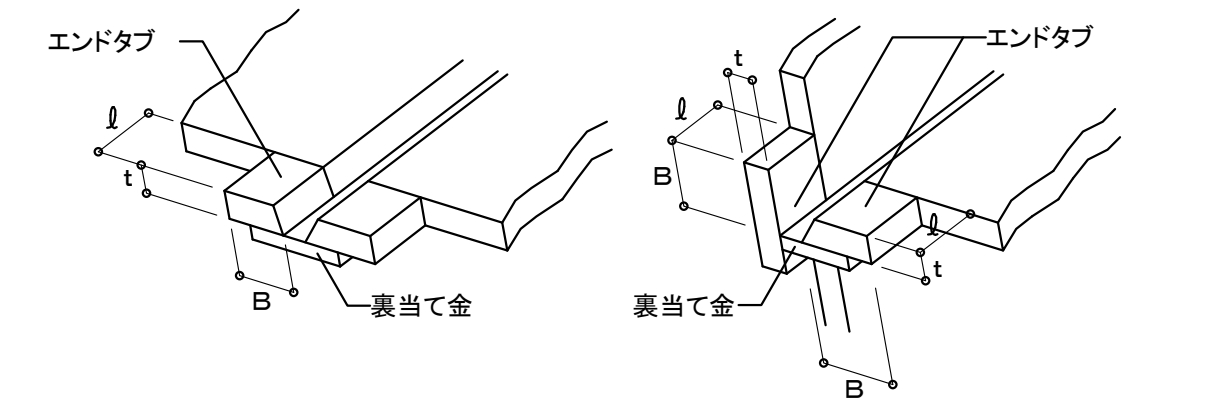
6. 溶接部の寸法許容差

		(単位: mm)
ダイヤフラムとフランジのずれ	突合せ継手の食違い	アンダーカット
ダイヤフラム 柱フランジ 梁フランジ t_1 t_2 t	t e t e	t t e
	$t \leq 15$ $e \leq 1.5$	
	$15 < t$ $e \leq t/10$ かつ $e \leq 3$	
ダイヤフラム 柱フランジ 梁フランジ t_1 t_2 t	通しダイヤフラム 柱 梁フランジ t e	
$t_1 \geq t_2$ $e \leq t/1.5$ かつ $e \leq 4$		$e \leq 0.3$
$t_1 < t_2$ $e \leq t/1.4$ かつ $e \leq 5$	フランジはダイヤフラムの厚み内で溶接する。	ただし、上記の数値を超え1mm以下の 場合、溶接長の1/10以下であり断面 が鋭角的でないものは許容できる。

・溶接部の寸法許容値を超える部分がある場合には監理者と協議後「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル：建築研究所監修」により補強を行うこととする。

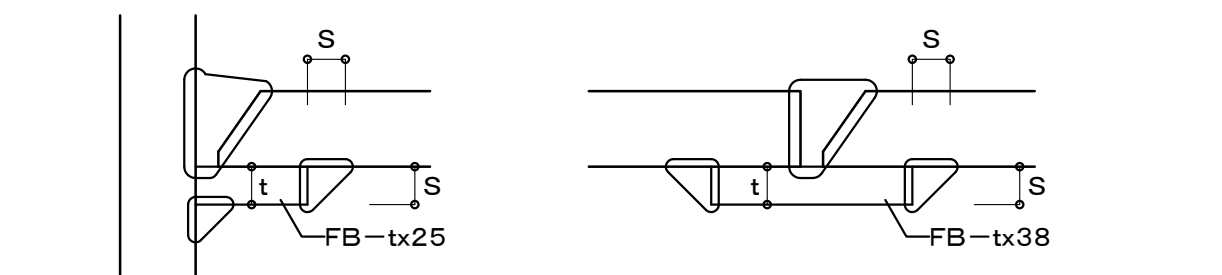
7. エンドタブ・裏当て金および裏はつり

- ・完全溶込み溶接は原則として、エンドタブを使用する。ただし、回し溶接等により健全な溶接部が得られると認められる場合は、省略することができる。
- ・鋼製エンドタブおよび裏当て金の材質は、母材と同等以上のものを用い、エンドタブの寸法形状は下記を標準とする。



溶 接 方 法	エ ン ド タ ブ		
	↓	B	t
手 溶 接	35以上	30～50	母材と同厚
半 自 動	38以上		
自 動	70以上		

- ・片面溶接に用いる裏当て金の溶接は、下記要領で補強隅肉溶接を行なう。

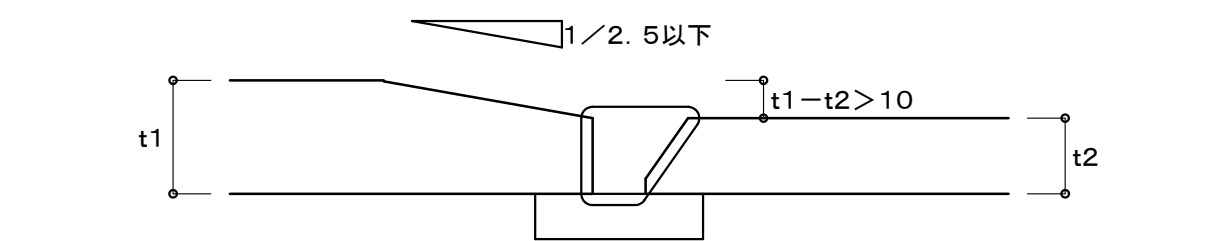


裏当て金の厚さ (単位:mm)		溶接のサイズ (単位:mm)	
溶 接 方 法	t	裏 当 て 金 の 厚 さ	S
手 溶 接	6以上	t≤9	5
半 自 動	9以上	9<t	9
自 動	12以上		

- ・完全溶込み溶接における両面溶接は、原則として裏はつりを行なう。
- ただし、自動溶接において、完全溶込みが超音波探傷試験等で確認できる場合は、裏はつりを省略することができる。

8. 溶接部分の段差

- ・突合せ継手において、突合せる部材の板厚の差が10mmを超える場合は、表面の形が緩やかに移行するように余盛をする。

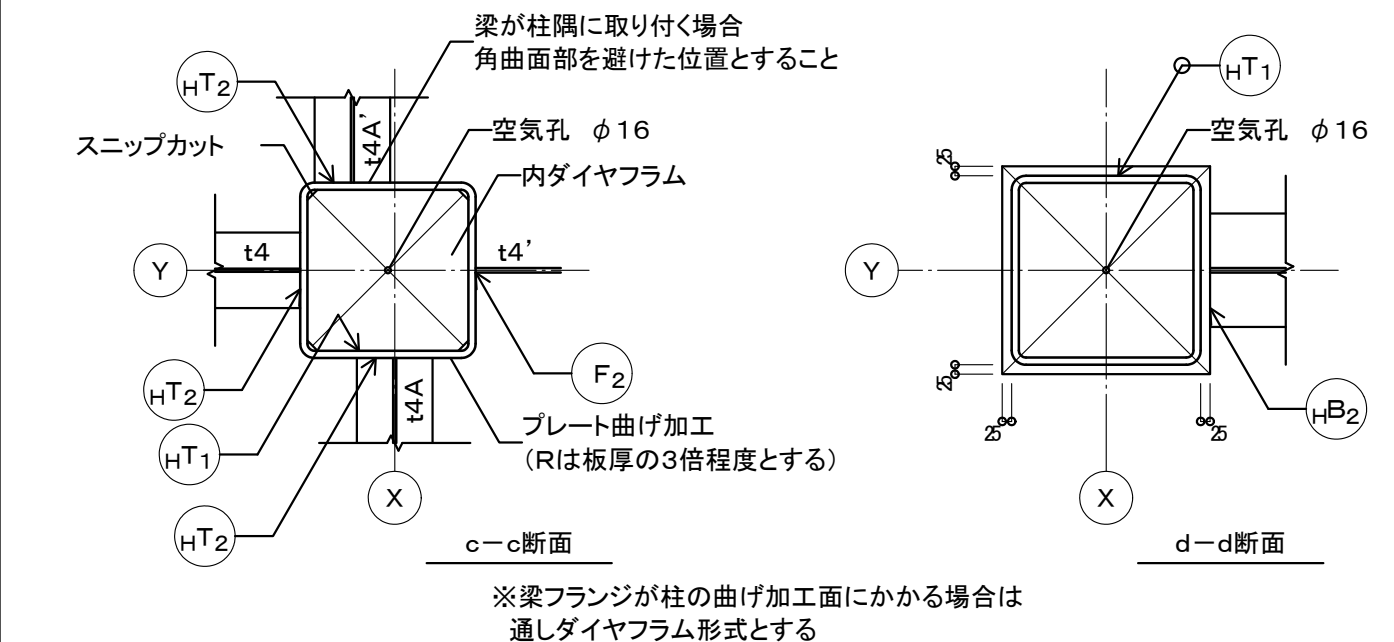
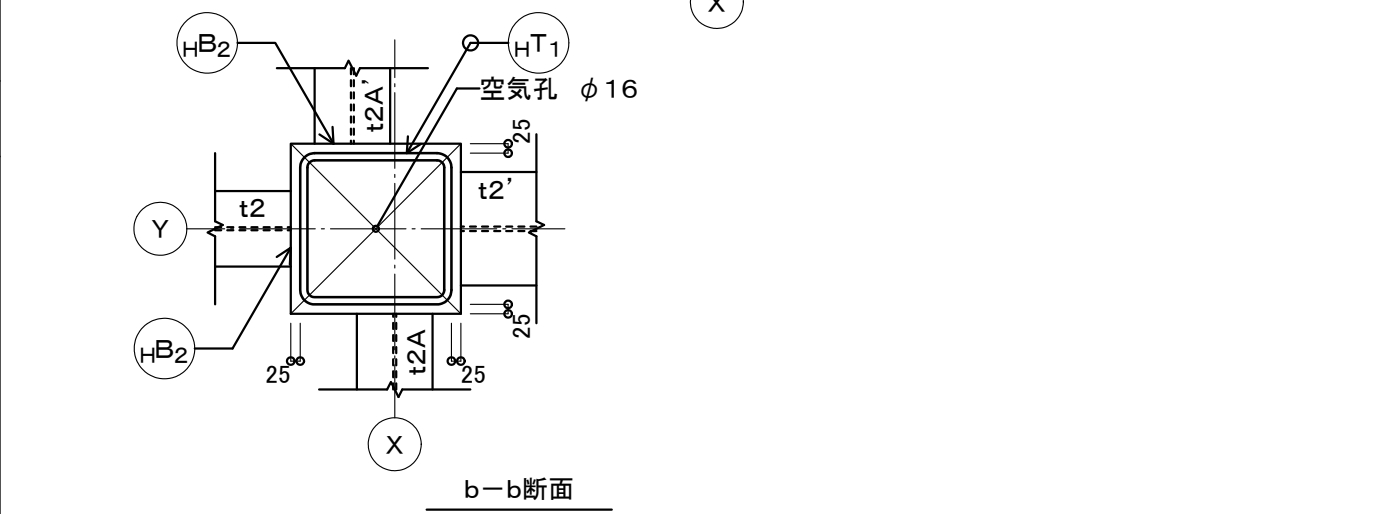
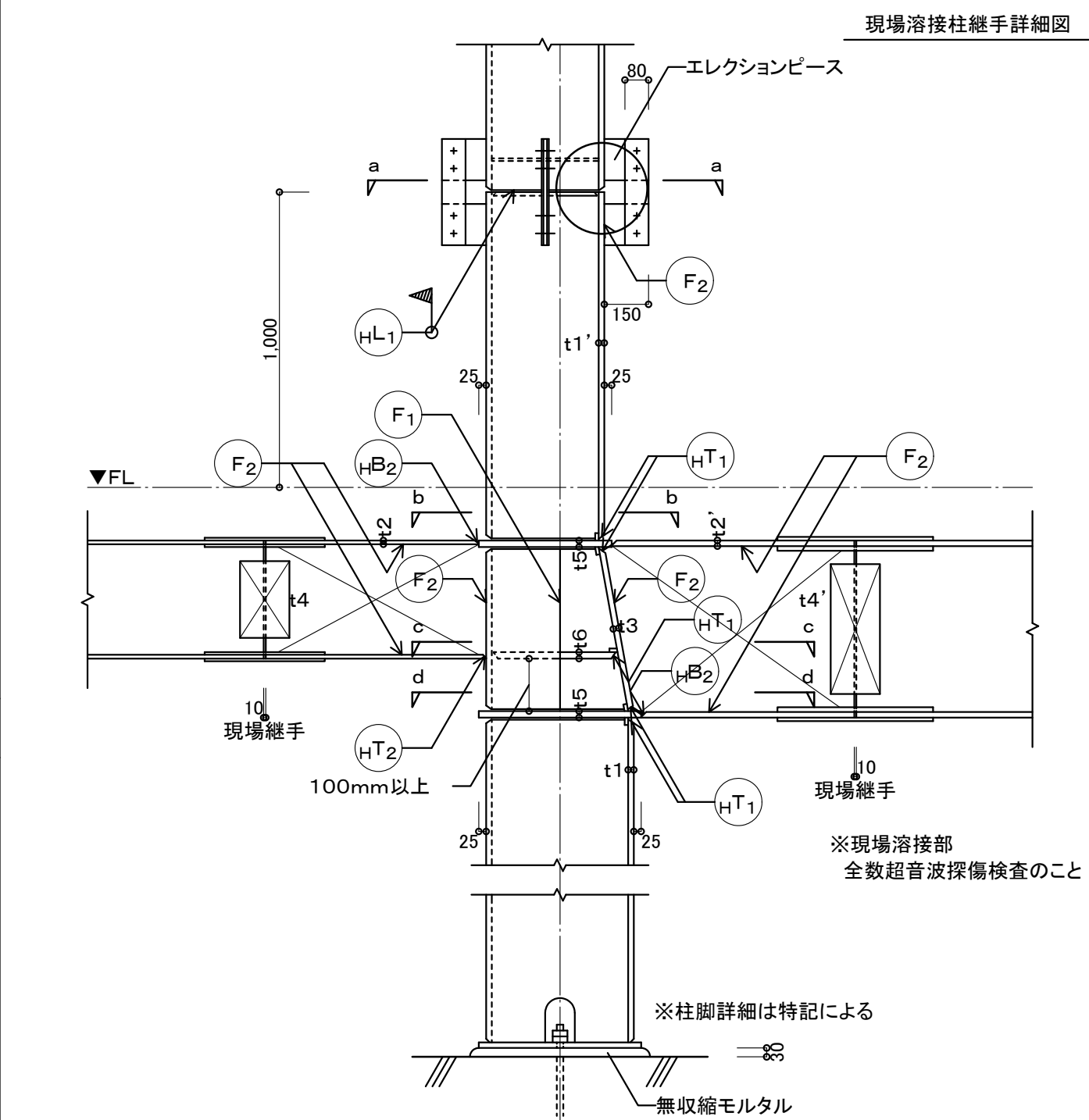
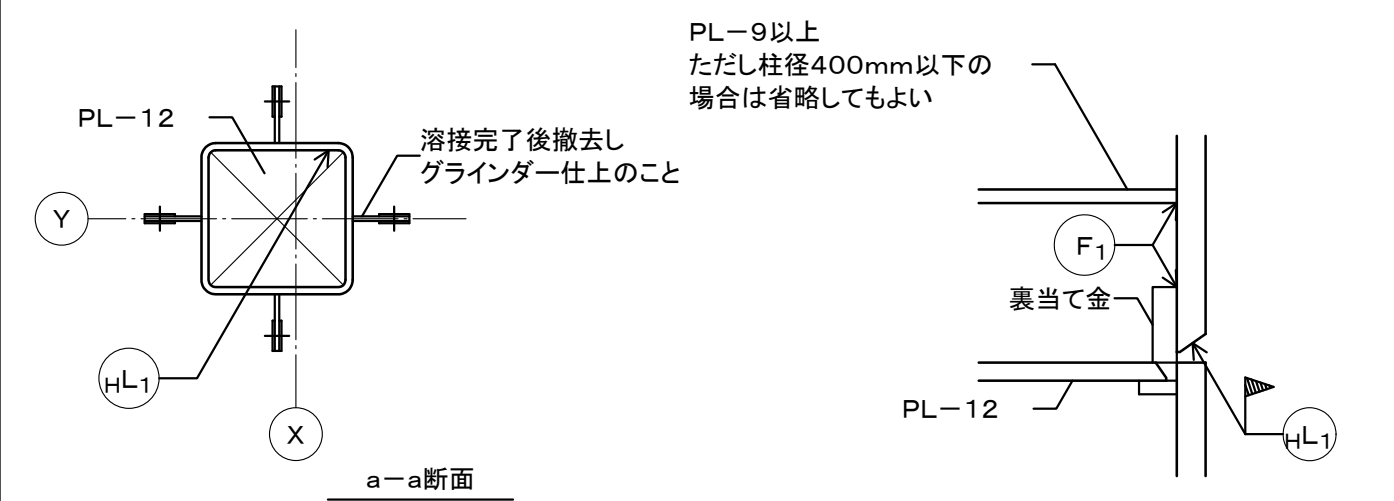


9. その他溶接加工一般

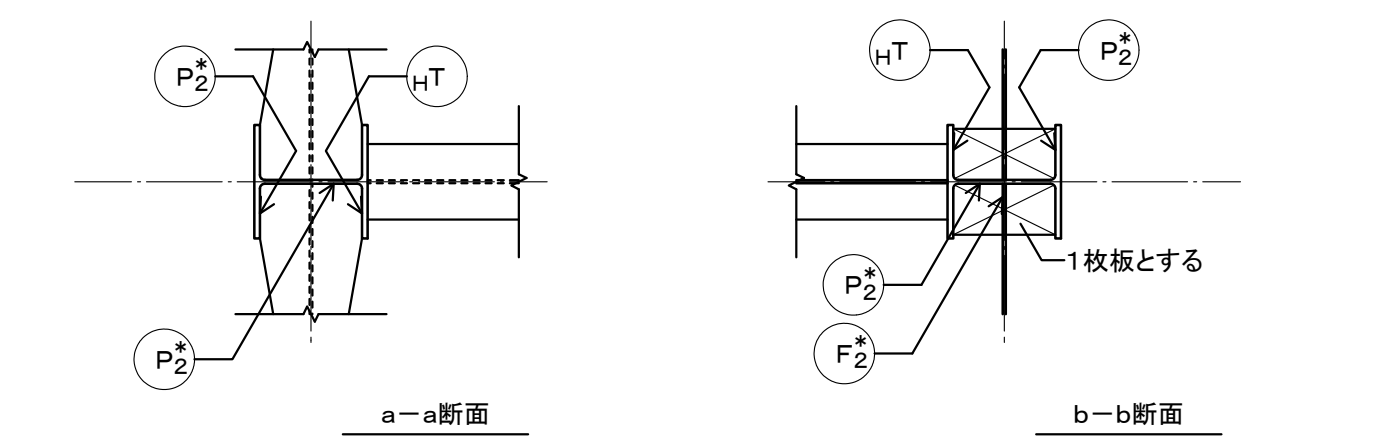
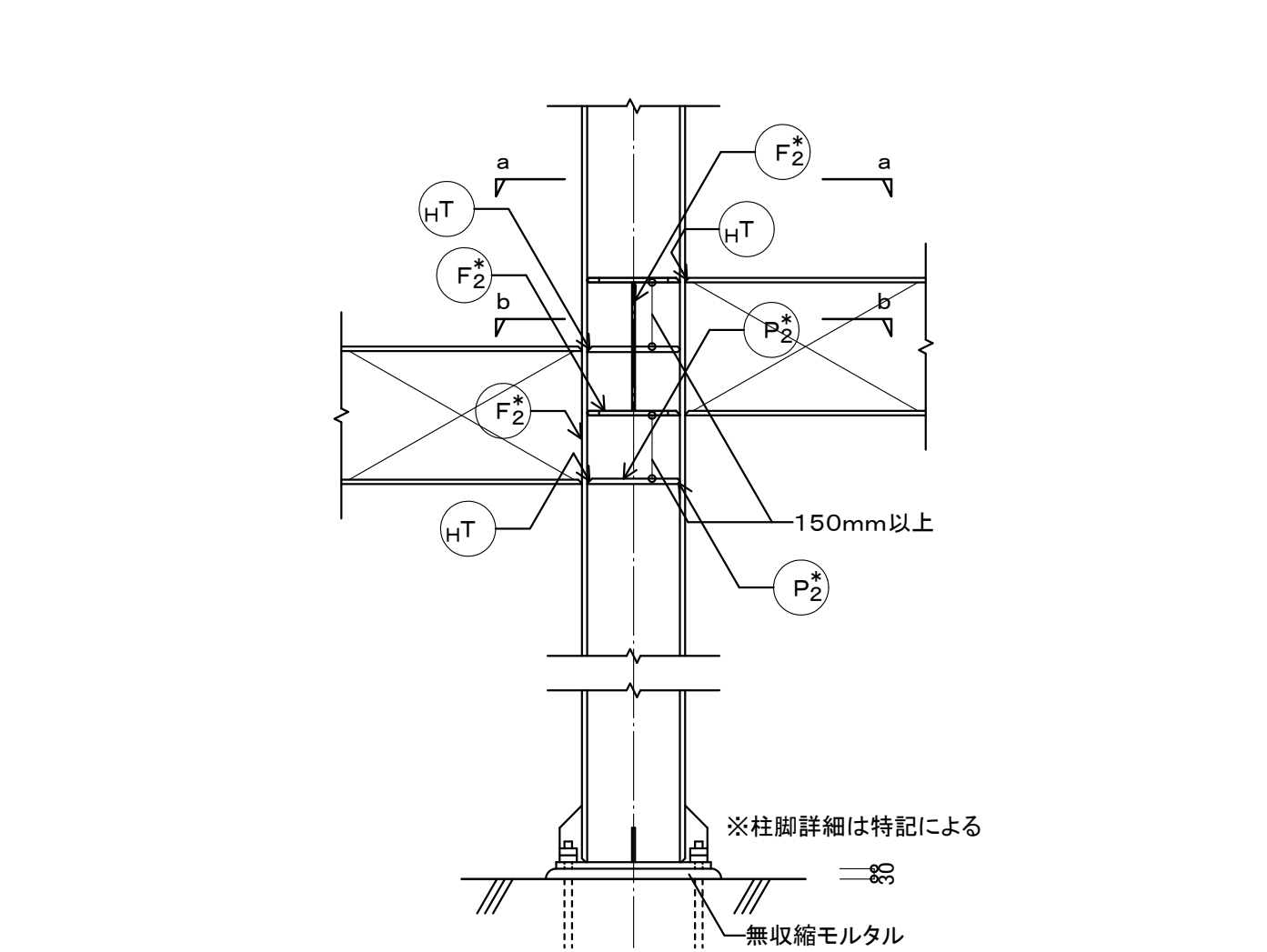
- ・組立溶接のビートの間隔は、300mm～400mm程度とする。
- ・やむを得ず開先内に組立溶接を行わなければならない場合は、本溶接後の品質が十分に確保できる方法とする。
- ・溶接は適当な工具を使用し、原則として下向きで行う。
- ・溶接部は溶接に先立ち、水分・油・スラグ・塗装・錆等の溶接に支障となるものを除去する。ただし、溶接に支障のないミルスケールおよび塗料は除去しなくてもよい。
- ・溶接棒は常に乾燥した場所に保管し、必要に応じ乾燥器に入れ乾燥させる。
- ・溶接による変形や収縮については、なるべくこれを少なくするように適切な対策を立て、出来上がり寸法・形状を正確に保つようにする。
- ・隅肉溶接の端部は回し溶接を行う。
- ・工事現場においては母材をいためるような仮設ベース等の取付溶接は行わない。

10. 仕口部の溶接

- ・材質は、取り付く梁フランジ材および柱材のうち、強度および溶接性の最も優れたものと同等以上のものとする。
- ・板厚は以下の通りとする。
 - t3: 上下の柱材の板厚 (t1・t1') 以上で、かつ寄り合う梁のウェブ板厚 (t4・t4A) 以上とする。
 - ただし、段違い梁が取り付く場合は、上記かつ梁フランジ板厚 (t2) 以上とする。
 - t5: 寄り合う梁フランジ板厚 (t2・t2A...) のうち最大の板厚の2サイズアップでかつt3以上とする。
 - t6: 寄り合う梁フランジ板厚1サイズアップでかつt3の板厚の1サイズアップ以下とする。



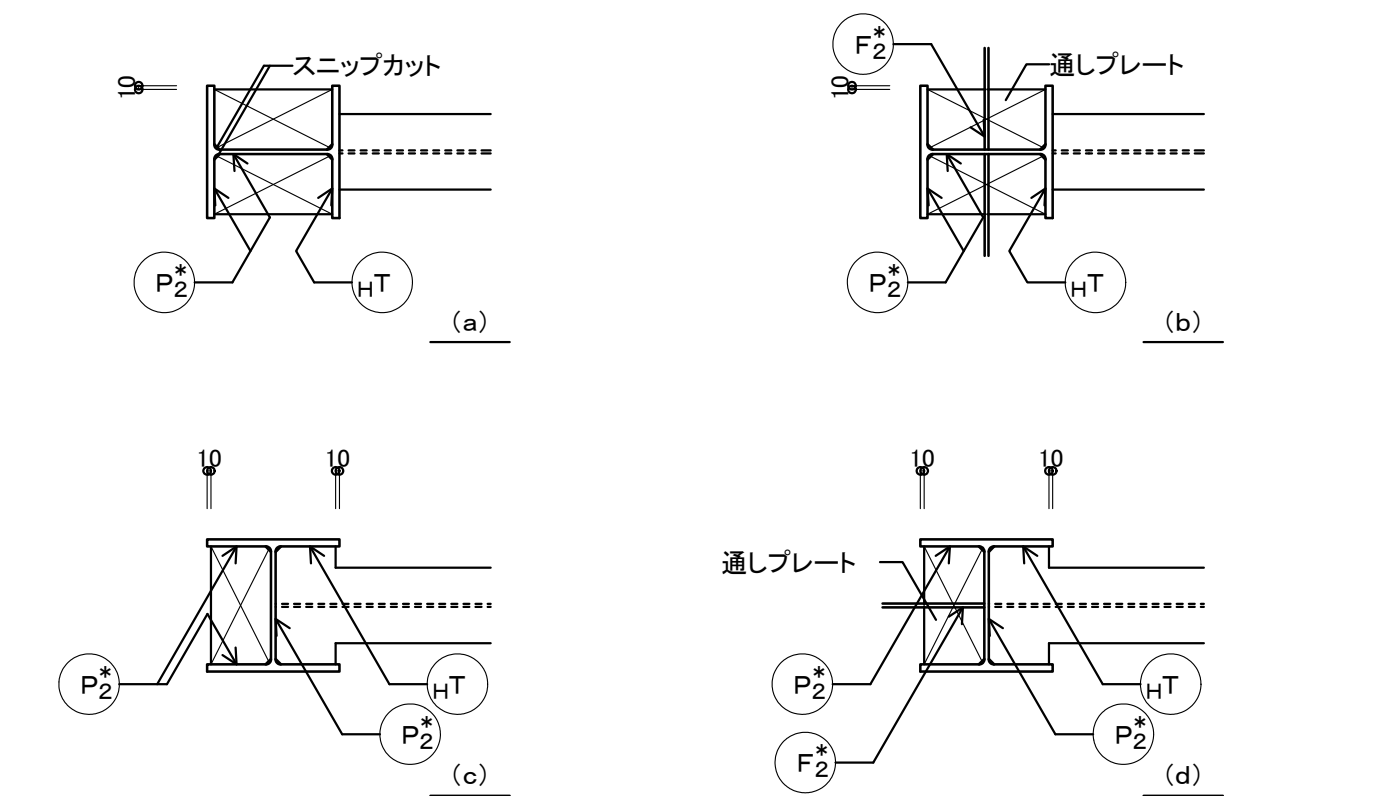
11. 仕口部の溶接 (H形鋼)



- F2 * : ウェブ厚が16mm以上のものについてはP2とする。
- P2 * : 水平スチフナ厚が12mm以下の場合はF2とする。

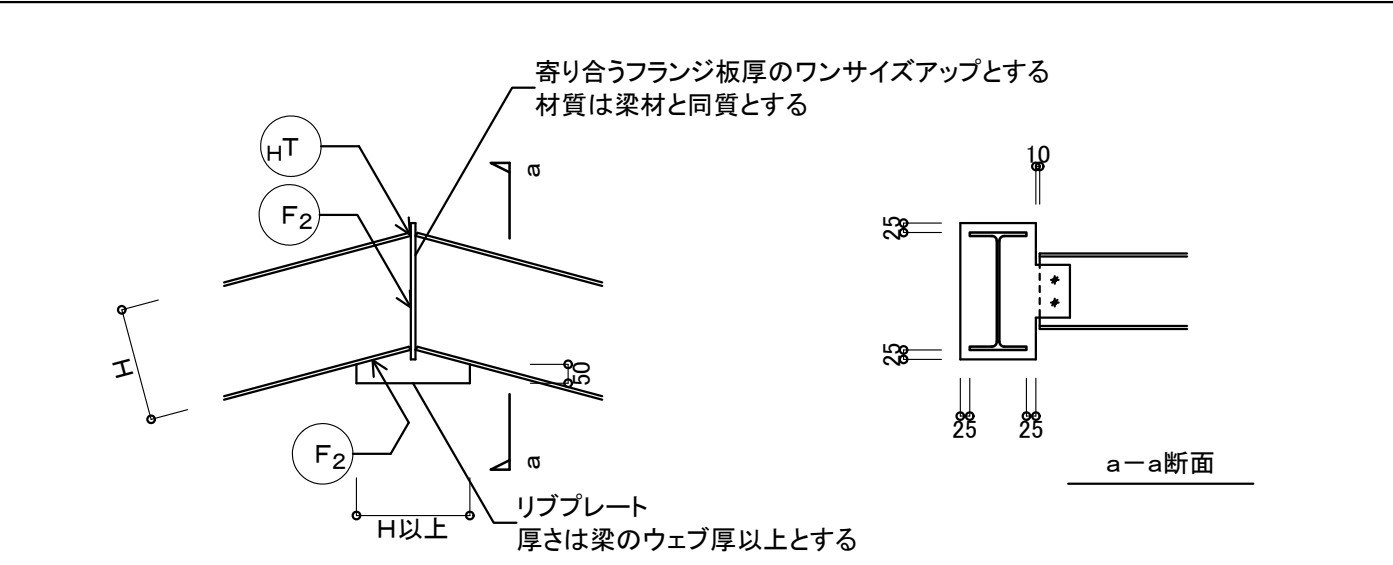
12. 水平スチフナ

- 仕口部に設ける水平スチフナの形状および大きさは下記を標準とする。材質は梁フランジ材と同一のものとし、板厚は梁フランジ厚以上とする。



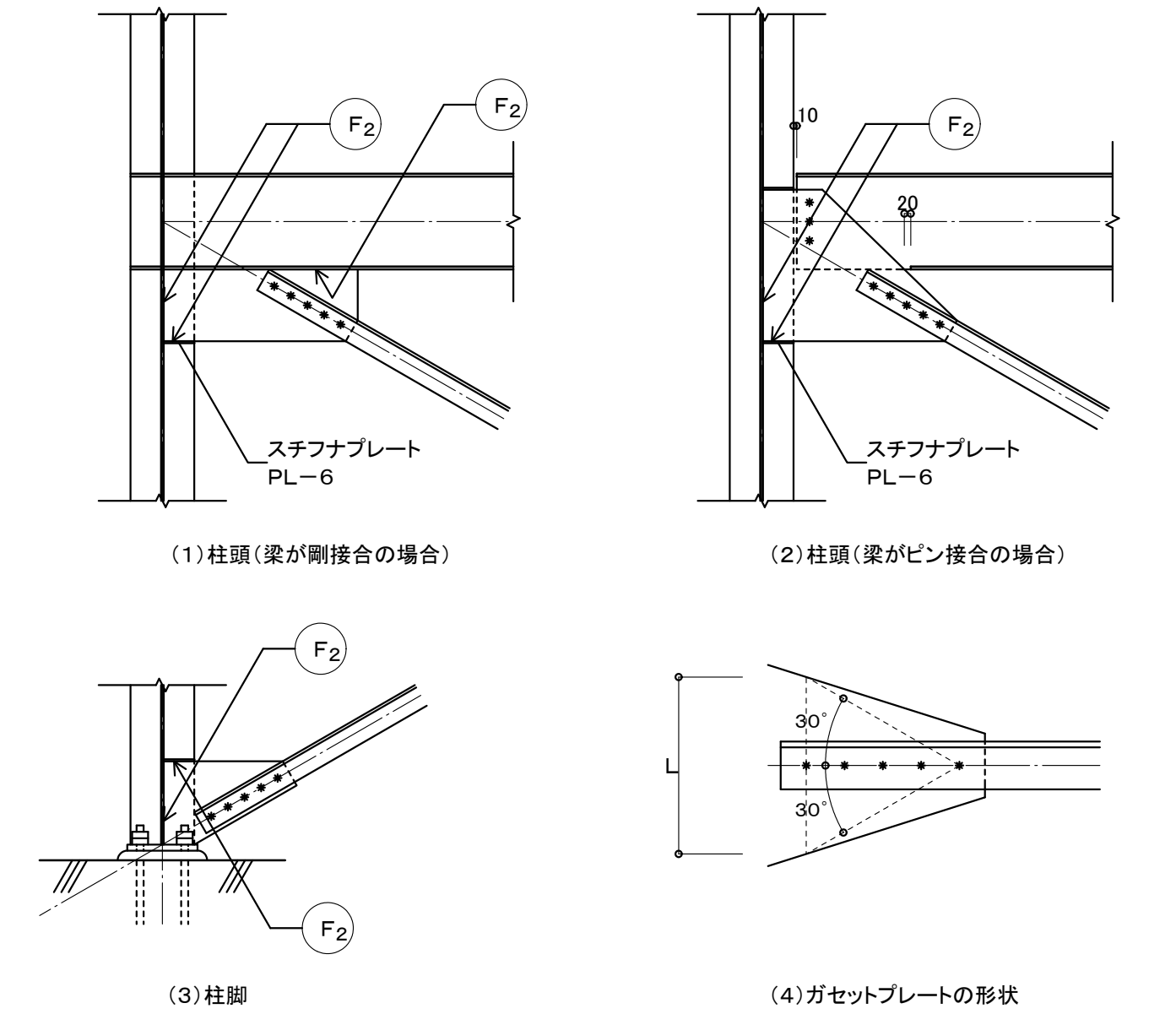
- F2 * : ウェブ厚が16mm以上のものについてはP2とする。
- P2 * : 水平スチフナ厚が12mm以下の場合はF2とする。

13. 山形ラーメン棟部分



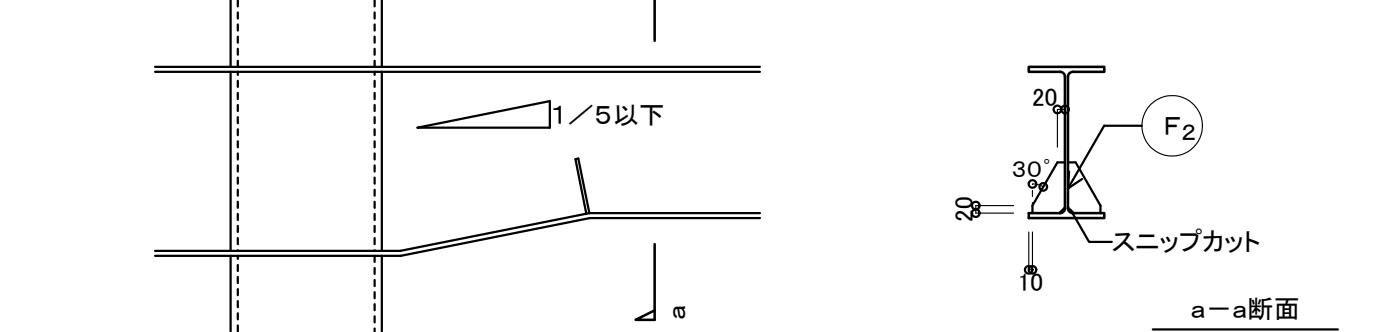
14. 鉛直ブレース仕口

- ・柱、梁およびガセットプレートの部材芯は、原則として一致させる。
- ・ガセットプレートの幅は、材端ボルト位置で図(4)に示すLの長さを確保することを原則とする。



15. 梁ハンチ

- ・梁にハンチを設ける場合は、下図のリブプレートを設置する。材質、板厚は梁ウェブと同じとする。



16. 梁貫通孔の補強

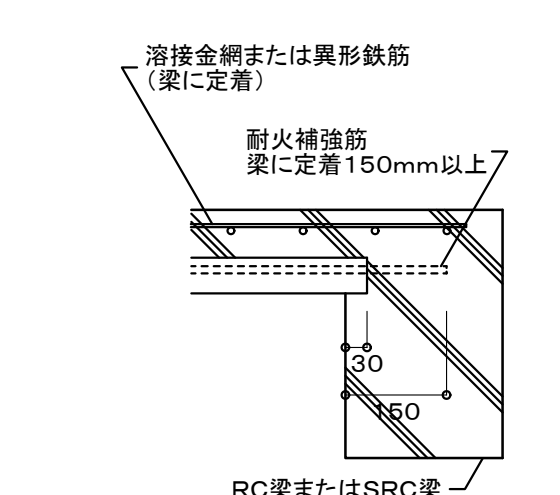
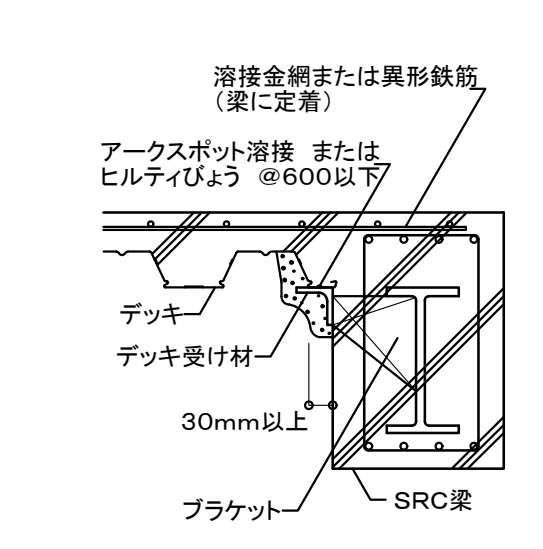
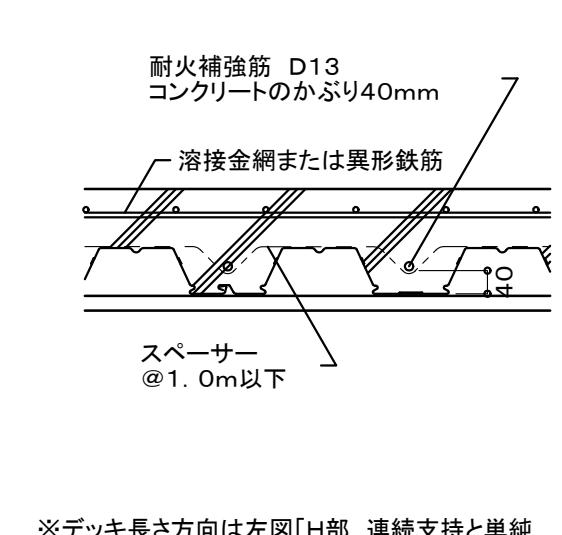
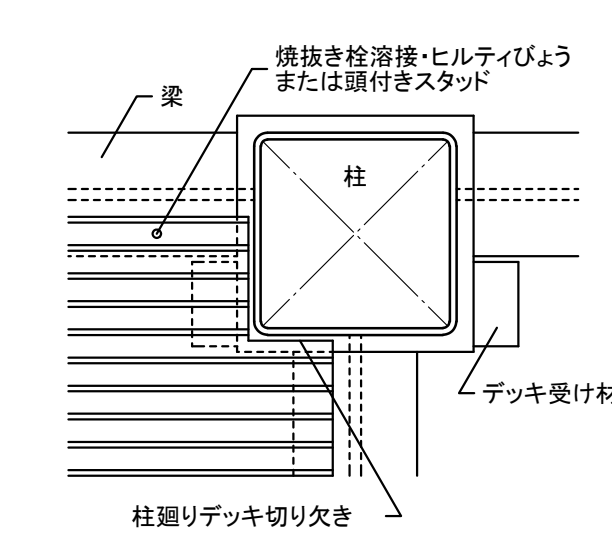
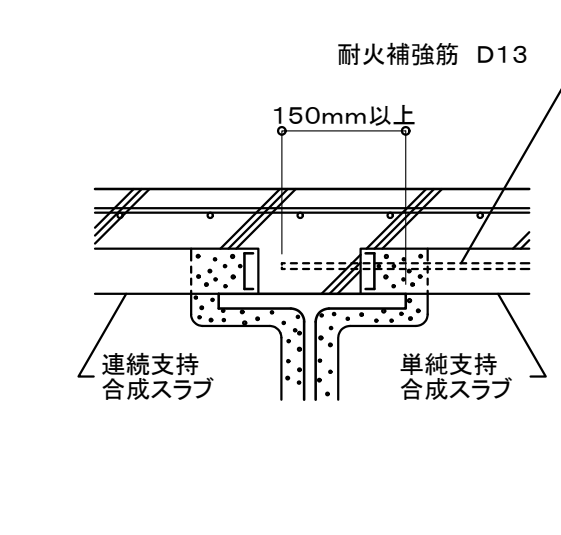
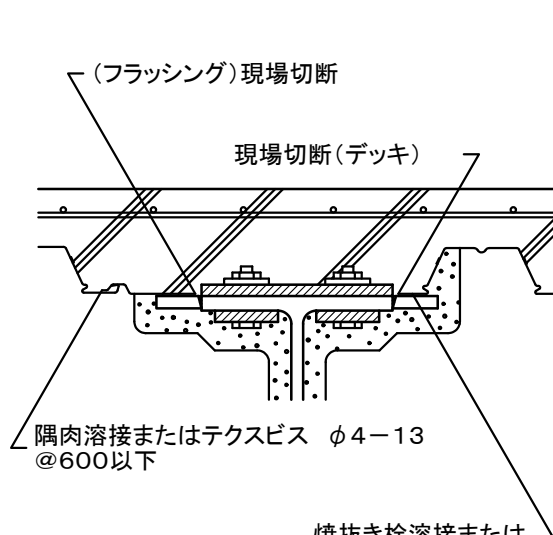
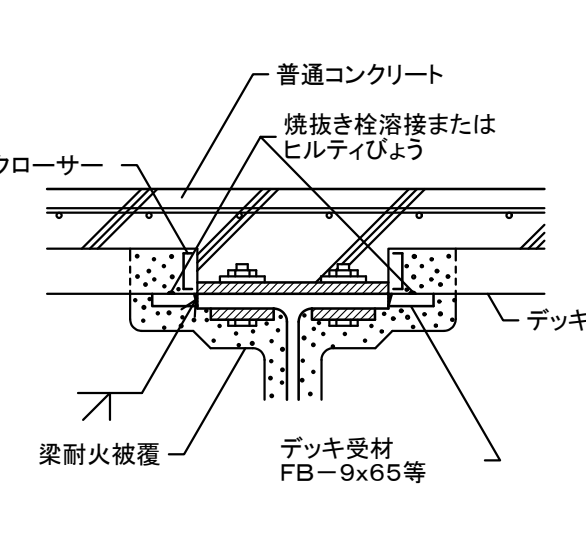
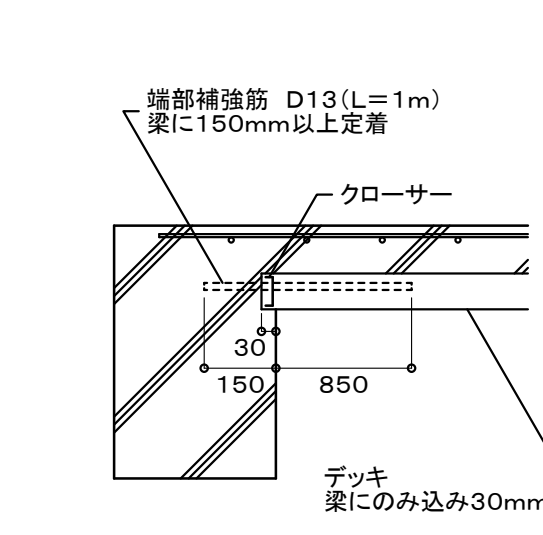
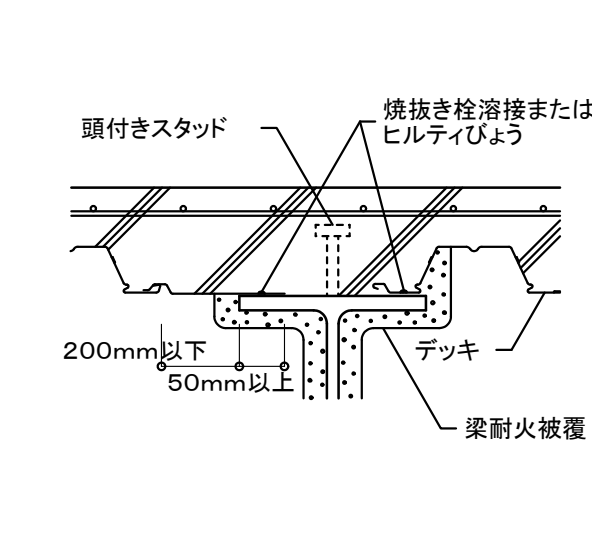
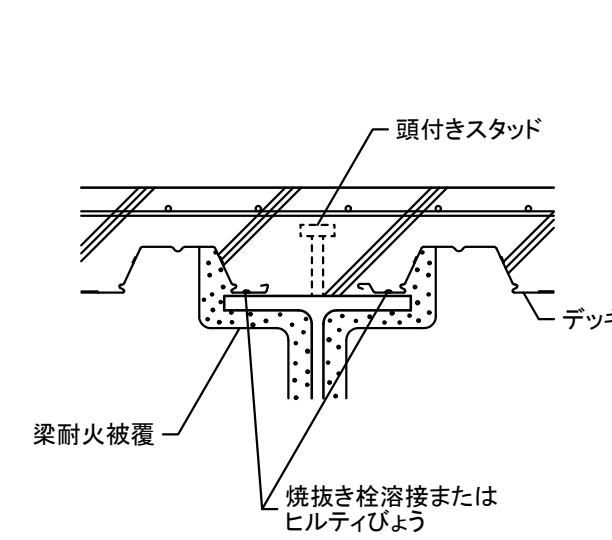
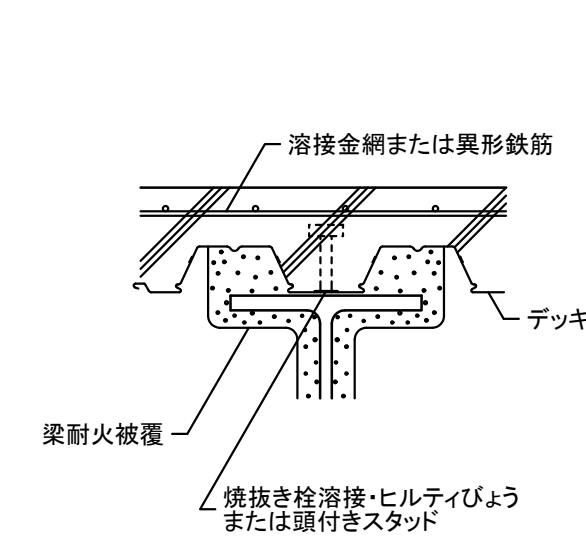
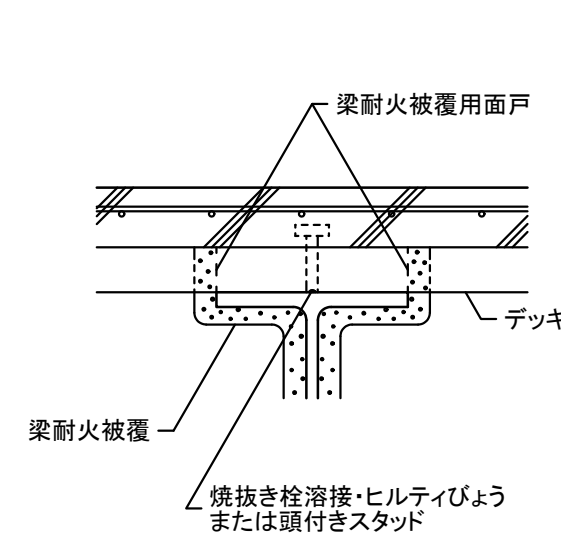
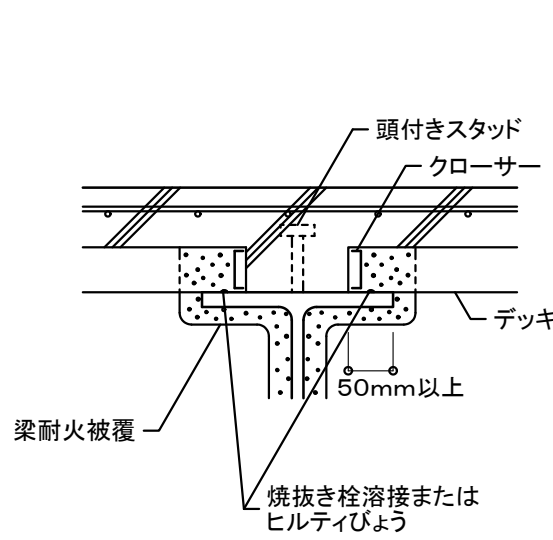
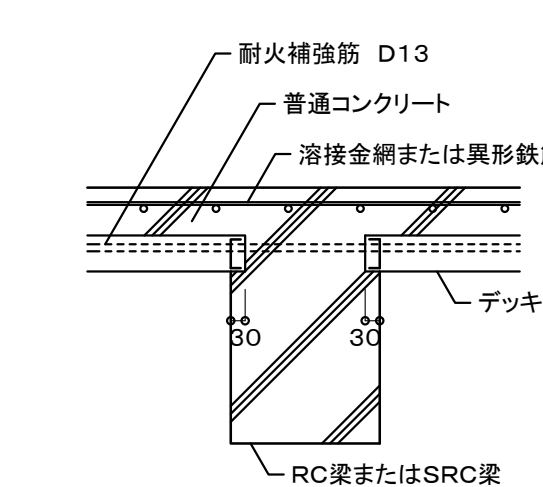
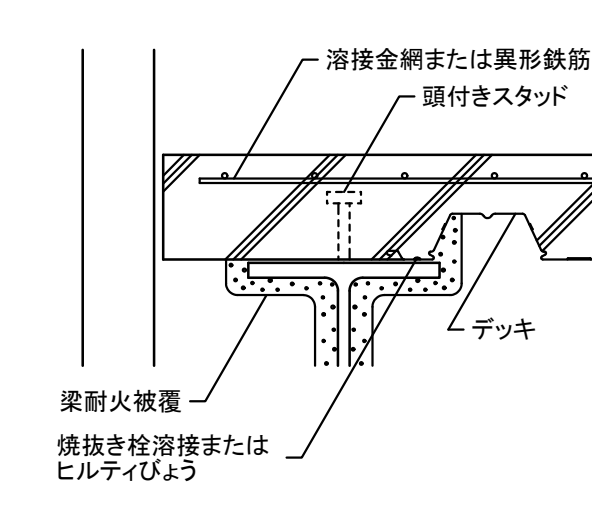
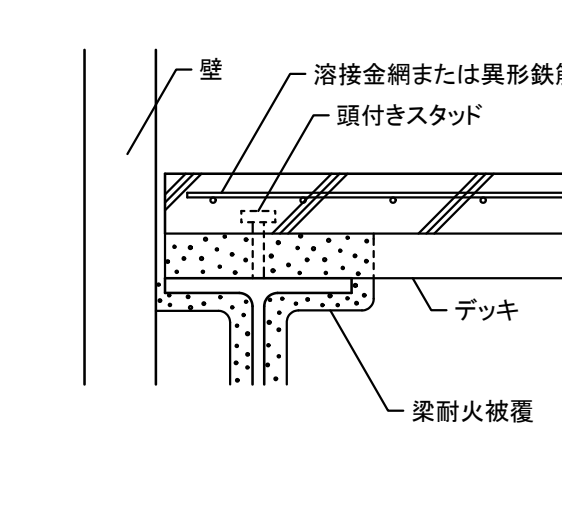
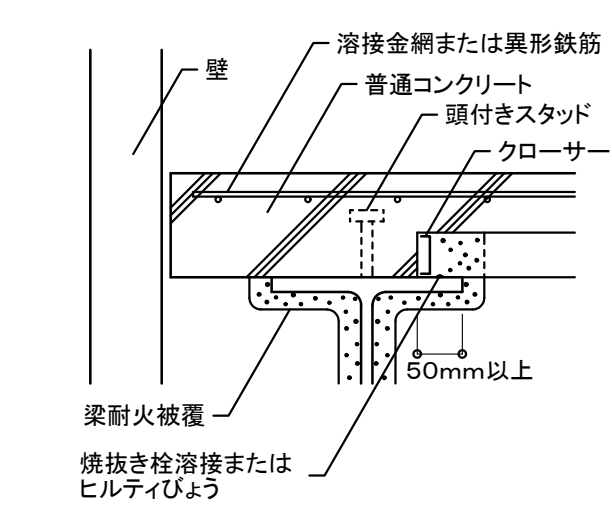
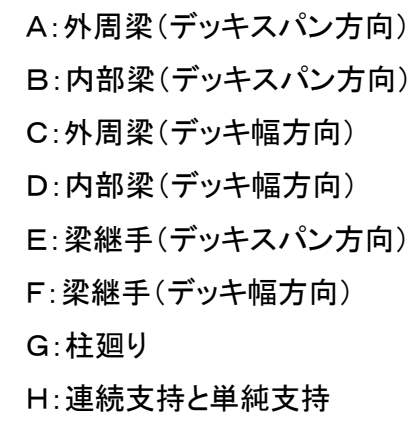
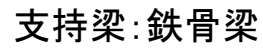
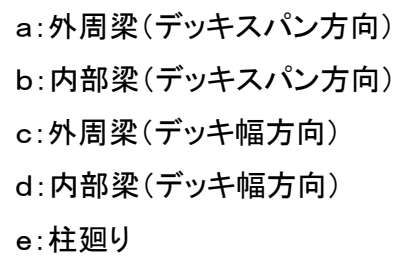
- ・梁貫通孔の内径寸法 φはH/2 (H: 鉄骨せい) 以下とする。
- ・梁貫通孔位置は、原則として中心位置を柱面より2H+φ/2以上離すこと。
- ・梁貫通孔のピッチは、隣り合う貫通孔の平均径の3倍以上とする。
- ・梁貫通孔の補強方法は、原則として補強プレート法とする。
- ・補強を既製品 (認定品) を使用してもよい。その場合は監理者の承諾を得ること。

貫通孔径 φ	補強PL				箇所数
	ウェブ厚さ	補強板厚	幅 L1	高さ L2	
100	6以下	片面 6	250	250	-
150			350	350	-
200			450	450	-
250			550	550	-
300			650	650	-
350	13～18	両面 9	750	750	-
400			850	850	-
450			950	950	-

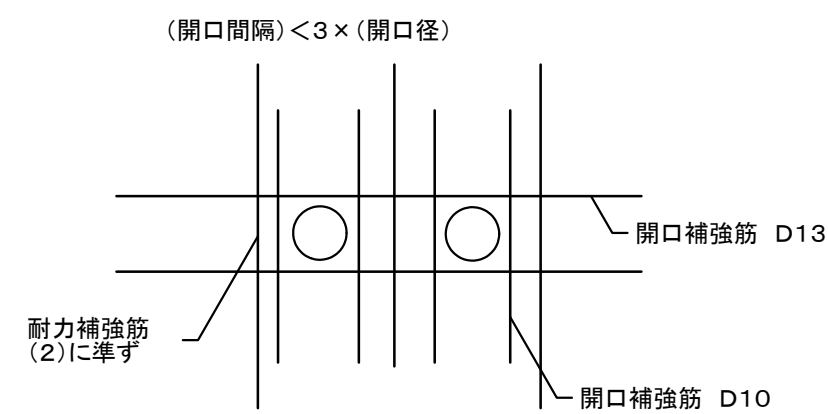
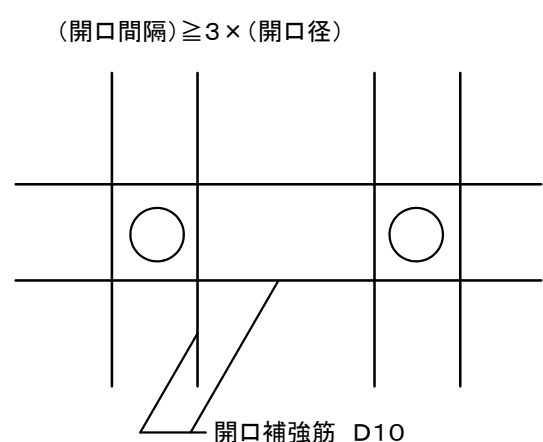
- ※上記の規定を満たさないものは、補強トラス法による。
- (注)・L1は3φまたはL2のうち小さい方とする。
- ・L2は図示寸法とする。
- ・補強プレートの厚さは特記による。
- ・補強プレートの厚さが16mm以上となる場合は、必要な厚さの1/2の補強プレートを、ウェブ両面から溶接する。
- ・鉄骨のひずみ矯正上、材端の補強プレートとの間隔eはe≥Hとすることが望ましい。
- ・補強プレートは丸形としてもよい。また、上下フランジとのあき (50mm) については、施工性を考慮し小さくすることができる。

合成デッキ標準図

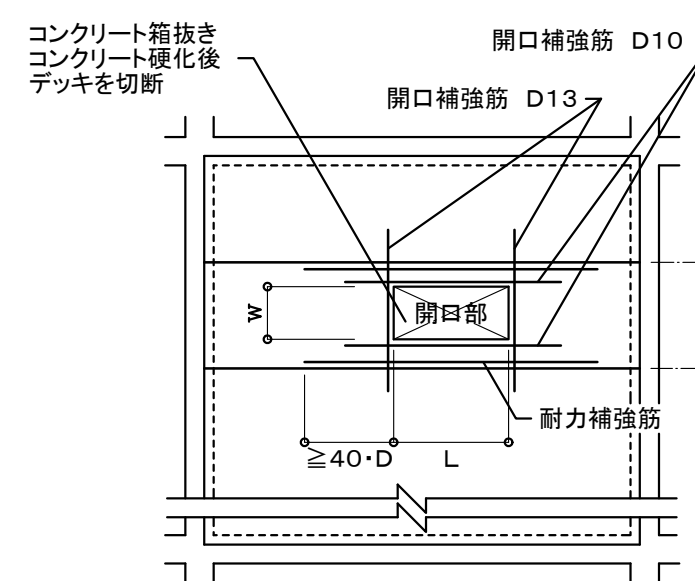
支持梁:鉄筋コンクリートおよび鉄骨鉄筋コンクリート梁



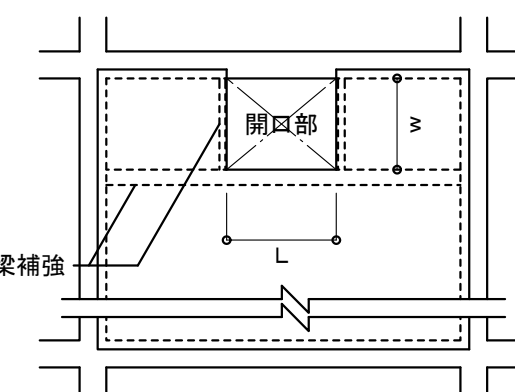
(1)開口がφ150程度の場合



(2)W:600mm以下 L:900mm程度以下



(3) $W > 600\text{mm}$ の場合



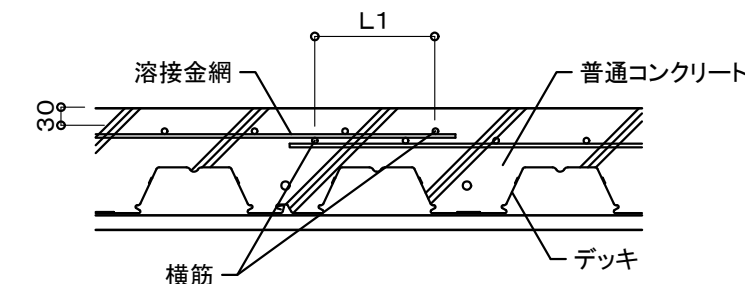
M: 開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント

耐火補強筋 $ad=1.27 \times (1+n/2) \text{cm}^2$ (單純支持)

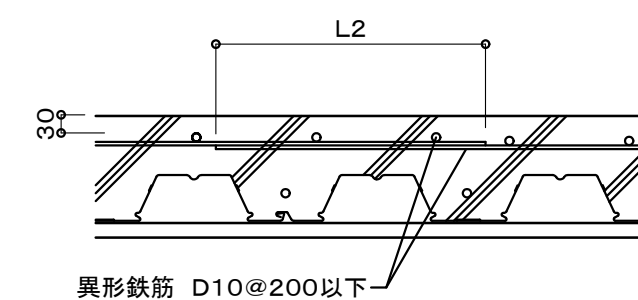
耐力補強筋 $a_t = M / (f_t \cdot j) \text{ cm}^2$

n:切断された耐火補強筋の本数

- ・コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようにレベル保持し、全面に配筋する。
- ・溶接金網の重ね代L1:1メッシュと50mm以上
 - φ6-150x150:200mm以上
 - φ6-100x100:150mm以上



- ・異形鉄筋の重ね代 $L \geq 45D$ 以上



工事

图面名称	
------	--

合成デッキ標準図

図面尺度	
------	--

日付

区分

図面番号

構造

S-009

セレクトベース

角形鋼管

□-350×350 ～ □-1000×1000 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0314-02」(2021年11月19日付)

セレクトベース柱脚工法 設計施工標準図

2024年10月作成

5. 工場製作(溶接)

1. 工法概要

1.1 構成部材

角形鋼管

角形鋼管

角形鋼管

レベルモルタル
(セレクトベースグラウト)

レベルモルタル
(セレクトベースグラウト)

レベルモルタル
(セレクトベースグラウト)

SB 異形アンカー

SB 異形アンカー
① SB 異形アンカー
② SB 丸鋼アンカー
③ SB Dナット
④ SB Dナット(S)
⑤ SB 丸鋼ナット
⑥ SB 位置決めナット
⑦ SB 注入座金
⑧ セレクトベースグラウト
(グラウト材)
⑨ SB ポスト付き定着板

SB 丸鋼アンカー

SB 丸鋼アンカー
⑩ SB 連結定着板
⑪ SB 定着板
⑫ SB 定着ベルト
⑬ テンプレート
⑭ 丸鋼ナット
⑮ フレームベース
⑯ SB ベルト受け金物
⑰ 振れ止め金物
⑱ ステコンアンカー
⑲ ベースプレート

(注)上記 ① ～ ⑬、⑯、⑰の構成部材はセレクトベース構成部品として供給される。
(注)上記⑭ ～ ⑰は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要

グラウトロー

グラウト材

注入栓
(技術等)

シール

2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
	SHC400	
	BCR295	
295	JBCR295	
	TSC295	
	BCP325	
	STKR490	
325	SHC490	
	BSH325	
365	UBCR365	
385	JBCR385	

(注)組立柱は適用外

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

●材質 TMCP385B 【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
●形状寸法 各寸法は、各仕様毎に「セレクトベース柱脚工法設計ハンドブック」に記載の値とする。

形状(イ)

形状(ロ)

形状(ハ)

3.2 アンカー用ボルトセット【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

3.2.1 アンカーボルト

面取り

面取り

面取り

呼びd L 基準強度(N/mm²)

M45 1050 140 580

D38H 855 490

D41H 1050 490

D51L 1175 390

D51H 1285 490

呼びd L b 基準強度(N/mm²)

M48 1100 140 580

M52 1195 155 580

M58 1275 160 580

M60 1350 170 580

M64 1430 175 580

3.2.2 ナット

呼びd A A1 B (e) d₁ d₂

呼びd A A1 B (e) d₁ d₂

呼びd A A1 B (e) d₁ d₂

呼びd A A1 B (e) d₁ d₂

呼びd A A1 B (e) d₁ d₂

M45 38 27 70 51 59

M48 38 29 75 57 59

M52 42 31 80 59 59

M58 45 34 85 68 74

M60 48 36 90 104 74

M64 51 38 95 110 74

3.2.3 SB 注入座金

呼びG a c t Φd1

呼びG a c t Φd1

呼びG a c t Φd1

呼びG a c t Φd1

呼びG a c t Φd1

4D35-6 100 40 35 6

4D38-6 125 43 50 6

4D41-6 125 48 50 6

4D51-6 125 58 50 6

4M45-16 125 60 55 16

4M52-19 150 60 71 19

4M58-22 150 75 71 22

4M60-22 150 75 71 22

3.3 定着部材

3.3.1 SB 定着ベルト

呼びE F t2

呼びE F t2

呼びE F t2

品名 E F t2

35-BH35 580 380 10.5

35-BH38 590 390 10.5

35-BH41 590 370 10.5

40-BH35 630 410 10.5

40-BH38 630 410 10.5

40-BH41 640 420 10.5

45-BH35 680 460 10.5

45-BH38 690 470 10.5

45-BH41 690 470 10.5

50-BH38 740 530 10.5

50-BH41 750 530 10.5

50-BL51 790 550 10.5

50-BH51 790 550 10.5

50-BM52 810 550 9.0

55-BH41 850 580 10.5

55-BL51 840 600 10.5

55-BM52 860 600 9.0

55-BM60 880 610 9.0

60-BM45 870 630 13.5

60-BM52 910 650 9.0

60-BM60 940 660 9.0

60-BM64 970 670 9.0

65-BM48 950 690 16.5

65-BM58 950 700 9.0

65-BM60 990 710 9.0

65-BM64 1020 720 9.0

3.3.2 SB ポスト付き定着板

呼びt3 t2

呼びt3 t2

呼びt3 t2

品名 C Φd3 D t4

8M52-9 124 60 286 9

8M56-12 135 75 297 12

8M60-12 141 75 331 12

8M64-16 154 75 344 16

70-12M52-9 124 60 448 12

70-12M60-12 141 75 452 12

75-12M52-9 124 60 448 9

75-12M60-12 141 75 473 12

75-12M64-16 154 75 486 16

80-12M60-12 141 75 487 12

80-12M64-16 154 75 507 16

85-12M56-12 135 75 495 12

85-12M64-16 154 75 521 16

90-12M56-12 135 75 516 12

90-12M64-16 154 75 542 16

95-12M60-12 141 75 544 12

85-12M64-16 154 75 557 16

100-12M60-12 141 75 558 12

100-12M64-16 154 75 578 16

3.3.3 SB 連結定着板

呼びD Φd4 t5

呼びD Φd4 t5

呼びD Φd4 t5

品名 C Φd3 D t4

8M52-9 124 60 286 9

8M56-12 135 75 297 12

8M60-12 141 75 331 12

8M64-16 154 75 344 16

70-12M52-9 124 60 448 12

70-12M60-12 141 75 452 12

75-12M52-9 124 60 448 9

75-12M60-12 141 75 473 12

75-12M64-16 154 75 486 16

80-12M60-12 141 75 487 12

80-12M64-16 154 75 507 16

85-12M56-12 135 75 495 12

85-12M64-16 154 75 521 16

90-12M56-12 135 75 516 12

90-12M64-16 154 75 542 16

95-12M60-12 141 75 544 12

85-12M64-16 154 75 557 16

100-12M60-12 141 75 558 12

100-12M64-16 154 75 578 16

3.3.4 SB 定着板

呼びΦd Φd4 t5

呼びΦd Φd4 t5

呼びΦd Φd4 t5

品名 C Φd3 D t4

8M52-9 124 60 286 9

8M56-12 135 75 297 12

8M60-12 141 75 331 12

8M64-16 154 75 344 16

70-12M52-9 124 60 448 12

70-12M60-12 141 75 452 12

75-12M52-9 124 60 448 9

75-12M60-12 141 75 473 12

75-12M64-16 154 75 486 16

80-12M60-12 141 75 487 12

80-12M64-16 154 75 507 16

85-12M56-12 135 75 495 12

85-12M64-16 154 75 521 16

90-12M56-12 135 75 516 12

90-12M64-16 154 75 542 16

95-12M60-12 141 75 544 12

85-12M64-16 154 75 557 16

100-12M60-12 141 75 558 12

100-12M64-16 154 75 578 16

4. コンクリート柱型

4.1 形状・材質

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

4.2 配筋・基礎立上り

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 C1 e2 t6

45-4M45 640 125 125 55 16

60-4M52 902 150 125 71 19

65-4M58 882 150 140 71 22

70-4M58 902 150 140 71 22

75-4M60 962 150 140 71 22

4.3 特記事項

4.1及び4.2にない場合は下記による。

採用

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 C1 e2 t6

45-4M45 640 125 125 55 16

60-4M52 902 150 125 71 19

65-4M58 882 150 140 71 22

70-4M58 902 150 140 71 22

75-4M60 962 150 140 71 22

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

●柱脚部の捨てコンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルトの据付け

●4本仕様のアンカーボルトの据付けは、4隅のアンカーボルト4本で組立を行う。
8本及び12本仕様のアンカーボルトの据付けは、予め捨てコン上にセットされたフレーム上に、定着ベルト・アンカーボルト・テンプレート等でアンカーユニットを組立て、フレームに固定する。
●異形アンカー仕様仕様の定着部材下方に位置するナットはダブルナットとする。
●フレームベースは、ステコンアンカーにより水平に固定する。
●位置決めは、テンプレートの中心位置と地墨等の柱心を合致させることにより行う標準許容差は下図による。

6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーフレームもしくはアンカーユニットおよびフレームとの取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタル施工は、セレクトベースグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは下図による。

6.5 アンカーボルトの本締め(戻り止め)

●本締めはグラウト材の充填前に、異形アンカー仕様仕様のダブルナットを標準とする。丸鋼アンカー仕様仕様のSB丸鋼ナットによるシングルナットを標準とし、コンクリートに埋込む等の戻り止め処置を行う。

6.6 セレクトベースグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(25kg)に対して、計量カップで4.0～4.6%の水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
●グラウト材の注入は、グラウトローを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、建築施工会社の工事管理者(元請)の管理のもとで実施するものとする。
●本工法のうち6.2アンカーボルトの据付けおよび6.6セレクトベースグラウト(グラウト材)の注入は、ベースバック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者(セレクトベース施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨制作管理技術者等による。

3.5 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●セレクトベースの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型先端までを示す。
据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)およびJ寸法は「セレクトベース柱脚工法設計ハンドブック」に記載の値とする。

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

4.3 特記事項

4.1及び4.2にない場合は下記による。

採用

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 C1 e2 t6

45-4M45 640 125 125 55 16

60-4M52 902 150 125 71 19

65-4M58 882 150 140 71 22

70-4M58 902 150 140 71 22

75-4M60 962 150 140 71 22

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570 100 50

40-4L51 580 100 50

45-4H41 630 100 50

50-4H41 670 100 50

55-4L51 740 100 50

図

呼び幅 厚

呼び幅 厚

呼び幅 厚

品名 A2 B1 e2 t6

35-4H35 480 70 35

35-4H41 530 100 50

40-4H38 570

セレクトベース

角形鋼管

□-350×350 ～ □-1000×1000 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0314-02」(2021年11月19日付)

●セレクトベース柱脚工法の設計は「セレクトベース柱脚工法設計ハンドブック」による。

2024年10月作成

採用	セレクトベース 記号	柱		ベースプレート							アンカーボルト			コンクリート柱型(寸法、補強鉄筋、設計基準強度Fc)																SB ポスト付き 定着板	SB 定着 ベルト	SB 連結定着板	SB 定着板	フリュームベース		フリュームポスト 間 寸法 X (mm)	最低 h寸法 (mm)	J寸法 (mm)			
		外径 (mm)	板厚 範囲 (mm)	材質	形状	寸法(mm)						本数・呼び	埋込 長さ (mm)	幅 (mm)	立上り筋								立上り筋 ^{※2}				フープ筋														
						pID	t	d1	d2	d3	Φd				Fc=24N/mm ² 以上36N/mm ² 以下								Fc=27N/mm ² 以上36N/mm ² 以下											中柱					側・隅柱		
															中柱 ^{※1}				側・隅柱				中柱 ^{※1}				側・隅柱							中柱					側・隅柱		
															採用	SD345	採用	SD345	採用	SD345	採用	SD345	採用	SD345	採用	SD345	採用	SD390	採用					SD345	採用				SD390	SD295	SD295
	35-4H35	□350	12～25	TMCP385B	(イ)	540	36	60	420	-	55	4-D35H	610	690		12-D22		8-D25		12-D22		8-D25		8-D29		8-D29		8-D29	D13@100	D13@100	4D35-6	-	-	430	290	860	160				
	35-4H41	□350	12～25	TMCP385B	(イ)	560	40	65	430	-	65	4-D41H	710	730		12-D22		8-D25		16-D22		8-D29		8-D29		8-D29		8-D29	D13@100	D13@100	4D41-6	-	-	420	280	970	180				
	35-8H35	□350	12～25	TMCP385B	(ロ)	580	36	50	85	310	55	8-D35H	610	810		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	-	35-8H35	-	-	340	210	860	160			
	35-8H38	□350	12～25	TMCP385B	(ロ)	590	36	55	85	310	60	8-D38H	660	810		16-D22		12-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		16-D29	D13@100	D13@100	-	35-8H38	-	-	340	210	910	170			
	35-8H41	□350	12～25	TMCP385B	(ロ)	600	40	55	100	290	65	8-D41H	710	840		20-D22		16-D25		20-D22		20-D25		12-D29		12-D29		16-D29	D13@100	D13@100	-	35-8H41	-	-	350	220	970	180			
	40-4H38	□400	14～25	TMCP385B	(イ)	600	36	65	470	-	60	4-D38H	660	770		12-D22		12-D25		12-D22		12-D25		8-D29		8-D29		8-D29	D13@100	D13@100	4D38-6	-	-	460	320	910	170				
	40-4L51	□400	14～25	TMCP385B	(イ)	640	45	75	490	-	75	4-D51L	780	790		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		8-D29		8-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4D51-6	-	-	480	340	1070	210				
	40-8H35	□400	14～25	TMCP385B	(ロ)	630	36	50	85	360	55	8-D35H	610	860		16-D22		12-D25		16-D22		16-D25		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	-	40-8H35	-	-	390	260	860	160			
	40-8H38	□400	14～25	TMCP385B	(ロ)	640	36	55	85	360	60	8-D38H	660	860		16-D22		12-D25		20-D22		20-D25		12-D29		12-D29		16-D29	D13@100	D13@100	-	40-8H38	-	-	390	260	910	170			
	40-8H41	□400	14～25	TMCP385B	(ロ)	650	40	55	100	340	65	8-D41H	710	890		20-D22		16-D25		24-D22		20-D25		12-D29		12-D29		16-D29	D13@100	D13@100	-	40-8H41	-	-	400	270	970	180			
	45-4H41	□450	14～32	TMCP385B	(イ)	660	40	65	530	-	65	4-D41H	710	830		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4D41-6	-	-	520	380	970	180				
	45-4M45	□450	14～32	TMCP385B	(イ)	660	40	65	530	-	65	4-M45	780	840		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4M45-16	-	-	530	390	1050	150				
	45-8H35	□450	14～32	TMCP385B	(ロ)	680	40	50	85	410	55	8-D35H	610	890		20-D22		16-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		12-D29	D16@100	D16@100	-	45-8H35	-	-	440	310	860	160			
	45-8H38	□450	14～32	TMCP385B	(ロ)	700	40	55	85	420	60	8-D38H	660	900		20-D22		16-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		16-D29	D16@100	D16@100	-	45-8H38	-	-	450	320	910	170			
	45-8H41	□450	14～32	TMCP385B	(ロ)	700	40	55	100	390	65	8-D41H	710	900		20-D22		16-D25		24-D22		16-D25		12-D29		12-D29		16-D29	D16@100	D16@100	-	45-8H41	-	-	450	320	970	180			
	50-4H41	□500	16～36	TMCP385B	(イ)	700	40	65	570	-	65	4-D41H	710	870		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4D41-6	-	-	560	420	970	180				
	50-8H38	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	760	40	60	85	470	60	8-D38H	660	950		20-D22		16-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		16-D29	D16@100	D16@100	-	50-8H38	-	-	500	370	910	170			
	50-8H41	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	760	40	55	100	450	65	8-D41H	710	960		20-D22		16-D25		24-D22		20-D25		12-D29		12-D29		16-D29	D16@100	D16@100	-	50-8H41	-	-	510	380	970	180			
	50-8L51	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	810	40	70	115	440	75	8-D51L	780	1000		24-D22		20-D25		28-D22		20-D25		16-D29		16-D29		20-D29	D16@100	D16@100	-	50-8L51	-	-	530	400	1070	210			
	50-8H51	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	800	50	65	115	440	75	8-D51H	880	1060		32-D22		24-D25		36-D22		28-D25		20-D29		20-D29		20-D29	D16@100	D16@100	-	50-8H51	-	-	530	400	1170	220			
	50-8M52	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	800	50	65	115	440	70	8-M52	900	1050		36-D22		28-D25		40-D22		28-D25		24-D29		16-D29		24-D29	D16@100	D16@100	-	50-8M52	8M52-9	-	530	400	1170	165			
	55-4L51	□550	16～40	TMCP385B	(イ)	790	45	75	640	-	75	4-D51L	780	950		20-D22		16-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4D51-6	-	-	630	490	1070	210				
	55-8H41	□550	16～40	TMCP385B	(ロ)	810	40	55	100	500	65	8-D41H	710	1010		24-D22		20-D25		24-D22		20-D25		16-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	-	55-8H41	-	-	560	430	970	180			
	55-8L51	□550	16～40	TMCP385B	(ロ)	850	40	65	115	490	75	8-D51L	780	1050		28-D22		20-D25		28-D22		24-D25		16-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	-	55-8L51	-	-	580	450	1070	210			
	55-8M52	□550	16～40	TMCP385B	(ロ)	850	55	65	115	490	70	8-M52	900	1100		36-D22		28-D25		40-D22		32-D25		24-D29		16-D29		24-D29	D16@100	D16@100	-	55-8M52	8M52-9	-	580	450	1170	165			
	55-8M60	□550	16～40	TMCP385B	(ロ)	870	60	70	135	460	80	8-M60	1030	1220		48-D22		36-D25		52-D22		40-D25		28-D29		20-D29		32-D29	D16@100	D16@100	-	55-8M60	8M60-12	-	590	460	1310	180			
	60-4M52	□600	22～40	TMCP385B	(イ)	800	45	70	660	-	70	4-M52	900	1010		24-D22		20-D25		24-D22		20-D25		16-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	4M52-19	-	-	642	502	1150	165				
	60-8M45	□600	22～40	TMCP385B	(ロ)	860	50	55	100	550	65	8-M45	780	1080		28-D22		20-D25		28-D22		24-D25		16-D29		16-D29		20-D29	D16@100	D16@100	-	60-8M45	-	-	610	480	1050				

円形鋼管用
ベースパック

円形鋼管

F値235N/mm² φ190～φ812 用
F値325N/mm²以下 φ190～φ812 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」(令和6年6月21日付)

ベースパック柱脚工法

標準図

2024年10月作成

1. 工法概要

1. 1 構成部材

円形鋼管

12

7

3

2

6

1

9

11

10

円形鋼管

5

4

2

6

1

9

11

10

レベルモルタル
(ベースパックグラウト)

(Mアンカーボルト)

1

2

3

4

5

6

7

(注)上記①～⑫の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑧～⑪は現場状況により仕様異なる場合がある。
(注)アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付く。

1. 2 柱脚の定着方法概要

グラウトロート

グラウト材

注入座金

注入栓
(機木等)

2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	STK400	
	STKN400	
325	STK490	
	STKN490	

3. 構成部材・寸法

3. 1 ベースプレート

●材質

SN490B 【JIS G 3136】
TMCP325B 【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
TMCP385B 【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
BT-HT440B-SP 【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
(建築構造用高溶接性高性能590N/mm²鋼材)

形状(イ)

形状(ハ)

形状(ニ)

3. 2 アンカーボルト

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

●Mアンカーボルト

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

呼び
d

異形部
呼び名

L 注1)

X

b 注1)

単位 mm
基準強度
(N/mm²)

M30

D32

695

45

133

490

M33

D35

690,735

45

95,140

490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

●Dアンカーボルト

iii) アンカーフレーム Cタイプ・Dタイプ の場合

呼び

L

b

端部ねじd

単位 mm
基準強度(N/mm²)

D38

850

46

M33

390

D41

900

49

M36

390

D41H

995

49

M36

490

D51

1110

57

M45

390

D51H

1215

57

M45

490

3. 3 Mナット・Dナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び

A

B

単位 mm
(e)

M30

24

46

53

M33

26

50

58

M36

29

55

64

M45

36

70

81

D38

45

65

75

D41

48

70

80

D51

60

80

92

Dナット

D38

30

65

75

D41

32

70

80

D51

40

80

92

3. 4 定着座金

適用
アンカーボルト

e

t

d

材質

M30

55

9

31

SS400

M33

60

9

34

SS400

D38

65

12

37

SS490

D41,D41H

70

12

37

SS490

D51,D51H

85

12

46

SS490

3. 5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料,SS490】

ii) Dアンカーボルト用

記号

適用
アンカーボルト

a1

a2

c

t

d

単位 mm

PM30

M30

32

42

101

18

31

PM33

M33

35

45

110

18

34

3. 6 フレームベース

i) Aタイプ・Cタイプ

呼び

L

b

単位 mm
基準強度(N/mm²)

M30

850

46

M33

390

D41

900

49

M36

390

D41H

995

49

M36

490

D51

1110

57

M45

390

D51H

1215

57

M45

490

4. コンクリート柱型

4. 1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は「標準図2/2」表に記載の値とする。

適用
アンカーボルト

e

t

d

材質

M30

55

9

31

SS400

M33

60

9

34

SS400

D38

65

12

37

SS490

D41,D41H

70

12

37

SS490

D51,D51H

85

12

46

SS490

4. 2 配筋

配筋仕様は「標準図2/2」の表による。

フープ筋

立上り筋

梁主筋

※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4. 3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。

基礎梁天端
あるいは
フーチング天端

立上り高さ

4. 4 特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

採用

□「標準図2/2」表標準柱型寸法からの変更あり

(「柱型寸法最大・最小値一覧」による)

□「標準図2/2」表標準配筋仕様からの変更あり

□立上り筋に頂部フックが必要

5. 工場製作(溶接)

■組立

●ベースプレートの中心線(ケガキ線)に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法(完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とするJASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準(JASS 6 鉄骨工事 2018年版より)

図

溶接
方法

適用板厚
T(mm)

標準値

許容差

標準値

許容差

標準値

許容差

溶接
姿勢

被覆
アーク溶接

6～

7

-2,+∞
(-3,+∞)

2

-2,+1
(-2,+2)

α1:45

-2.5,+∞
(-5,+∞)

下向き

被覆
アーク溶接

9

7

-2,+∞
(-3,+∞)

2

-2,+1
(-2,+2)

α1:35

被覆
アーク溶接

6～

6

-2,+∞
(-3,+∞)

2

-2,+1
(-2,+2)

α1:45

-2.5,+∞
(-5,+∞)

下向き

被覆
アーク溶接

7

7

-2,+∞
(-3,+∞)

2

-2,+1
(-2,+2)

α1:35

許容差:記号+∞は制限無しを示す。

■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法

鋼種

32≤t<40

40≤t≤50

50<t≤75

低水素系
被覆アーク溶接

SN490B
BT-HT440B-SP
TMCP325B
TMCP385B ※2

予熱なし
25℃
50℃

予熱なし

CO₂ガスシールド
アーク溶接 ※1

SN490B
BT-HT440B-SP
TMCP325B
TMCP385B ※2

予熱なし
予熱なし
予熱なし

予熱なし

※2「建築構造用TMCP鋼材溶接施工指針(2021)」に準拠し、TMTMCP385Bは上記予熱温度の適用に当たり、各メーカーのγ形溶接割れ試験(JIS Z 3158)によるの実績または溶接施工指針を確認している。

■検査方法:溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理:7. 本工法の施工及び施工管理参照。

工事名称

東秩父村新庁舎建設工事

図面尺度

日付

区分

図面番号

図面名称

鉄骨柱脚標準図 (3)

構造

S-011

6. 工事場施工

6. 1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6. 2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

6. 3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6. 4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し大きさは右図による。

6. 5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

●Dナット(S)による弛み止めは右図による。

6. 6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

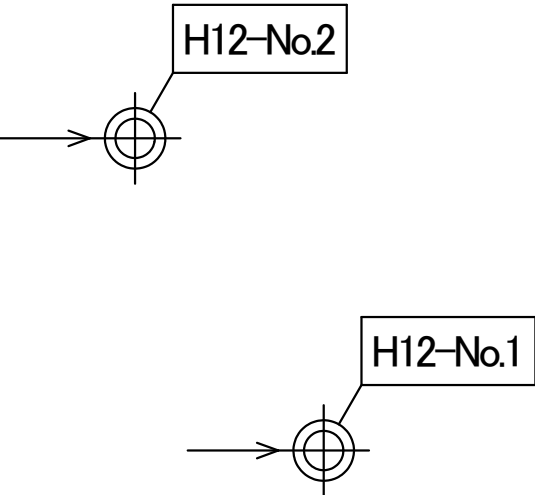
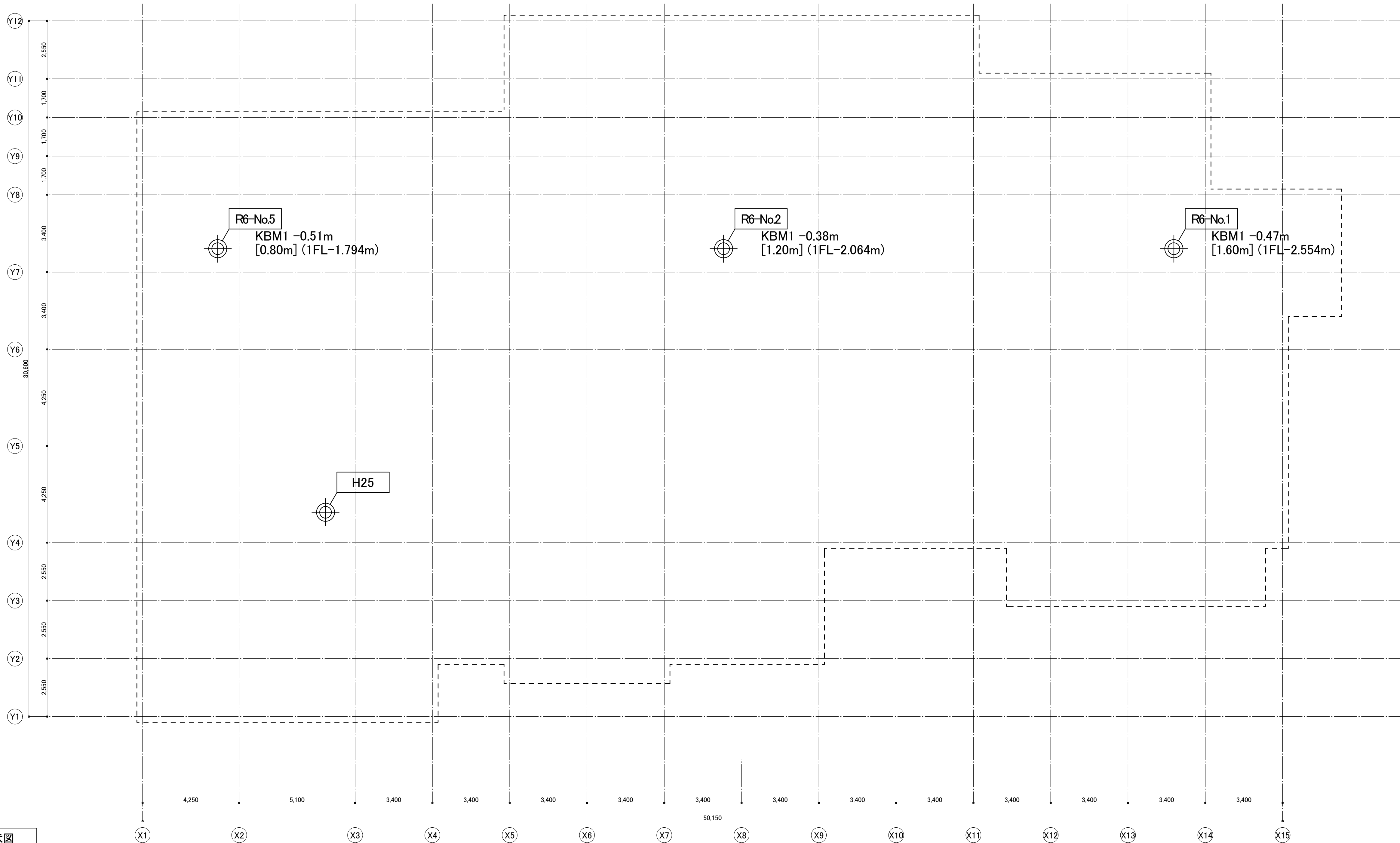
7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6. 2アンカーボルト据付け及び6. 6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

種別	採用	ベースパック 記号	柱		材質	形状	ベースプレート						アンカーボルト		コンクリート柱型				アンカーフレーム タイプ	フレームベース		フレームポスト間		最低h寸法	J寸法
			外径(mm)	板厚(mm)			寸法(mm)						本数・呼び	基準強度 (N/mm ²)	寸法(mm) D	配筋		設計基準強度 (N/mm ²)		寸法(mm)		寸法(mm)		(mm)	(mm)
							a	t	l1	l2	l3	d				上り筋	フープ筋			W	bh	x	z		
V2 柱材 F値 2 3 5 用		216-13V2	φ 190.7, φ 216.3	t ≤ 12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ 45	4-M30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-16V2	φ 190.7, φ 216.3	t ≤ 16.0	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ 50	4-M33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-13V2	φ 267.4	t ≤ 12.7	SN490B	(イ)	400	36	55	290	-	φ 50	4-M33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-16V2	φ 267.4	t ≤ 16.0	SN490B	(イ)	420	40	65	290	-	φ 60	4-D38	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
		318-13V2	φ 300.0, φ 318.5	t ≤ 12.7	SN490B	(イ)	460	40	65	330	-	φ 60	4-D38	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-16V2	φ 300.0, φ 318.5	t ≤ 16.0	SN490B, TMCP325B, TMCP385B	(イ)	460	50	65	330	-	φ 65	4-D41	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-25V2	φ 300.0, φ 318.5	t ≤ 25.0	SN490B, TMCP325B, TMCP385B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ 60	8-D38	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-13V2	φ 350.0, φ 355.6	t ≤ 12.7	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ 45	8-M30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-16V2	φ 350.0, φ 355.6	t ≤ 16.0	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ 50	8-M33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-22V2	φ 350.0, φ 355.6	t ≤ 22.0	SN490B, TMCP325B, TMCP385B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ 60	8-D38	390	720	20-D19	D13@100	21以上	C	310	65	180	65	800	180
		406-13V2	φ 400.0, φ 406.4	t ≤ 12.7	SN490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ 45	8-M30	490	750	16-D19	D13@100	21以上	C	350	50	250	50	600	135
		406-19V2	φ 400.0, φ 406.4	t ≤ 19.0	SN490B, TMCP325B, TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ 60	8-D38	390	760	16-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	180
		406-22V2	φ 400.0, φ 406.4	t ≤ 22.0	SN490B, TMCP325B, TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ 65	8-D41	390	760	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	190
		406-25V2	φ 400.0, φ 406.4	t ≤ 25.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	610	44	70	85	300	φ 65	8-D41H	490	800	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	850	200
		457-13V2	φ 450.0, φ 457.2	t ≤ 12.7	SN490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ 50	8-M33	490	790	20-D19	D13@100	21以上	C	380	50	280	50	650	135
		457-19V2	φ 450.0, φ 457.2	t ≤ 19.0	SN490B, TMCP325B, TMCP385B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ 65	8-D41	390	800	20-D22	D13@100	21以上	C	380	65	250	65	800	190
		457-25V2	φ 450.0, φ 457.2	t ≤ 25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	48	65	120	185	φ 60	12-D38	390	930	20-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	800	180
		457-36V2	φ 450.0, φ 457.2	t ≤ 36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	60	65	120	185	φ 65	12-D41H	490	980	24-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	850	200
		508-14V2	φ 500.0, φ 508.0	t ≤ 14.0	SN490B, TMCP325B, TMCP385B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ 60	8-D38	390	860	20-D19	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	800	180
		508-22V2	φ 500.0, φ 508.0	t ≤ 22.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	52	65	85	400	φ 65	8-D41H	490	920	24-D22	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	850	200
		508-32V2	φ 500.0, φ 508.0	t ≤ 32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	810	60	65	135	205	φ 65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13@100	21以上	C	460	65	330	65	850	200
		508-40V2	φ 500.0, φ 508.0	t ≤ 40.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	830	65	75	135	205	φ 75	12-D51	390	1050	28-D22	D16@100	24以上	C	470	65	340	65	950	230
		558-16V2	φ 550.0, φ 558.8	t ≤ 16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	710	48	65	85	410	φ 65	8-D41H	490	900	20-D22	D13@100	24以上	C	460	65	330	65	850	200
		558-28V2	φ 550.0, φ 558.8	t ≤ 28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	850	60	65	135	225	φ 65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	850	200
		558-36V2	φ 550.0, φ 558.8	t ≤ 36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	870	65	75	135	225	φ 75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-22V2	φ 600.0, φ 609.6	t ≤ 22.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	820	52	80	110	440	φ 75	8-D51	390	1000	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	950	230
		609-28V2	φ 600.0, φ 609.6	t ≤ 28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	60	75	155	225	φ 75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-36V2	φ 600.0, φ 609.6	t ≤ 36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	65	75	155	225	φ 75	12-D51	390	1150	24-D25	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		660-28V2	φ 650.0, φ 660.4	t ≤ 28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	65	75	160	250	φ 75	12-D51	390	1150	28-D22	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	950	230
		660-36V2	φ 650.0, φ 660.4	t ≤ 36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	70	75	160	250	φ 75	12-D51H	490	1200	28-D25	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235
		711-28V2	φ 700.0, φ 711.2	t ≤ 28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	65	75	175	265	φ 75	12-D51	390	1250	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	950	230
		711-32V2	φ 700.0, φ 711.2	t ≤ 32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	70	75	175	265	φ 75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235
		762-25V2	φ 750.0, φ 762.0	t ≤ 25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	65	75	185	275	φ 75	12-D51	390	1270	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	950	230
		762-28V2	φ 750.0, φ 762.0	t ≤ 28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	70	75	185	275	φ 75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235
		812-22V2	φ 800.0, φ 812.8	t ≤ 22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	65	75	200	300	φ 75	12-D51	390	1350	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	950	230
		812-28V2	φ 800.0, φ 812.8	t ≤ 28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	70	75	200	300	φ 75	12-D51H	490	1400	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235
V3 柱材 F値 3 2 5 以下用		216-10V3	φ 190.7 φ 216.3	t ≤ 12.7 t ≤ 9.5	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ 45	4-M30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-13V3	φ 216.3	t ≤ 12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ 50	4-M33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-09V3	φ 267.4	t ≤ 9.3	SN490B	(イ)	400	36	55	290	-	φ 50	4-M33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-13V3	φ 267.4	t ≤ 12.7	SN490B	(イ)	420	40	65	290	-	φ 60	4-D38	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
		318-09V3	φ 300.0, φ 318.5	t ≤ 9.0	SN490B	(イ)	460	40	65	330	-	φ 60	4-D38	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-13V3	φ 300.0, φ 318.5	t ≤ 12.7	TMCP325B, TMCP385B	(イ)	460	50	65	330	-	φ 65	4-D41	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-19V3	φ 300.0, φ 318.5	t ≤ 19.0	TMCP325B, TMCP385B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ 60	8-D38	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-10V3	φ 350.0, φ 355.6	t ≤ 9.5	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ 45	8-M30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-13V3	φ 350.0, φ 355.6	t ≤ 12.7	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ 50	8-M33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-16V3	φ 350.0, φ 355.6	t ≤ 16.0	TMCP325B, TMCP385B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ 60	8-D38	390	720	20-D19	D13@100	21以上							

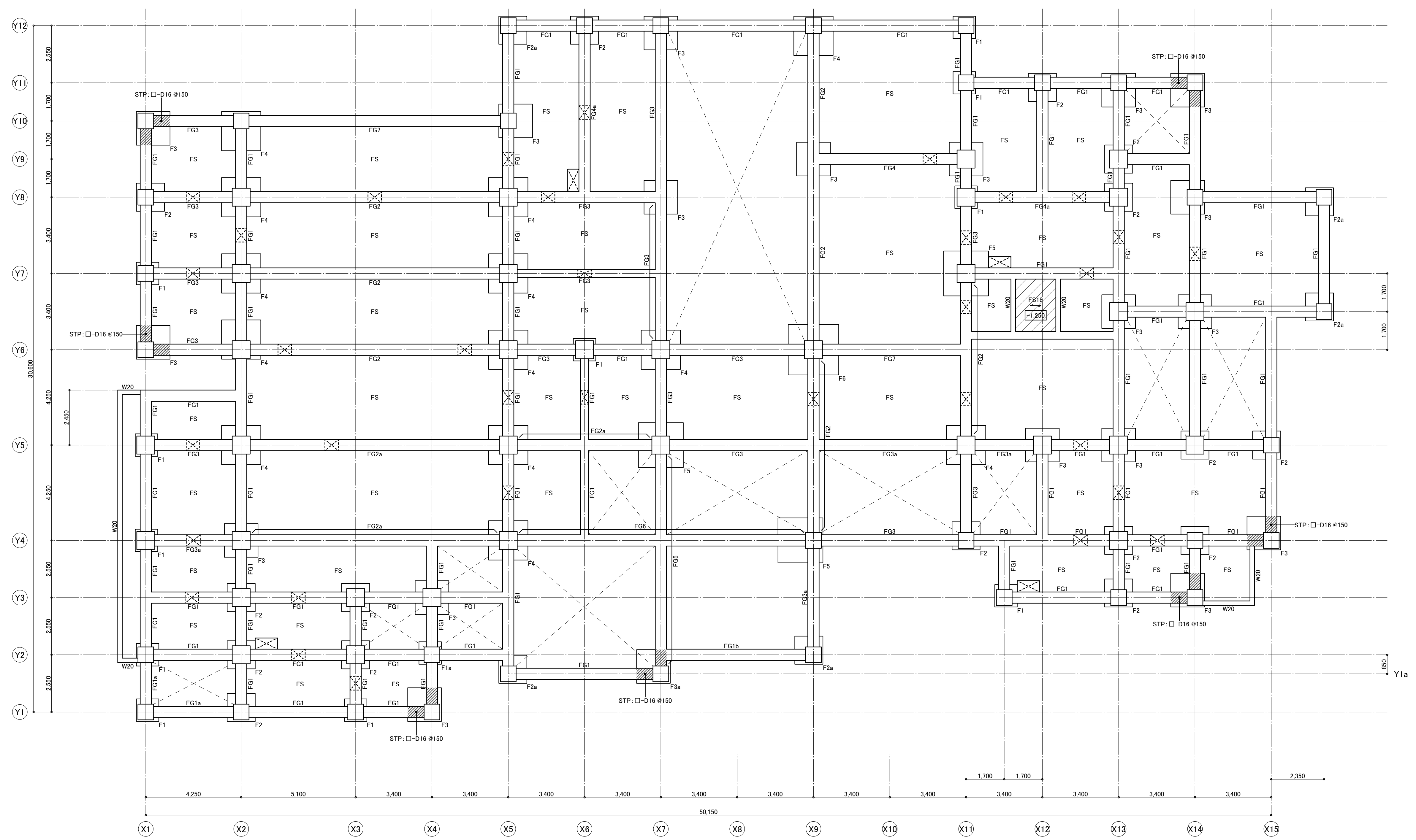


地盤柱状図

ボーリング H25							ボーリング H12-No.1							ボーリング H12-No.2														
深度 [m]	層 厚 [m]	土 質 名	標準貫入試験					深度 [m]	層 厚 [m]	土 質 名	標準貫入試験					深度 [m]	層 厚 [m]	土 質 名	標準貫入試験									
			N値	10	20	30	40				50	N値	10	20	30				40	50	N値	10	20	30	40	50		
▽ 孔口標高: KBM1-0.312m								▽ 孔口標高: KBM1-0.494m								▽ 孔口標高: KBM1-0.504m												
0.60	0.60	埋土						0.40	0.40	表土						0.50	0.50	表土										
	2.35	玉石混り砂礫						1.00	0.60	粘性土							1.40	粘性土										
	2.95							2.20	1.20	礫混り粘性土							1.90	粘性土										
	3.05	輝緑凝灰岩						3.10	0.90	風化岩							2.45	0.55	礫混り粘性土									
	6.00							4.00	0.90	緑色片岩																		

地盤調査位置図

- [共通事項]
- ・設計GL±0 = TP+151.05
 - ・KBM1 = TP+151.55, KBM2 = TP+150.834
 - ・R6調査位置の表記は下記のとおり
 - 上段: 調査地点高さ
 - 下段: 砂質土出現深度 (1FL-XXX)



基礎伏図

- [共通事項]
- ・1FL = KBM +1,260
 - ・特記なきスラブ天端レベルは 1FL -2,080 とする。
 - ・特記なき基礎底レベルは 1FL -2,230 とする。
 - ・  は 人通口 φ600 を示す。
 - ・  は 釜場 H=600 を示す。

			特記	工事名称 東秩父村新庁舎建設工事	図面尺度 1/100 (A1) 1/200 (A3)	日付	区分 構造	図面番号 S-013
				図面名称 基礎伏図				

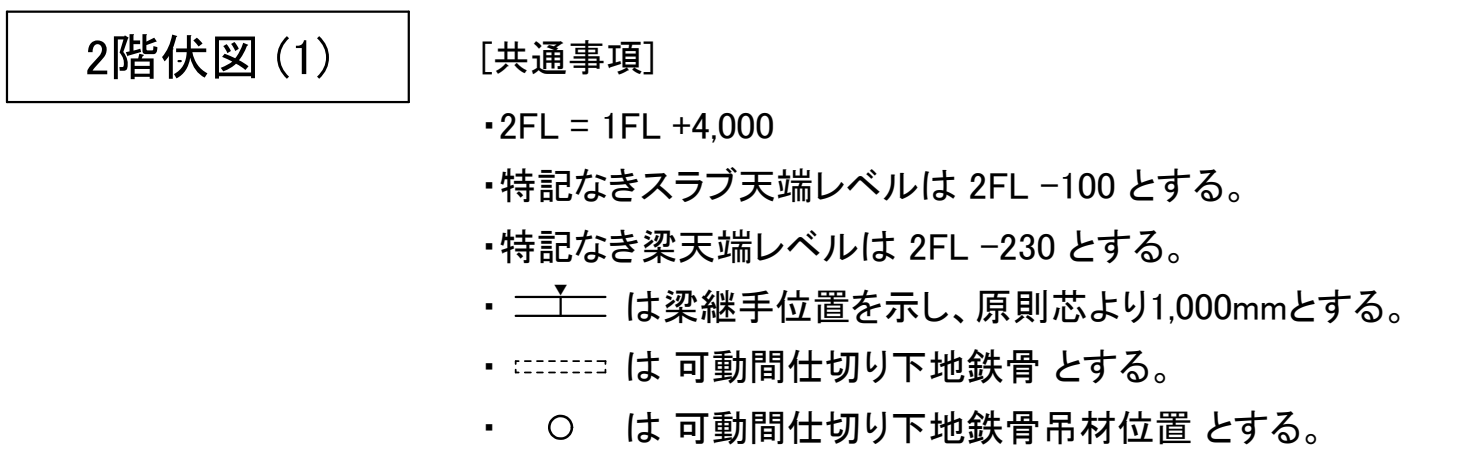


1階伏図

[共通事項]

- ・1FL = KBM +1,200
- ・特記なきスラブ天端レベルは 1FL -150 とする。
- ・特記なき基礎梁天端レベルは 1FL -330 とする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100 (A1)			
				図面名称	1/200 (A3)		構造	S-014
				1階伏図				



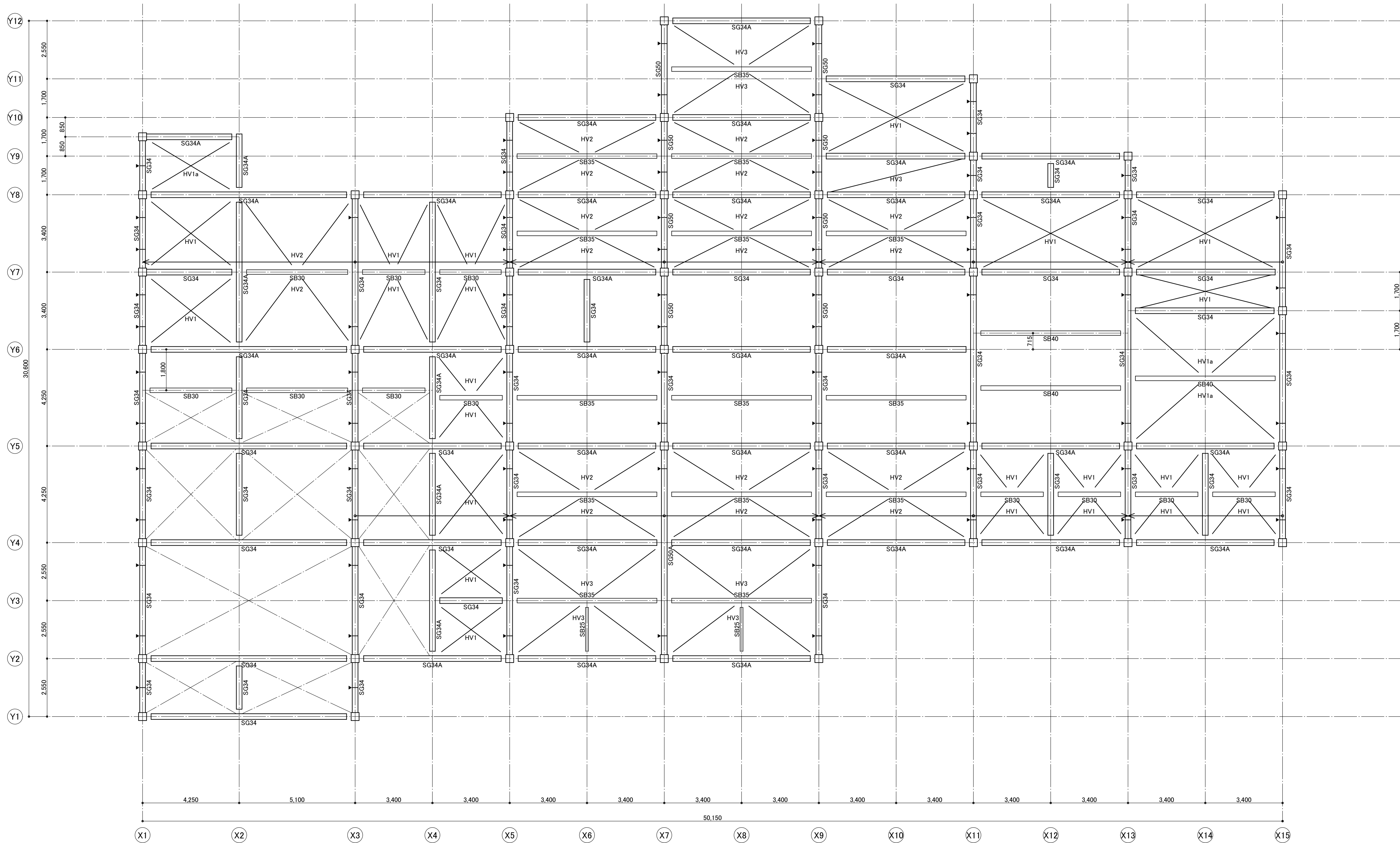
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100 (A1)		構造	S-015
				図面名称	1/200 (A3)			
				2階伏図 (1)				



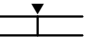
[共通事項]

- ・M2FL = 2FL + 1,500
- ・特記なきスラブ天端レベルは M2FL - 100 とする。
- ・特記なき梁天端レベルは M2FL - 230 とする。
- ・ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。
- ・ は 舞台機構すのこ鉄骨 とする。
- ・ は 客席照明バタン鉄骨 とする。

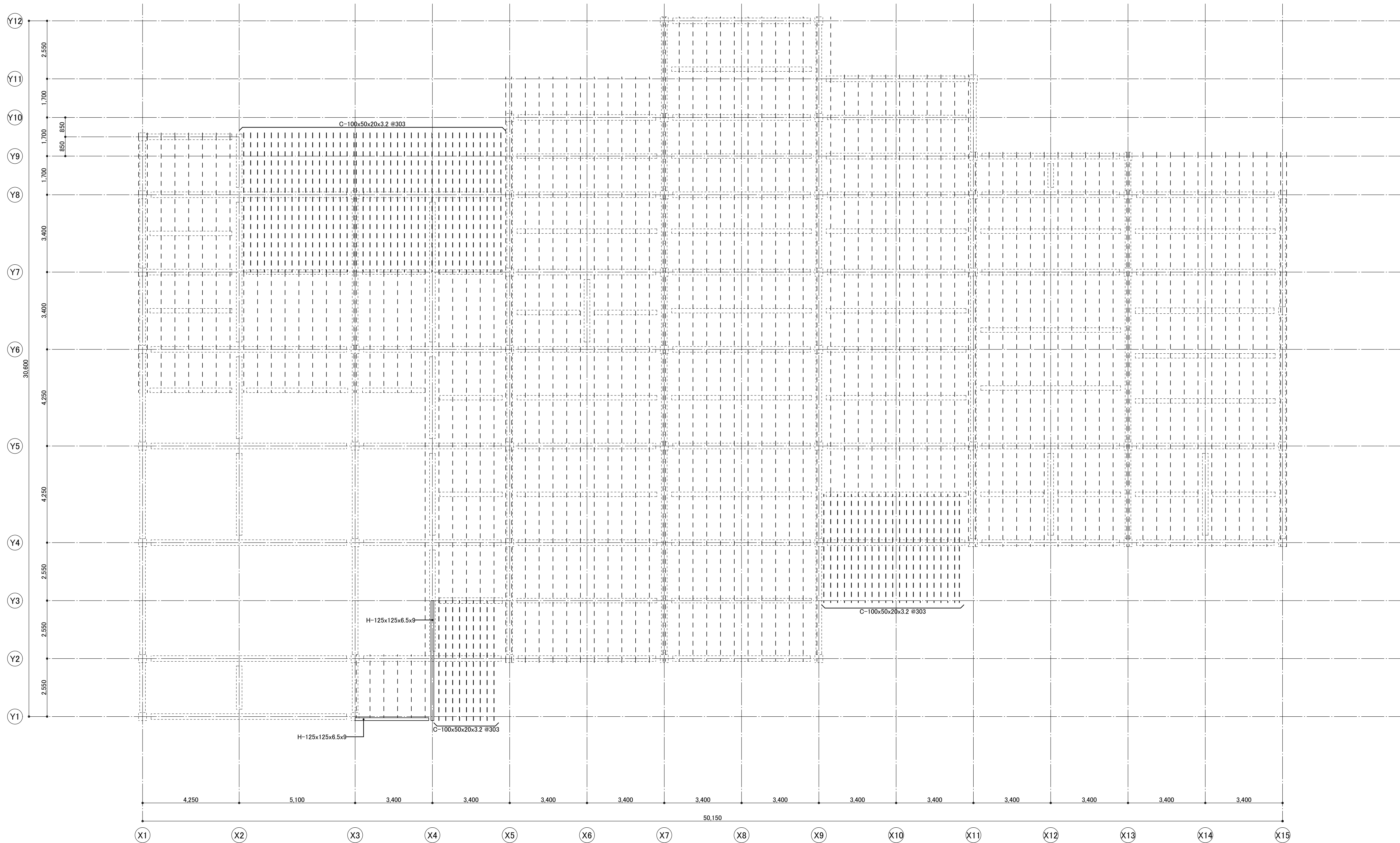
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100 (A1)		構造	S-016
				図面名称	1/200 (A3)			
				2階伏図 (2)				



屋根伏図

[共通事項]
・  は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

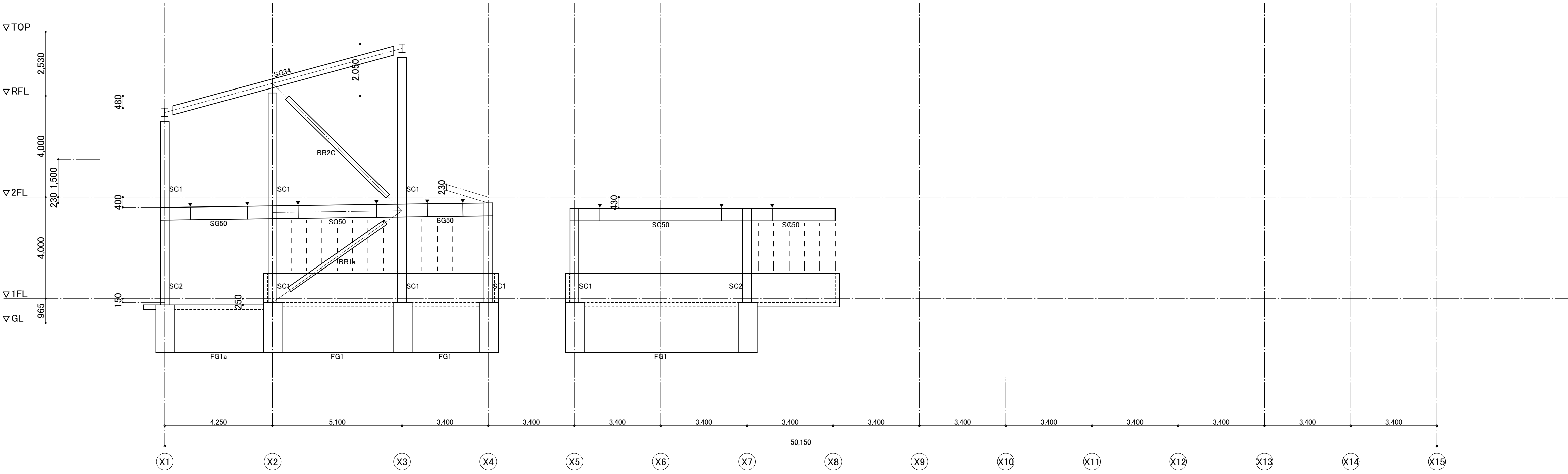
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100 (A1)		構造	S-017
				図面名称	1/200 (A3)			
				屋根伏図				



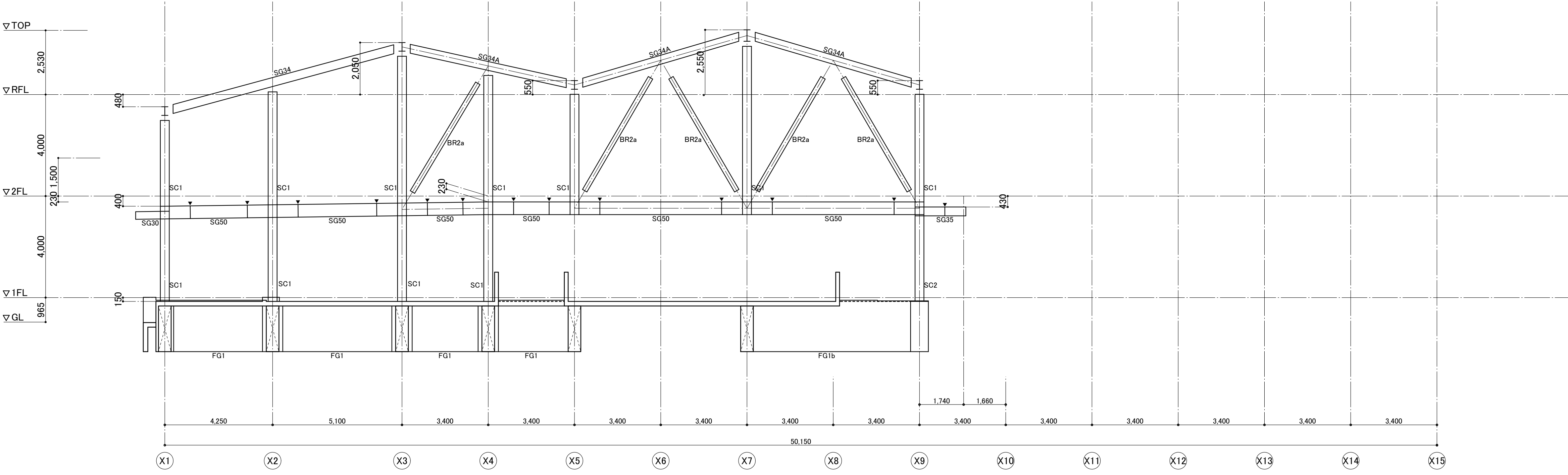
屋根母屋伏図

[共通事項]
・特記なき屋根母屋は C-100x50x20x2.3 @606 とする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-018
				屋根母屋伏図	1/100 (A1)	1/200 (A3)		



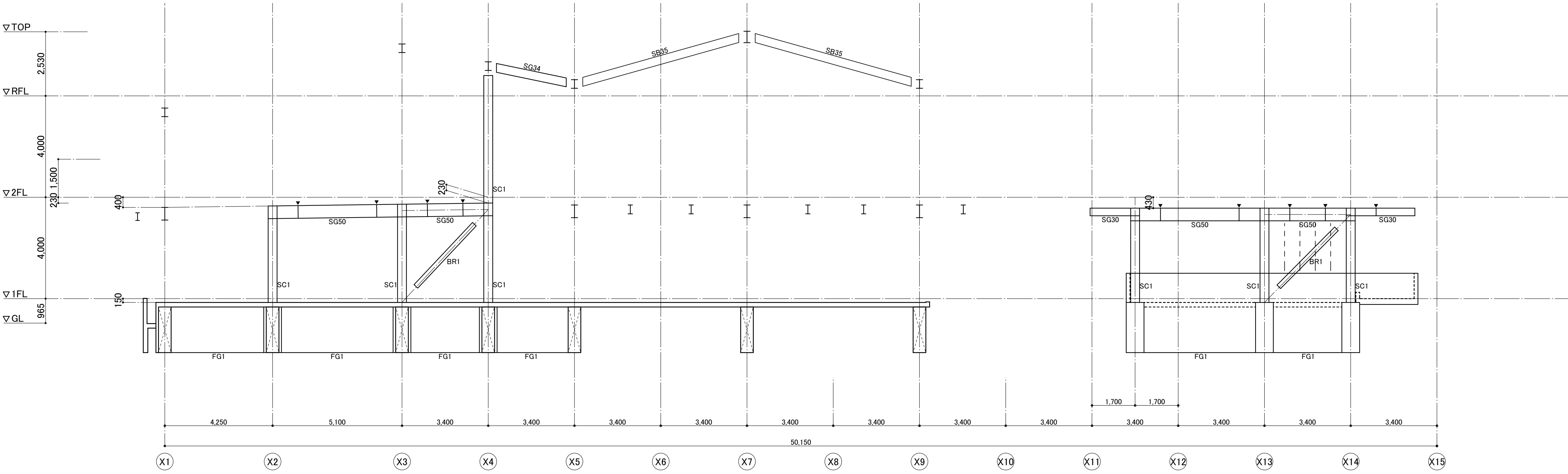
Y1通り軸組図



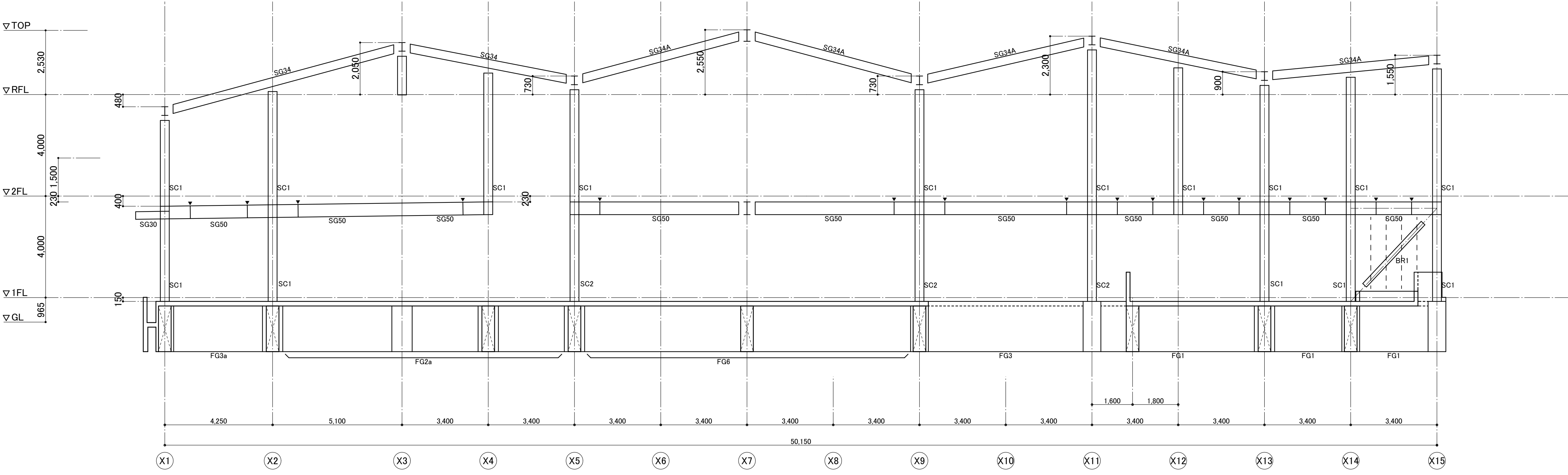
Y2通り軸組図

[共通事項]
・  は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100 (A1)		構造	S-019
				図面名称	1/200 (A3)			
				軸組図 (1)				



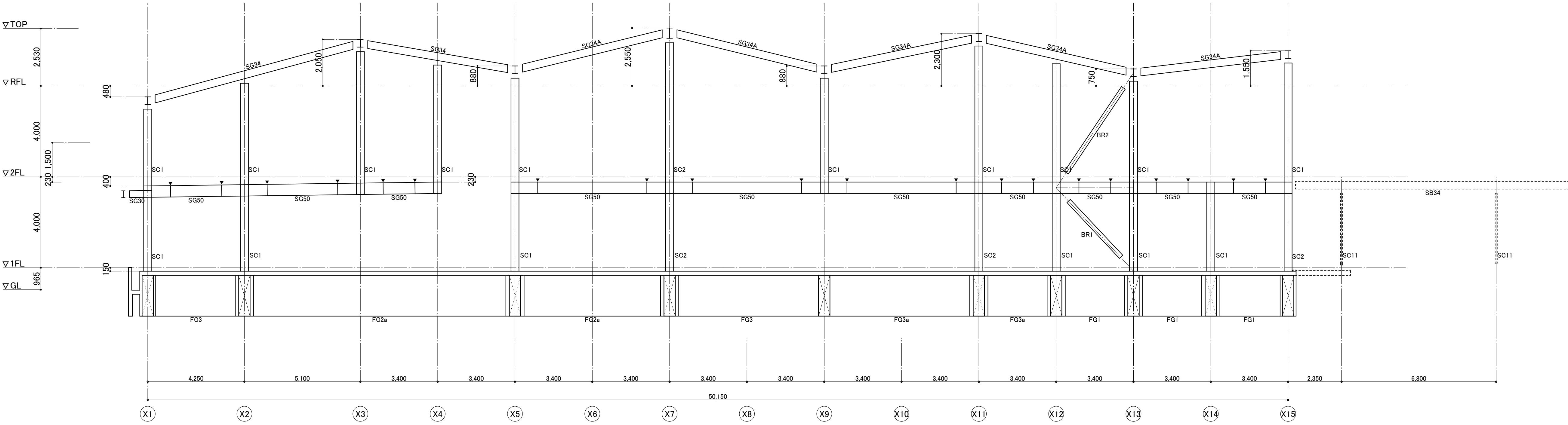
Y3通り軸組図



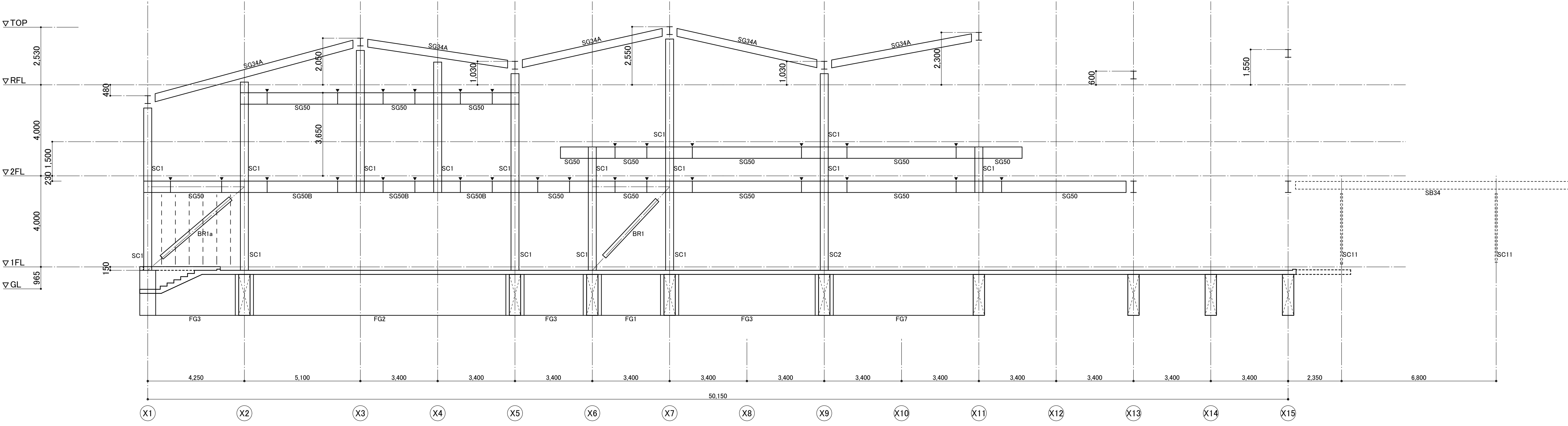
Y4通り軸組図

[共通事項]
・ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

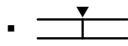
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事 軸組図 (2)	1/100 (A1) 1/200 (A3)		構造	S-020



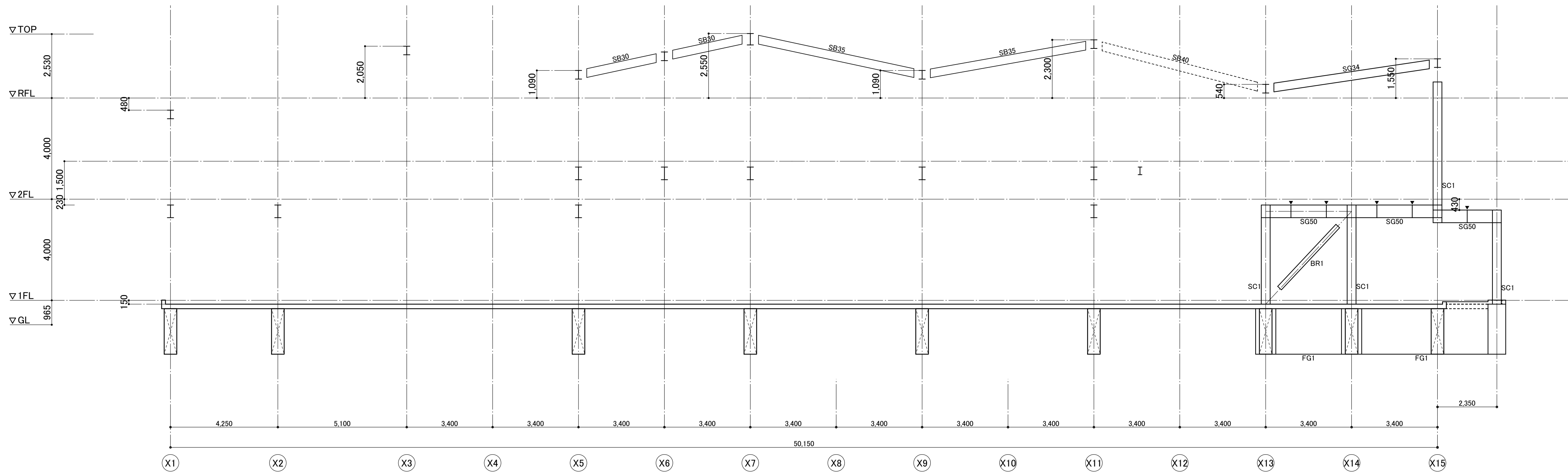
Y5通り軸組図



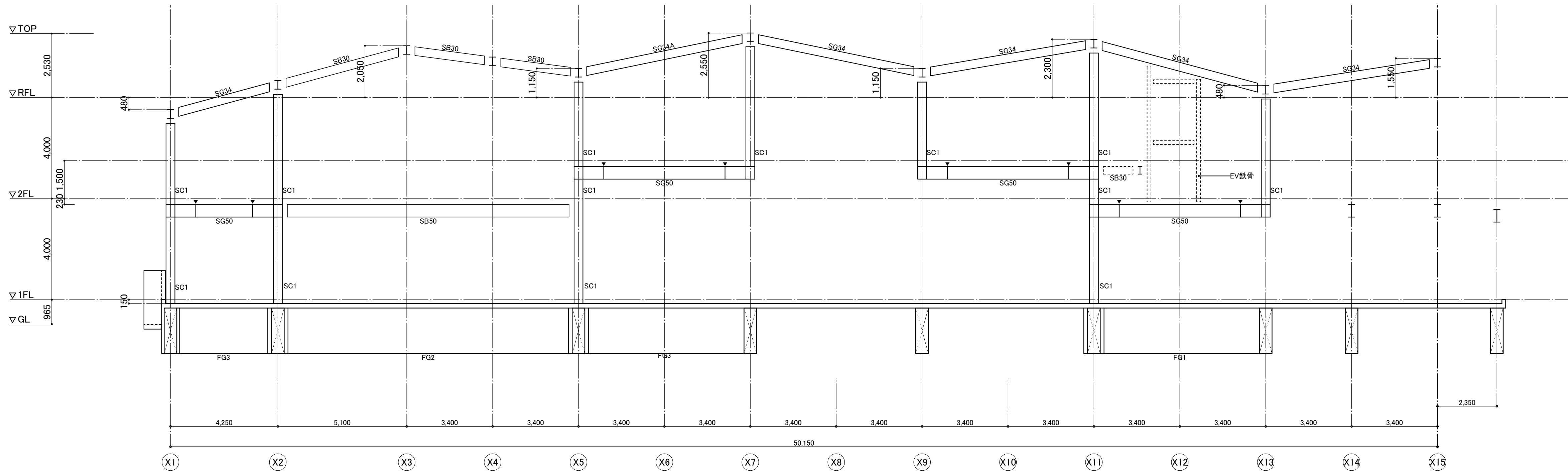
Y6通り軸組図

[共通事項]
・  は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事				
				図面名称	1/100 (A1)			
				軸組図 (3)	1/200 (A3)		構造	S-021



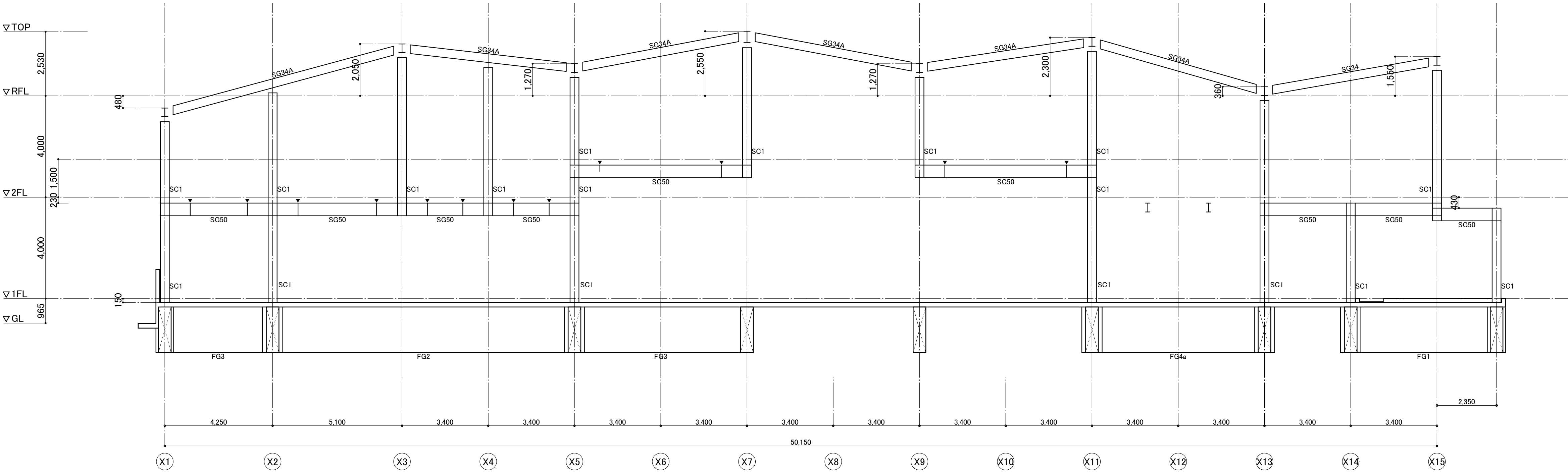
Y6a通り軸組図



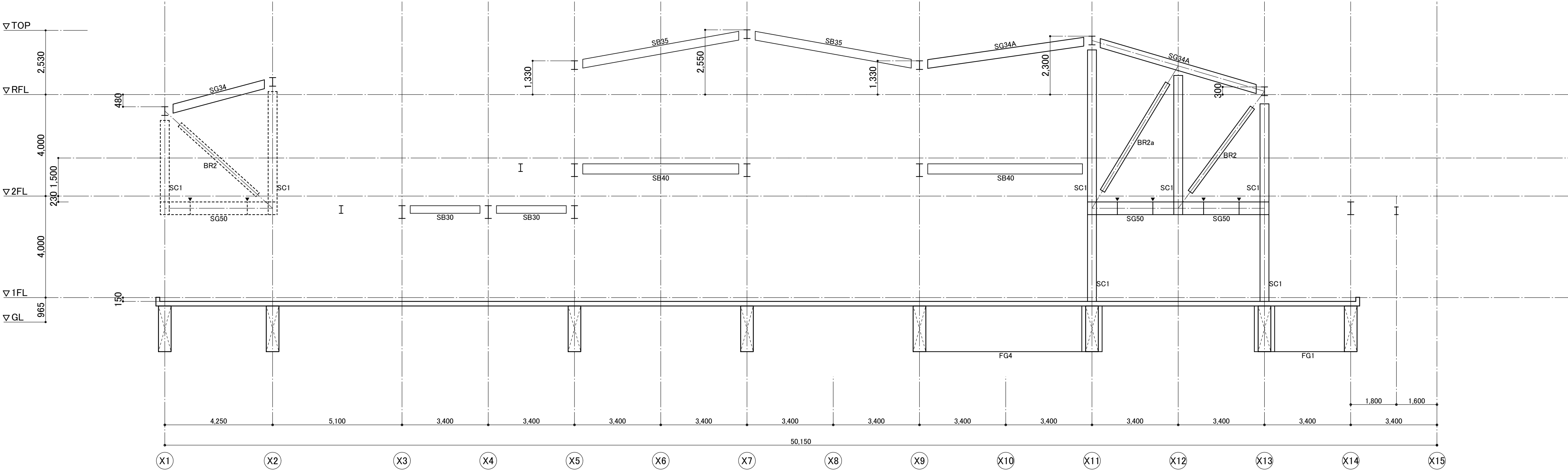
Y7通り軸組図

[共通事項]
・  は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

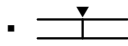
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100 (A1)		構造	S-022
				図面名称	1/200 (A3)			
				軸組図 (4)				



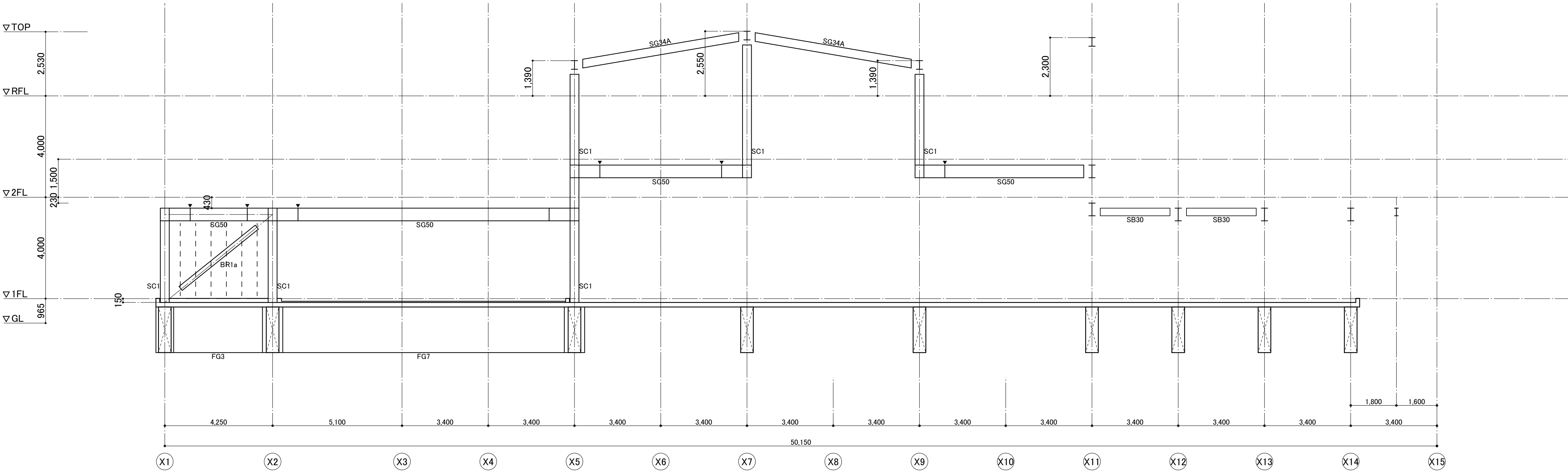
Y8通り軸組図



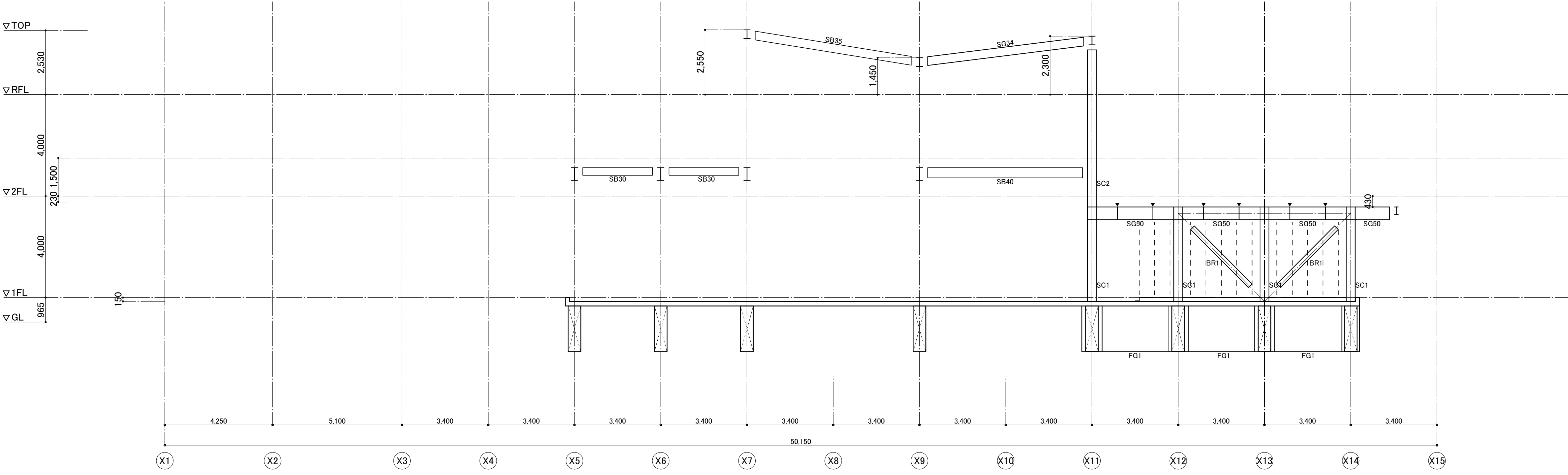
Y9通り軸組図

[共通事項]
・  は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度 1/100 (A1) 1/200 (A3)	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事 図面名称 軸組図 (5)			構造	S-023



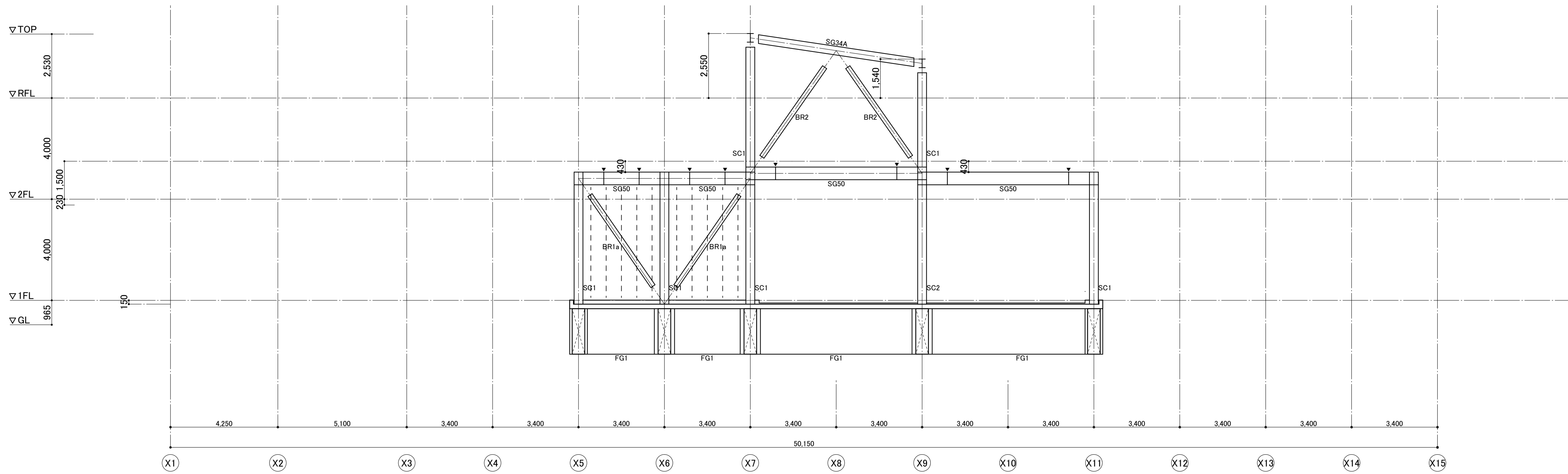
Y10通り軸組図



Y11通り軸組図

[共通事項]
 ・ 梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

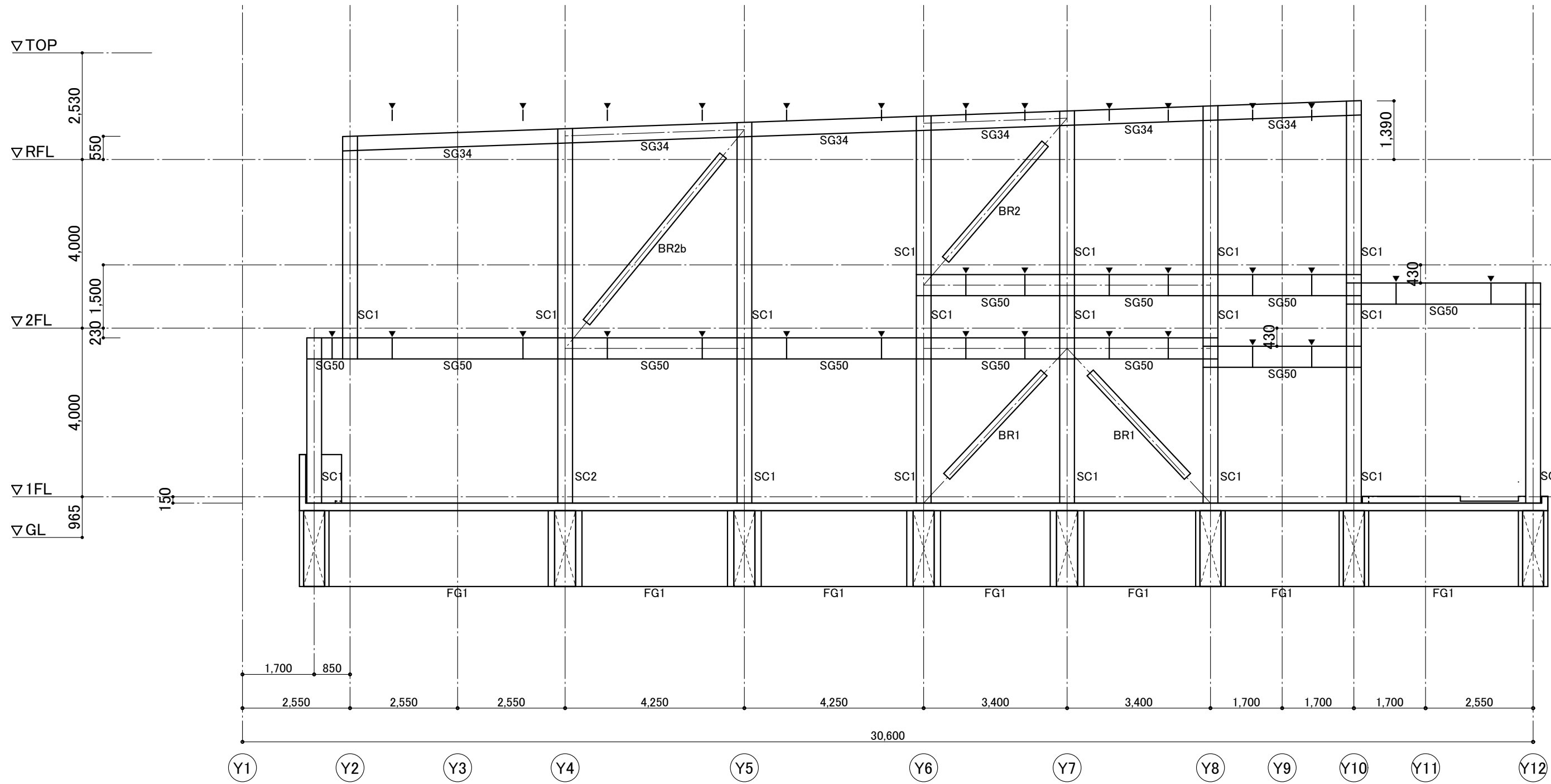
			特記	工事名称 東秩父村新庁舎建設工事	図面尺度 1/100 (A1) 1/200 (A3)	日付	区分	図面番号
				図面名称 軸組図 (6)			構造	S-024



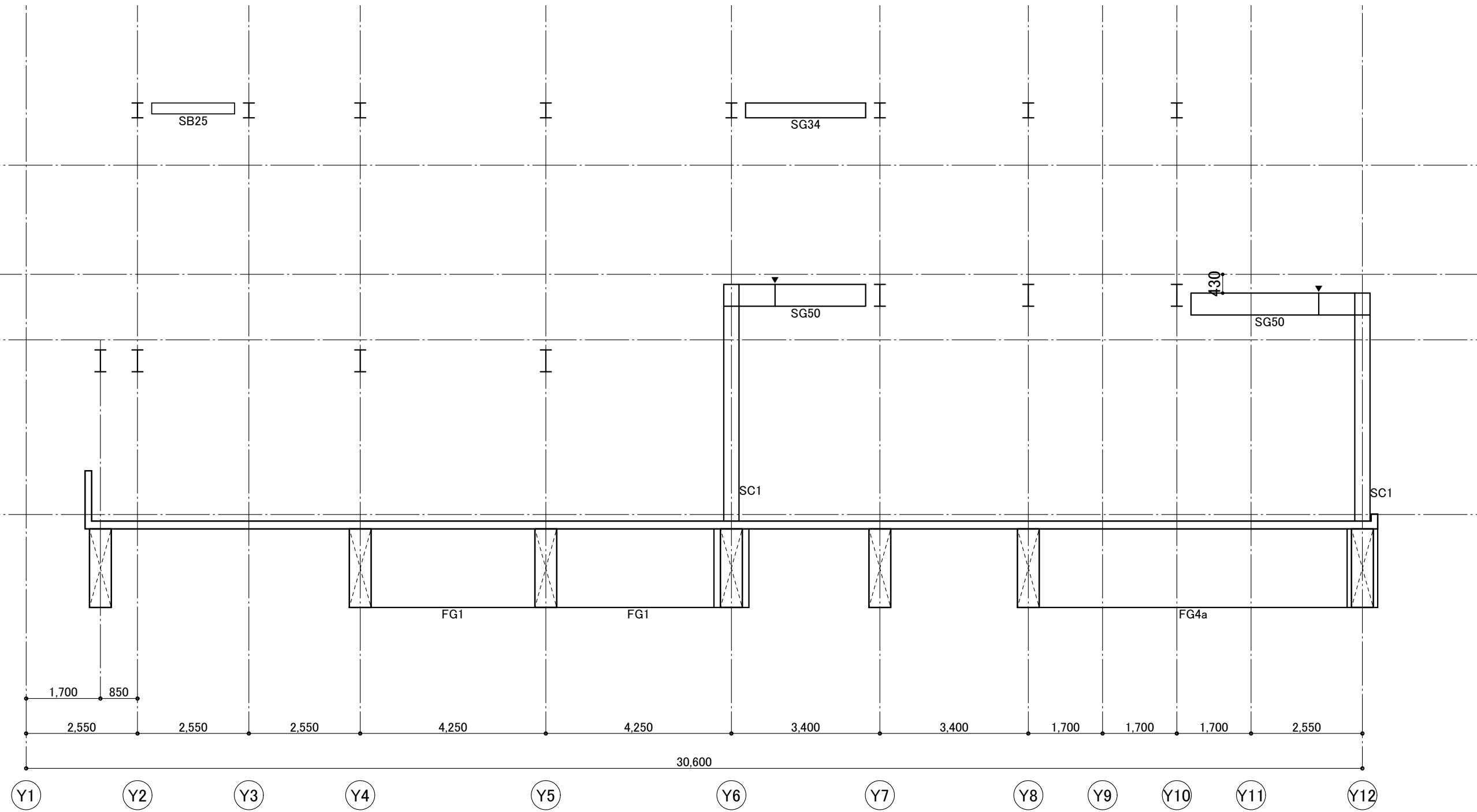
Y12通り軸組図

[共通事項]
・ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

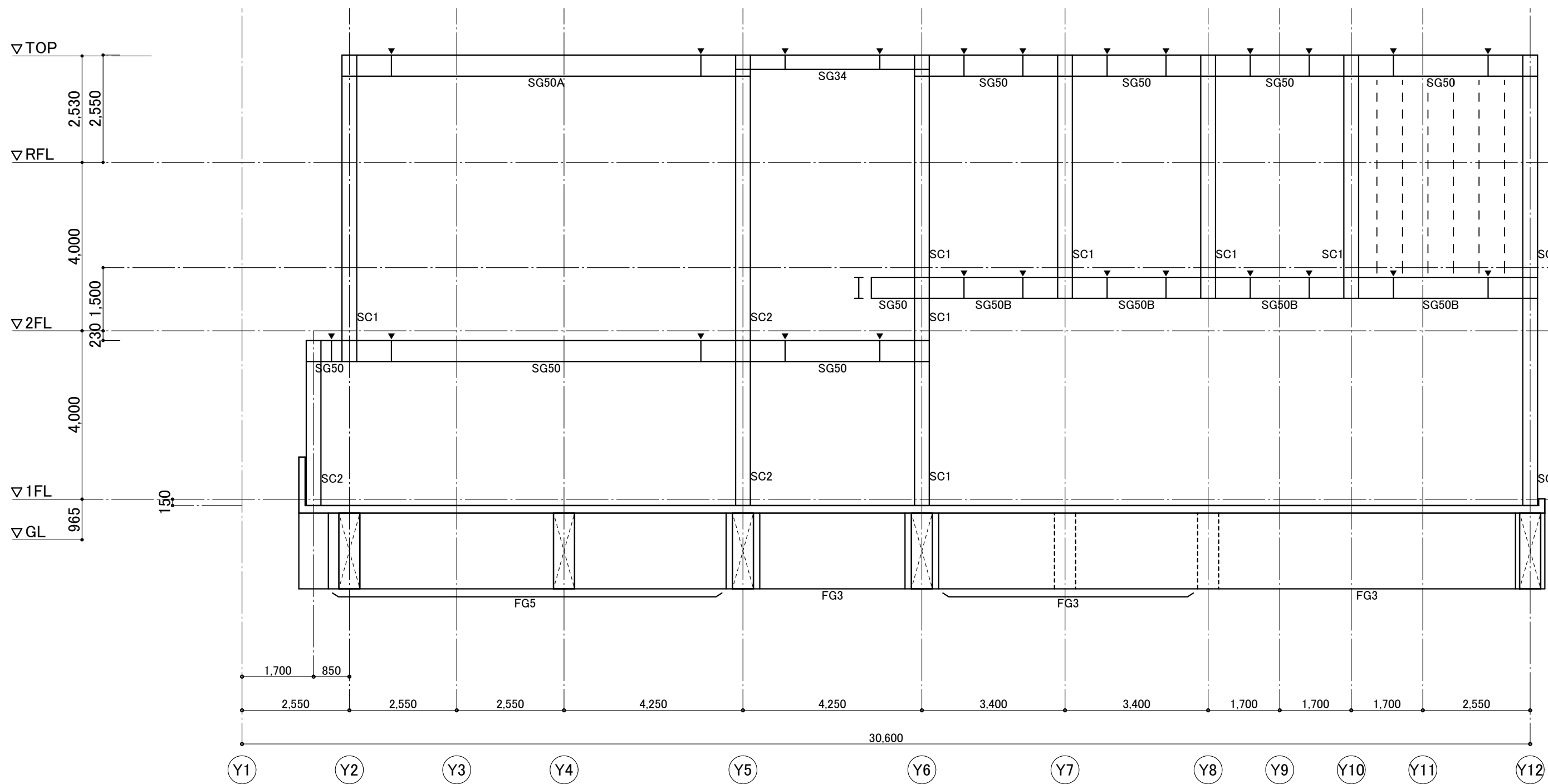
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-025
				軸組図 (7)	1/100 (A1) 1/200 (A3)			



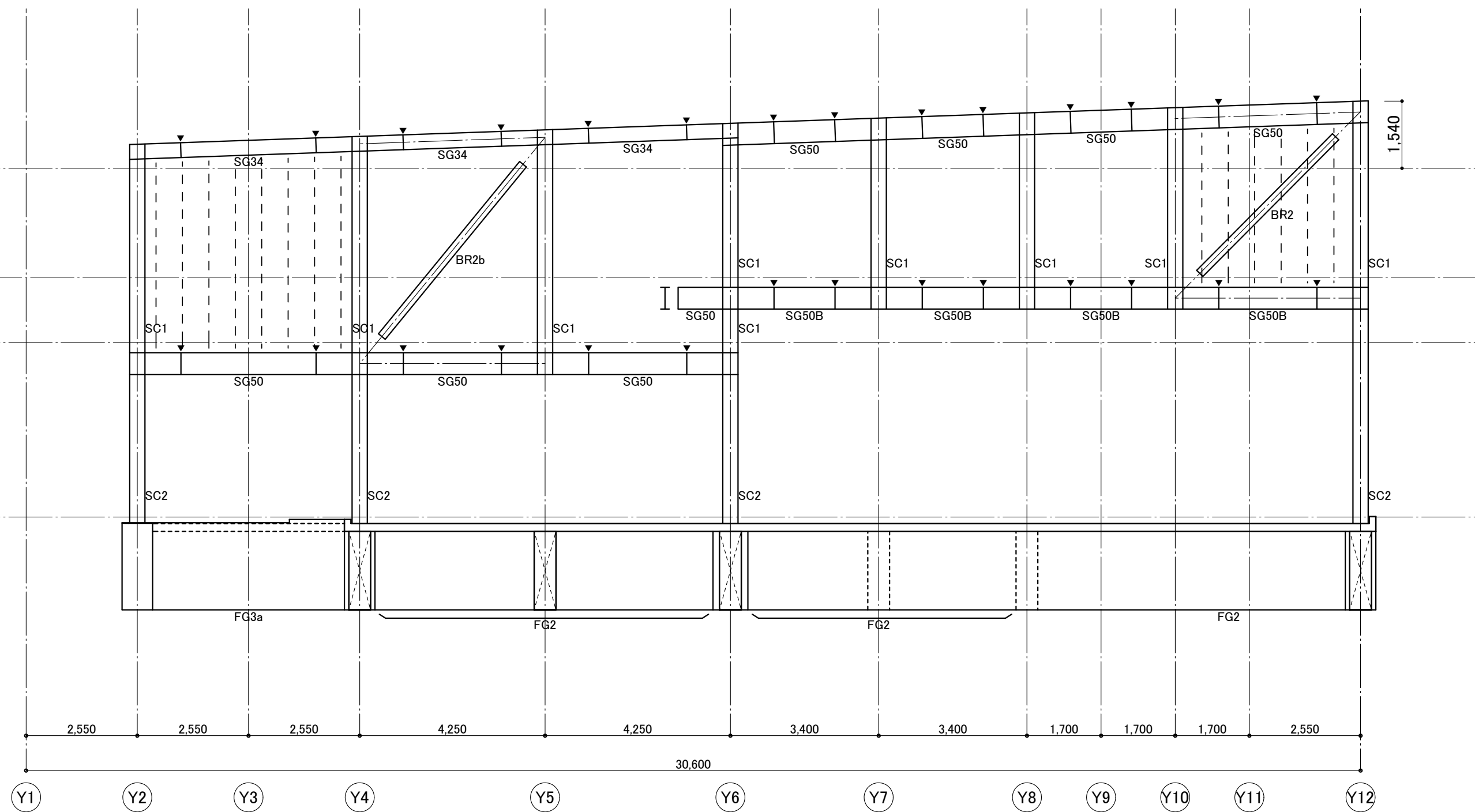
X5通り軸組図



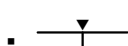
X6通り軸組図



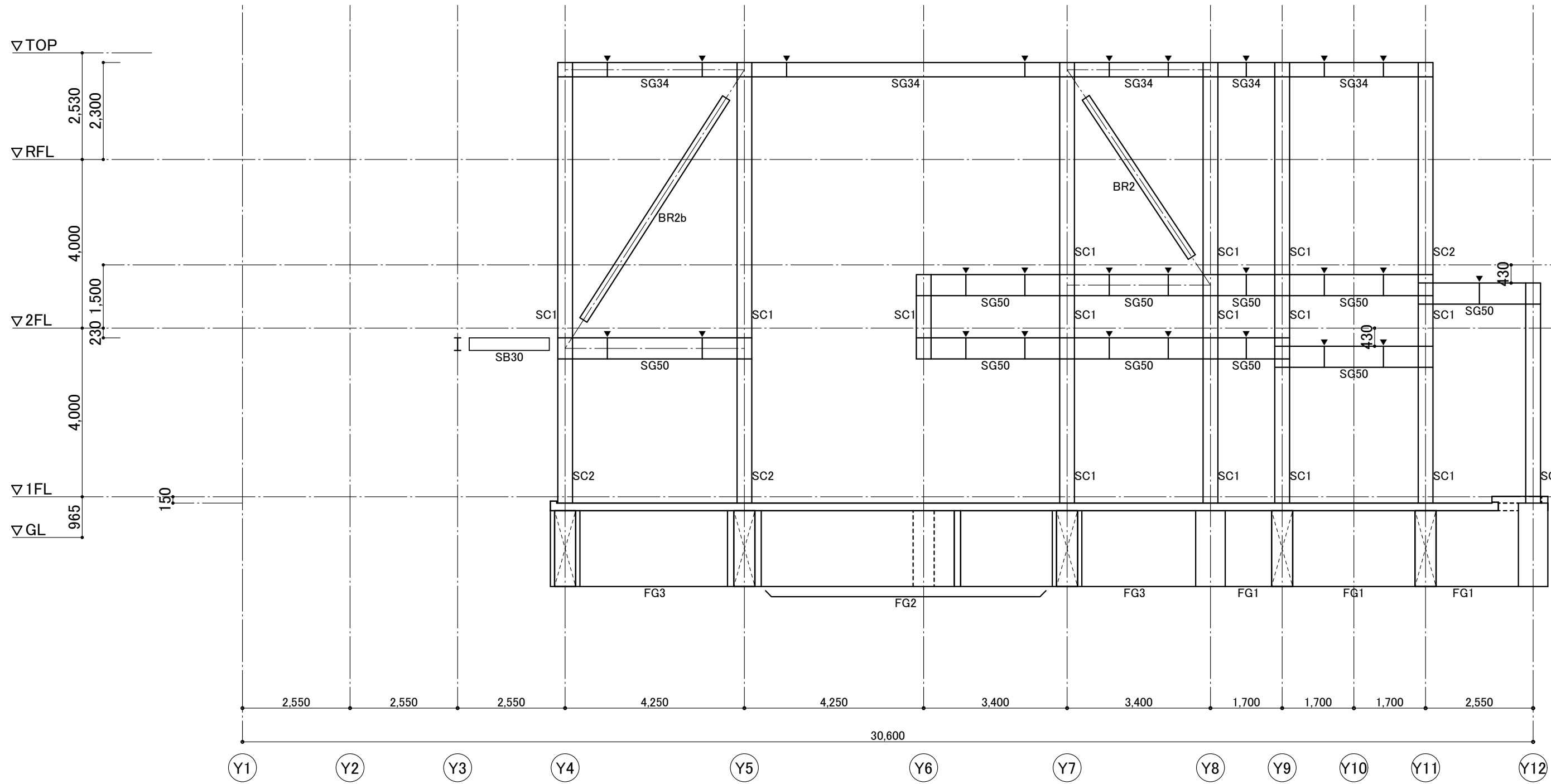
X7通り軸組図



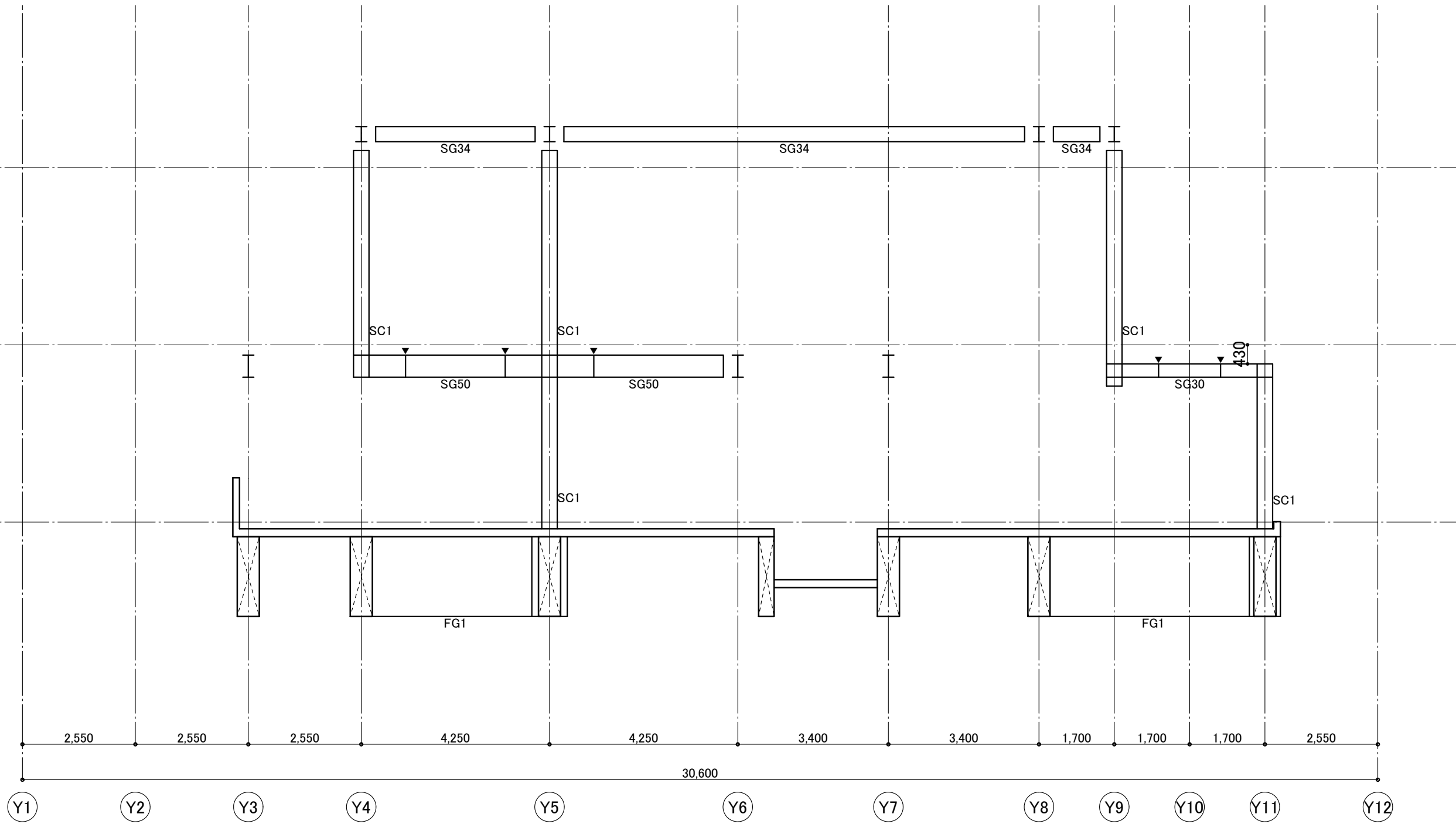
X9通り軸組図

[共通事項]
・  は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

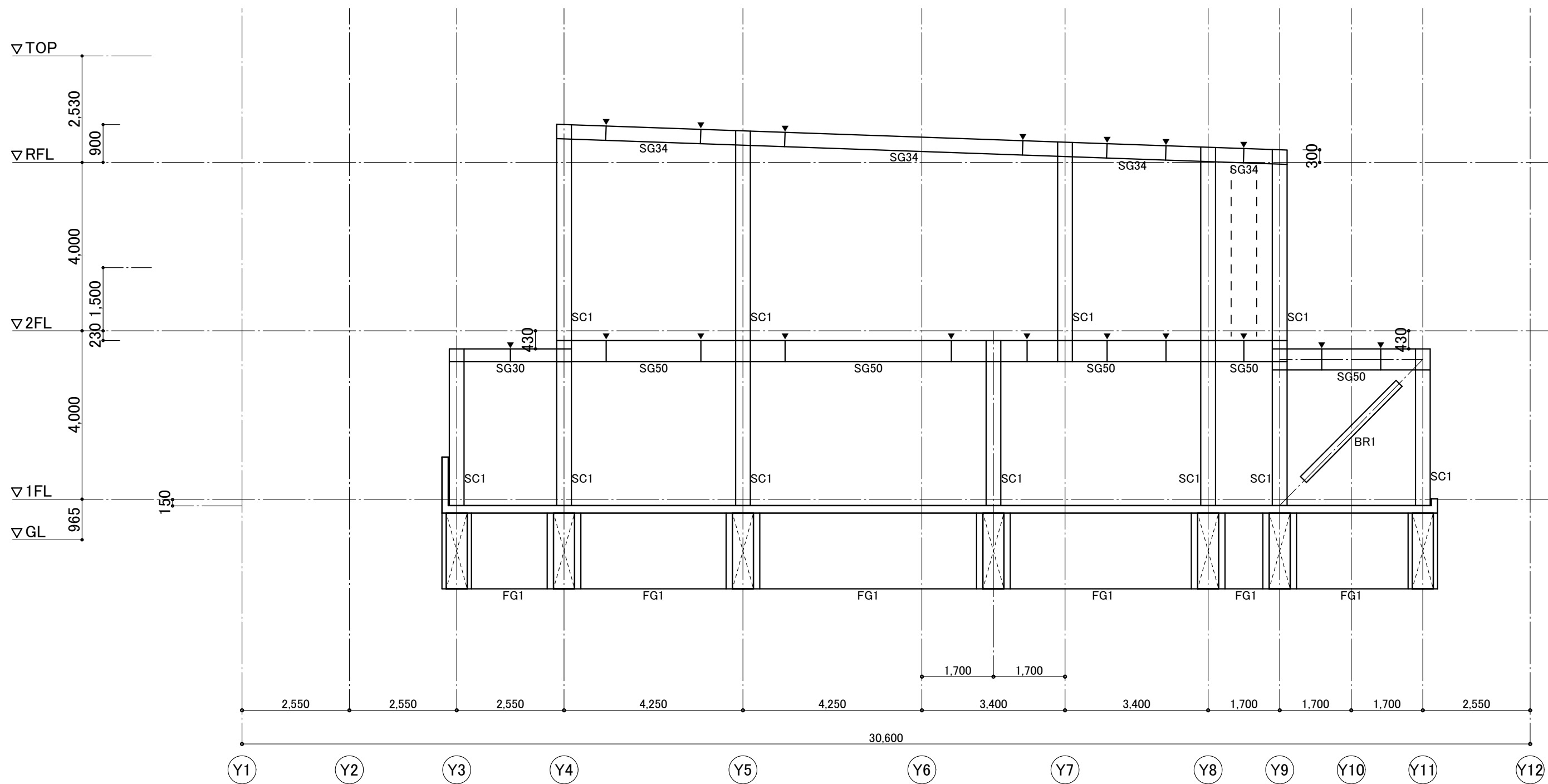
			特記	工事名称	図面尺度 1/100 (A1) 1/200 (A3)	日付	区分 構造	図面番号 S-027
				東秩父村新庁舎建設工事 軸組図 (9)				



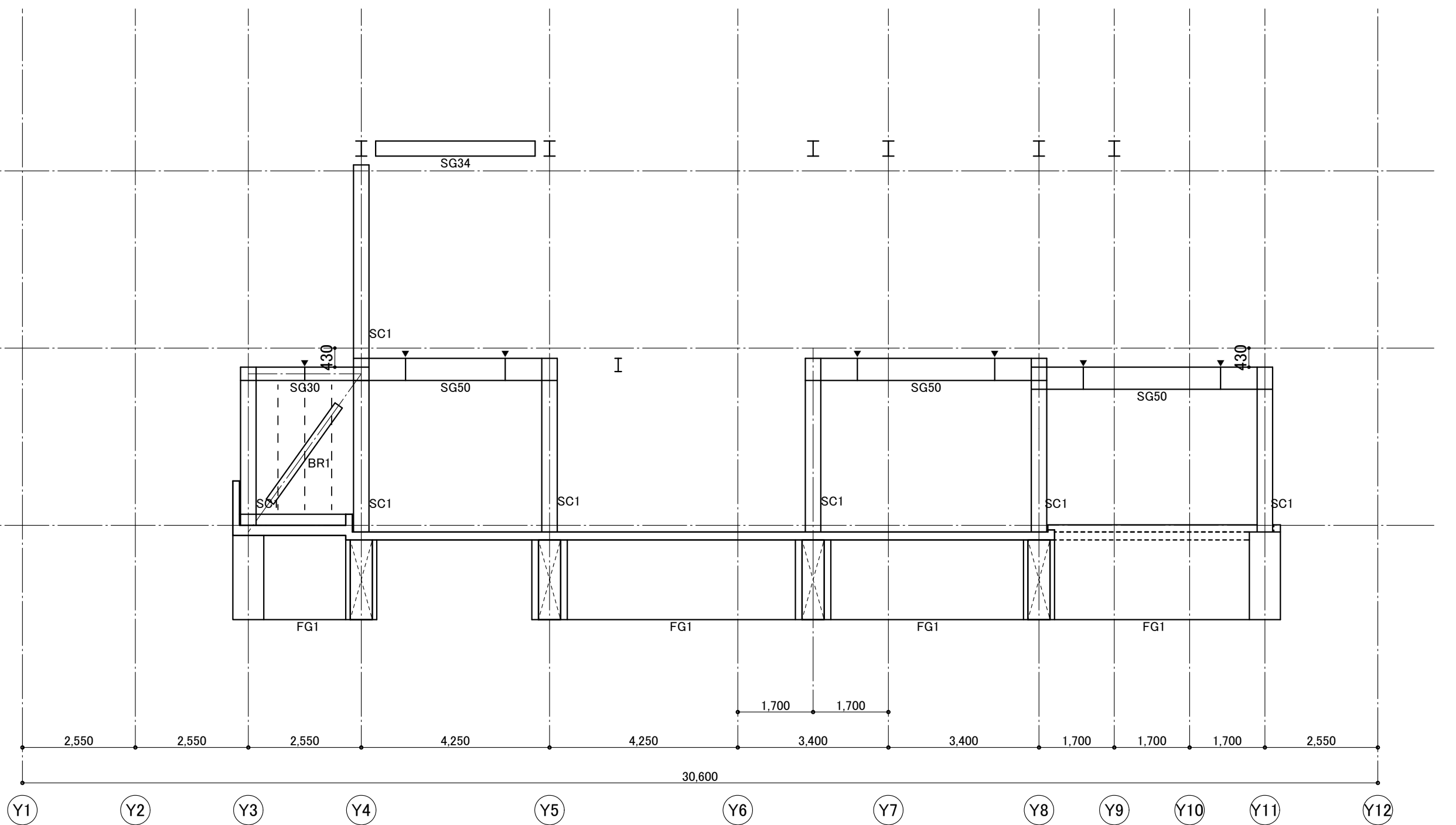
X11通り軸組図



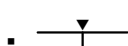
X12通り軸組図



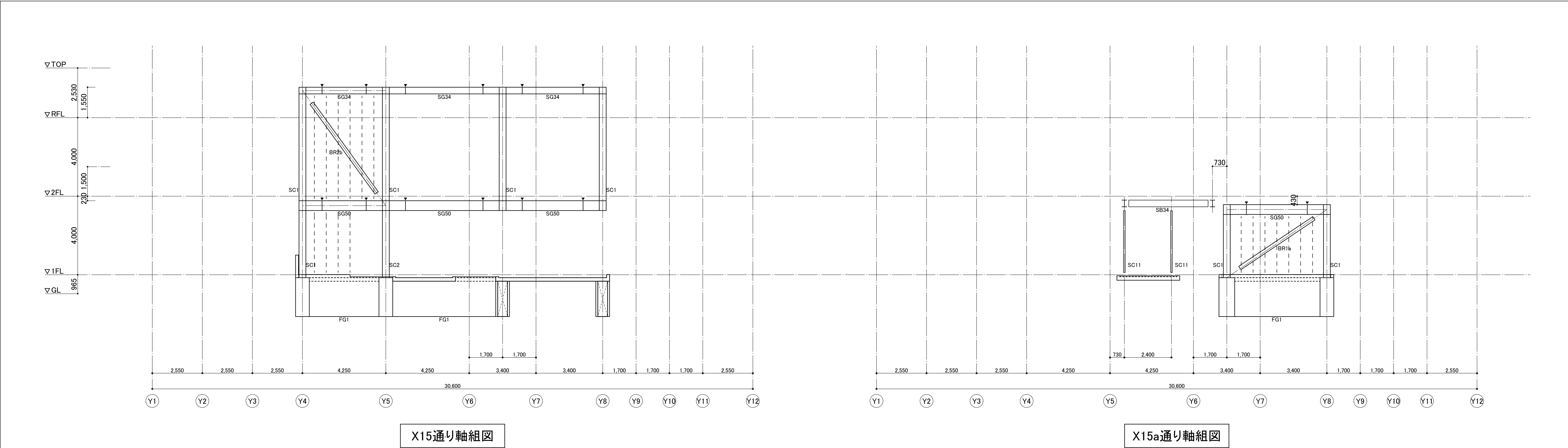
X13通り軸組図

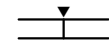


X14通り軸組図

[共通事項]
・  は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度 1/100 (A1) 1/200 (A3)	日付	区分 構造	図面番号 S-028
				東秩父村新庁舎建設工事 軸組図 (10)				

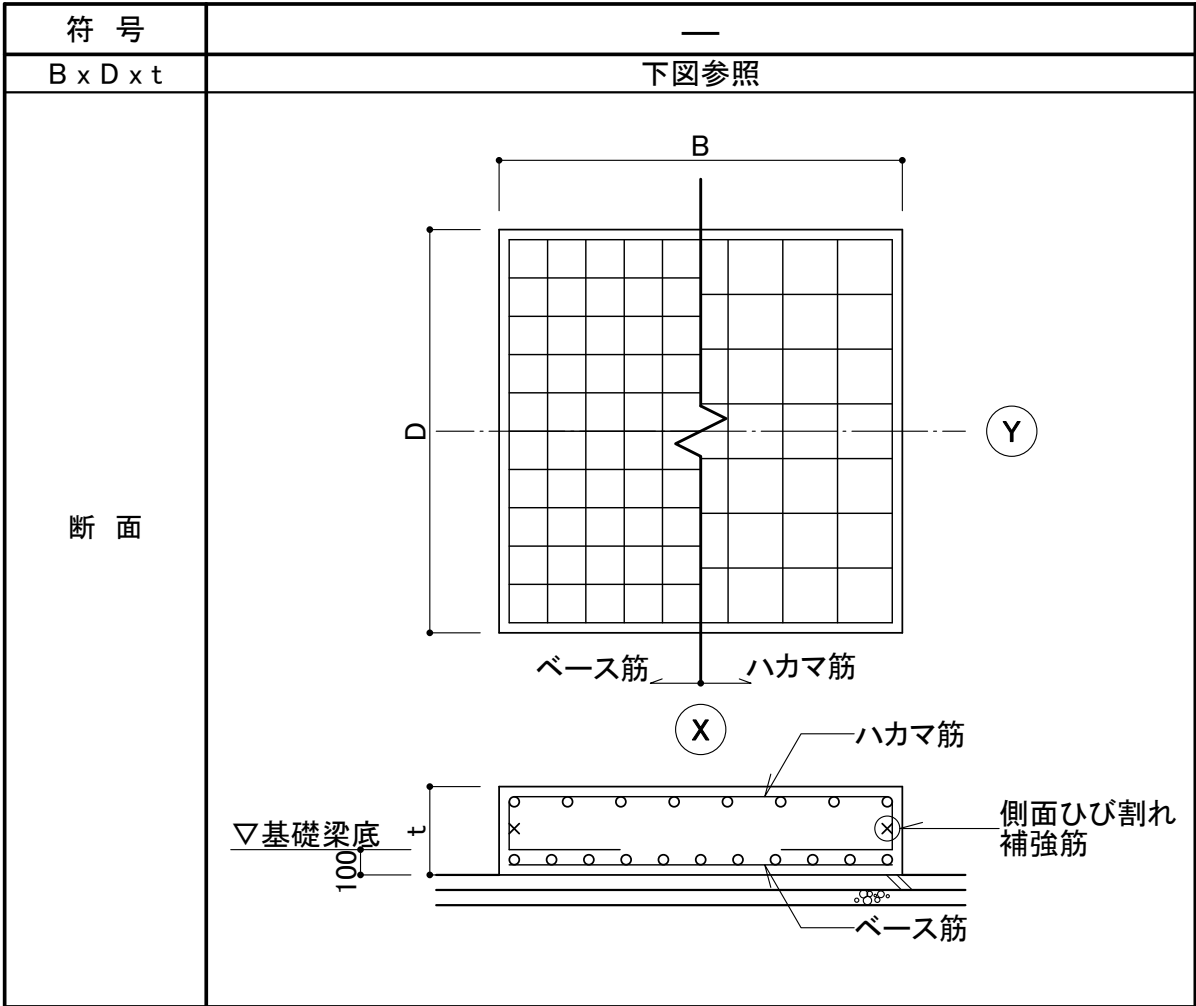


[共通事項]
・  は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100 (A1)		構造	S-029
				図面名称	1/200 (A3)			
				軸組図 (11)				

基礎 断面表

[特記事項]
・配筋要領は、S-02.3.1.(1) B に準じる。
・基礎下の地業は、捨てコン(t=50)、敷砂利(t=60)とする。
・基礎符号末尾に「A」がつくものは、ハカマ筋の鉄筋径をD13へ読み替えることとする。



符 号	B x D x t	ベース筋	ハカマ筋	備 考
F1	1,000 x 1,000 x 250	D13 @200 (両方向) [6本以上配置]	D13 @200 (両方向) [6本以上配置]	
F1a		D13 @150 (両方向) [8本以上配置]	D13 @150 (両方向) [8本以上配置]	
F2	1,250 x 1,250 x 250	D16 @200 (両方向) [7本以上配置]	D16 @200 (両方向) [7本以上配置]	
F2a		D16 @100 (両方向) [14本以上配置]	D16 @100 (両方向) [14本以上配置]	
F3	1,500 x 1,500 x 300	D19 @200 (両方向) [8本以上配置]	D16 @200 (両方向) [8本以上配置]	
F3a		D19 @150 (両方向) [11本以上配置]	D16 @150 (両方向) [11本以上配置]	
F4	1,750 x 1,750 x 350	D16 @100 (両方向) [18本以上配置]	D16 @200 (両方向) [9本以上配置]	
F5	2,000 x 2,000 x 450	D16 @100 (両方向) [20本以上配置]	D16 @200 (両方向) [10本以上配置]	側面ひび割れ補強筋 D13 (1段)
F6	2,250 x 2,250 x 500	D22 @150 (両方向) [15本以上配置]	D19 @200 (両方向) [10本以上配置]	側面ひび割れ補強筋 D13 (1段)
F7	2,500 x 2,500 x 550	D19 @100 (両方向) [26本以上配置]	D19 @200 (両方向) [13本以上配置]	側面ひび割れ補強筋 D13 (1段)

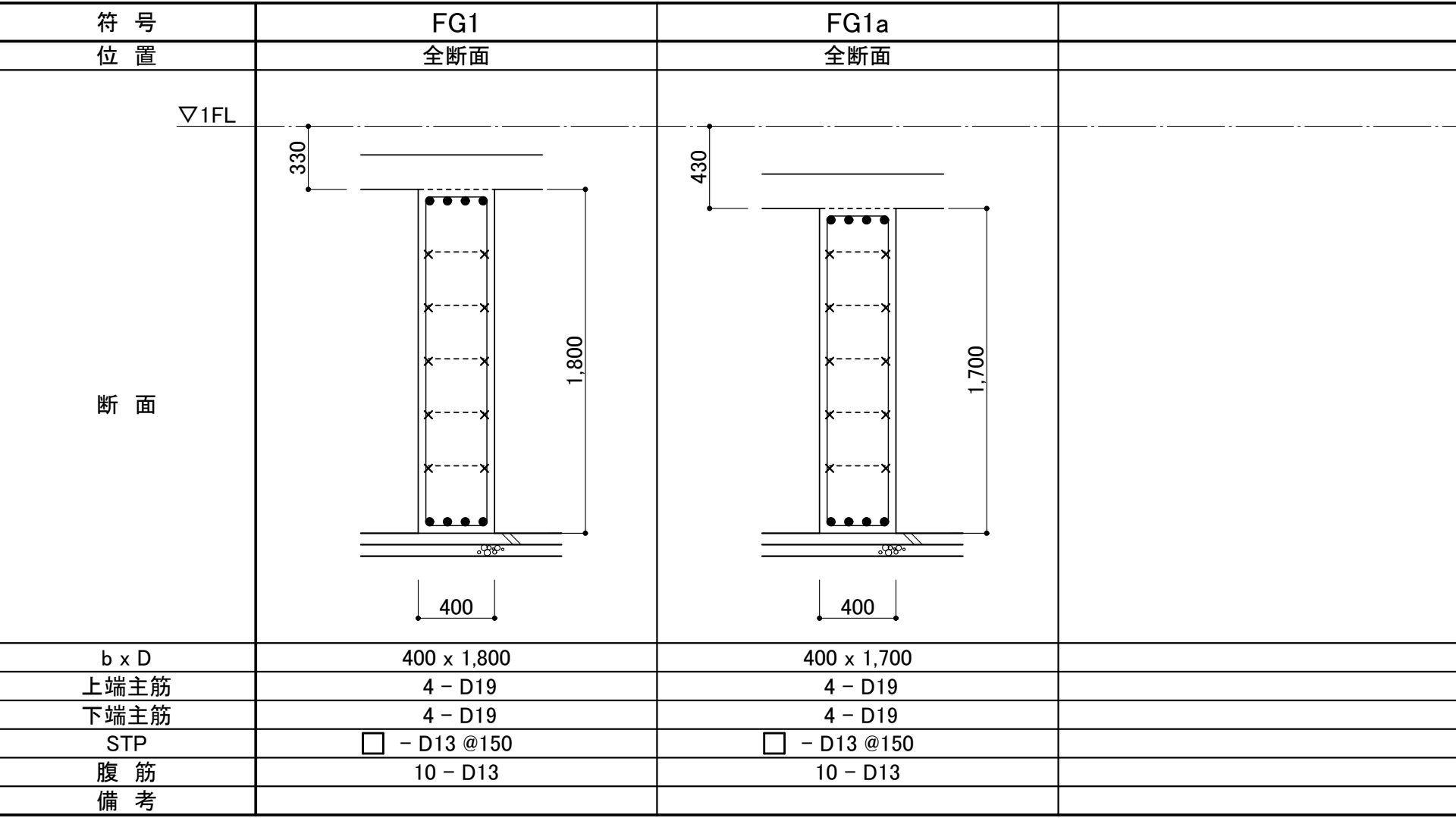
[偏心基礎詳細]

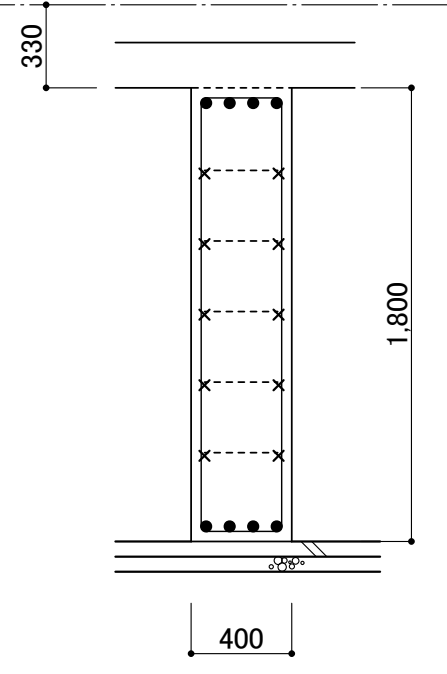
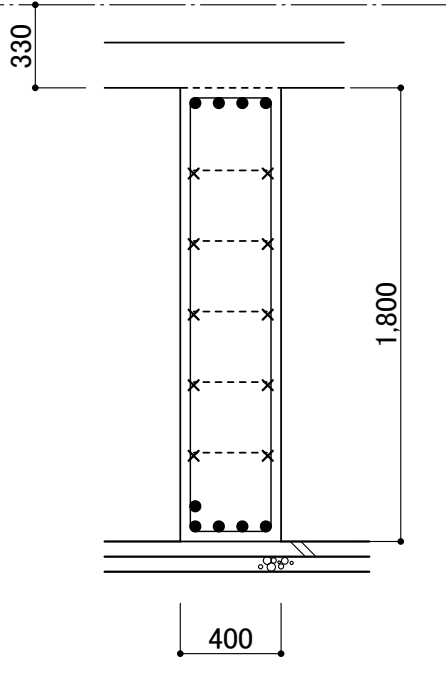
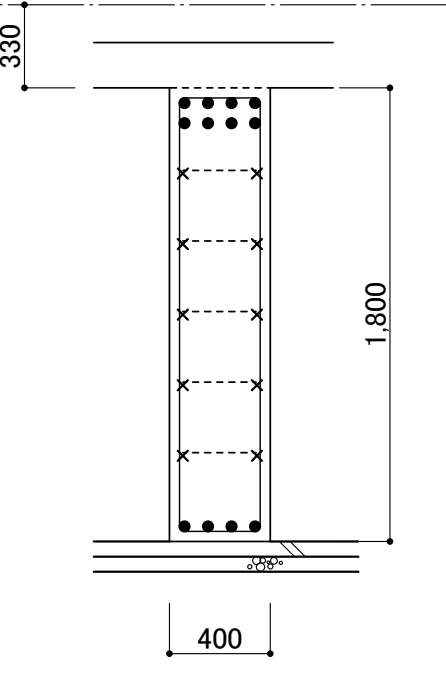
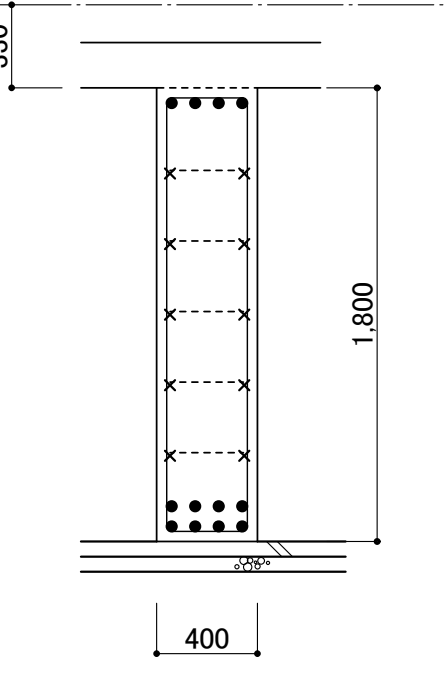
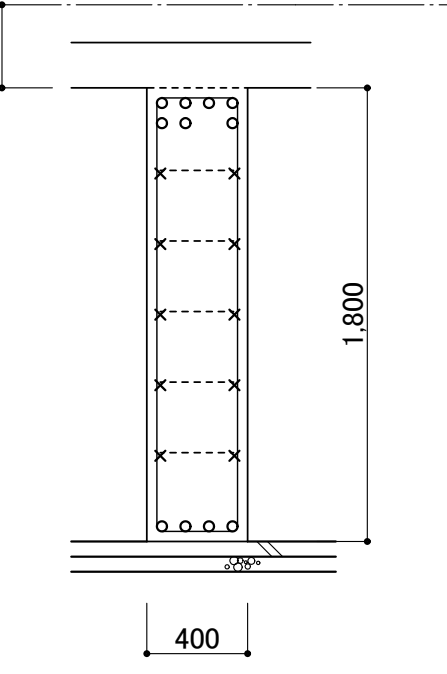
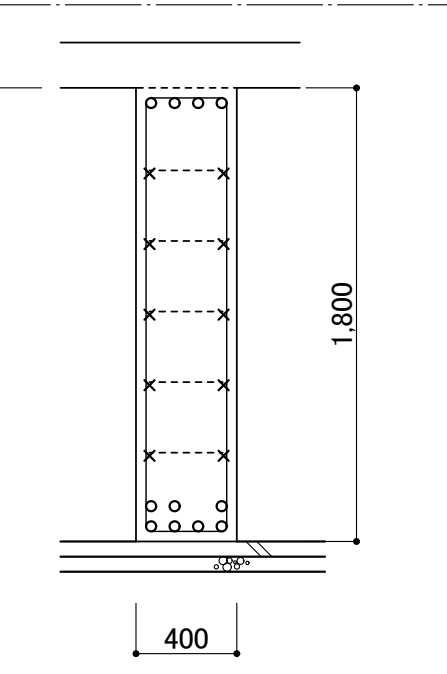
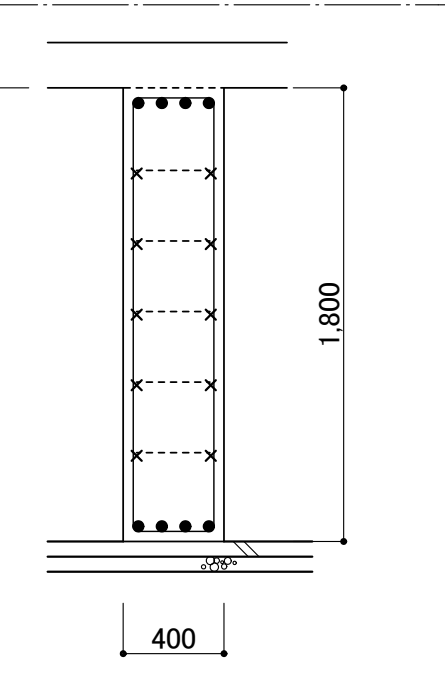
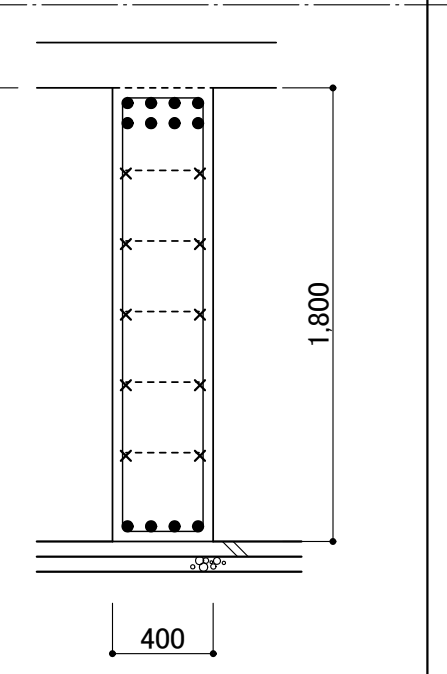
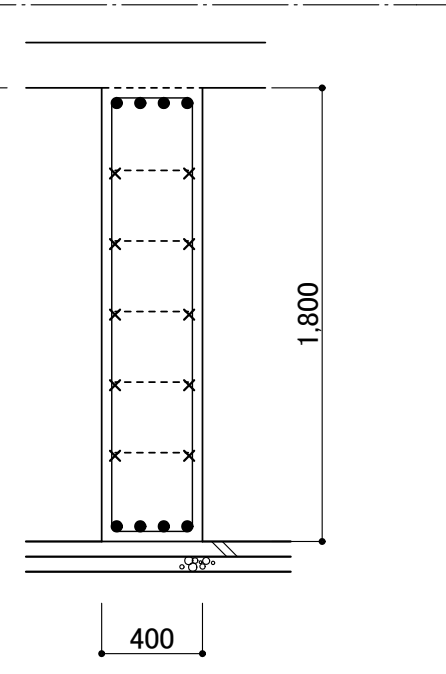
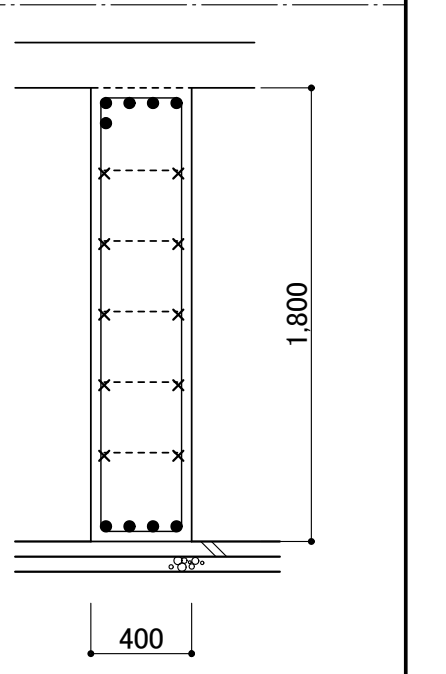


L : 530 [F1]
780 [F2]
1,030 [F3]

基礎梁 断面表

[特記事項]
・幅止め筋は D10 @1,000 とする。
・梁主筋は、X方向(東西方向)を先組とする。
・1階スラブとり合いは、S-05図6.4 打ち増し補強に準じて上フカシを設ける。
・基礎梁下の地業は、砕石t=60、捨てコンt=50 とする。



符 号	FG1b		FG2		FG2a		FG3		FG3a	
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	外 端	中央、内端	外 端	中央、内端
断 面										
	b x D	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800
上端主筋	4 - D19	4 - D19	4/4 - D19	4 - D19	4/3 - D22	4 - D22	4 - D19	4/4 - D19	4 - D19	4/1 - D19
下端主筋	4 - D19	4/1 - D19	4 - D19	4/4 - D19	4 - D22	4/3 - D22	4 - D19	4 - D19	4 - D19	4 - D19
STP	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150
腹 筋	8 - D13	8 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13
備 考										

符 号	FG4		FG4a	FG5		FG6		FG7		
位 置	両 端	中 央	全断面	Y1a通り端部、中央	Y5通り端部	両 端	中 央	X2, X9通り端部	中央、X5, X11通り端部	
断 面										
	400 x 1,800		400 x 1,800	400 x 1,800		400 x 1,800		400 x 1,800		
	4 - D22		4 - D22	4 - D22		4/3 - D22		4/3 - D19		
	4/1 - D22		4/3 - D22	4/2 - D19		4 - D22		4/2 - D22		
	□ - D13 @150		□ - D13 @150	□ - D13 @150		□ - D13 @150		□ - D13 @150		
腹 筋	10 - D13		10 - D13	10 - D13		10 - D13		10 - D13		
備 考										

基礎柱型 断面表

符 号	rC1	rC1A	rC2		
断 面					
B x D	730 x 730	730 x 730	540 x 540		
立上り筋	8 - D29	8 - D25	12 - D16		
HOOP	□ - D13 @100	□ - D13 @100	□ - D13 @100		
備 考	側柱、隅柱へ適用	中柱へ適用			

RC小梁 断面表

〔特記事項〕
・幅止め筋は D10 @1,000 とする。
・FB符号の梁下の地業は、砕石t=60、捨てコンt=50 とする。

符 号	B 1 / FB1		B 1 A		B 2 / FB 2	B 2 A		B 3	FB 11	
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	全断面	両 端	中 央	全断面	全断面	
断 面										
b x D	350 x 700	350 x 700	350 x 700	350 x 700	350 x 550	350 x 550	350 x 550	350 x 450	350 x 1,800	
上端主筋	3 - D19	3 - D19	3 - D19	3 - D19	3 - D19	3 - D19	3 - D19	3 - D16	3 - D16	
下端主筋	3 - D19	3/1 - D19	3 - D19	3/3 - D19	3 - D19	3 - D19	3/2 - D19	3 - D16	3 - D16	
STP	□ - D13 @200	□ - D13 @200	□ - D13 @200	□ - D13 @200	□ - D13 @200	□ - D13 @200	□ - D13 @200	□ - D13 @200	□ - D13 @200	
腹 筋	2 - D10	2 - D10	2 - D10	2 - D10	—	—	—	—	10 - D13	
備 考										

スラブ 断面表

〔特記事項〕
・FS符号のスラブ下の地業は、砕石t=60 とする。

FS18		FS18A		FS25	
FS15		FS			
S18		DS1		S15D	

壁 断面表

〔特記事項〕
・特記なき限り、幅止め筋は D13 @1,000 とする。

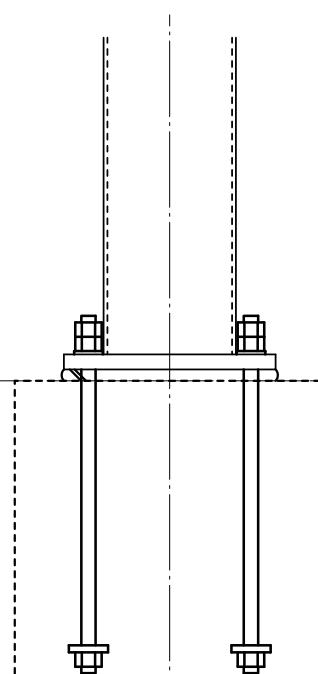
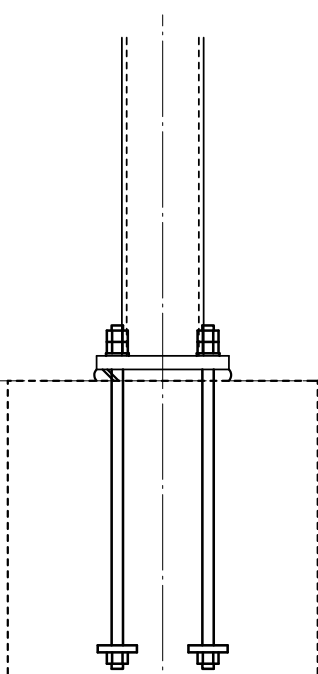
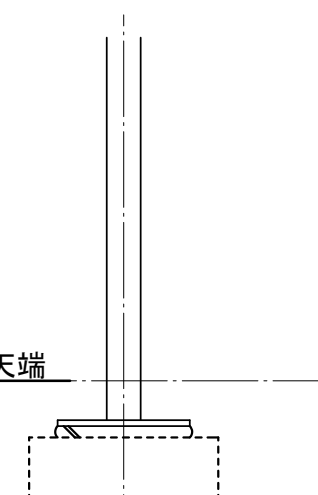
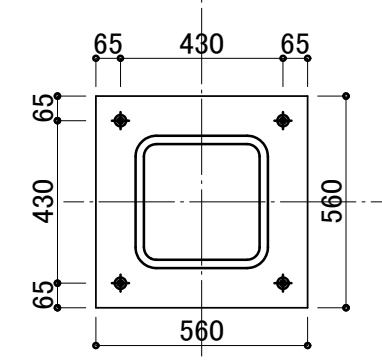
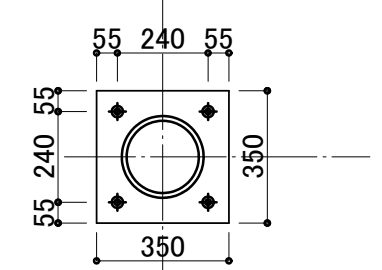
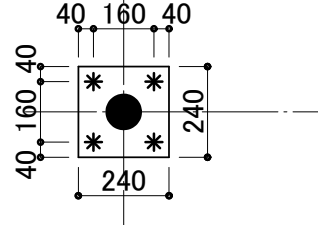
符 号	W20			
断 面				
縦 筋	D13 @200 ダブル			
横 筋	D13 @200 ダブル			
開 口 補強筋	縦	1 - D16		
	横	1 - D16		
	斜め	1 - D16		
備 考				

鉄骨部材断面表

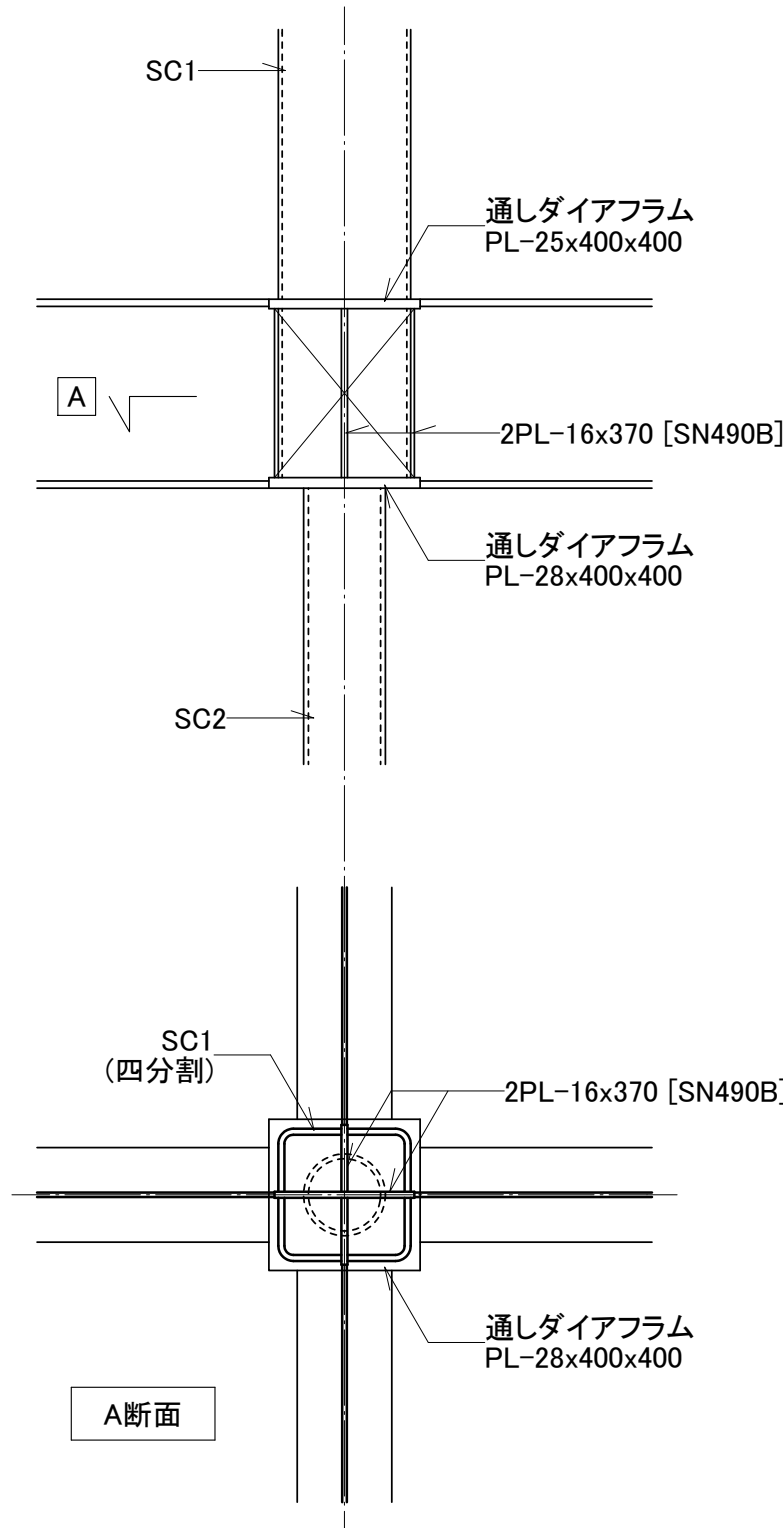
符 号	断 面	鋼材材質	ピン接合部						スタッド	方 杖	備 考
			GPL	n	HTB	g	p	タイプ			
SC1	□- 350x 350x 16	BCR295									
SC2	φ 216.3x 12.7	STK400									
SC11	φ 90	SS400									
SG50	H- 500x 250x 12x 19	SN400B	GPL - 12	5	M20	60	-	A	2-φ 19 @300 (H=80)		
SG50A	H- 500x 200x 9x 19	SN400B	GPL - 9	5	M20	60	-	A	1-φ 19 @300 (H=80)		
SG50B	H- 500x 300x 12x 25	SN400B	GPL - 12	5	M20	60	-	A	2-φ 19 @300 (H=80)		
SG45	H- 450x 250x 9x 16	SN400B	GPL - 9	4	M20	60	-	A			
SG35	H- 350x 175x 7x 11	SN400B	GPL - 9	3	M20	60	-	A	1-φ 19 @300 (H=80)		
SG34	H- 340x 250x 9x 14	SN400B	GPL - 9	3	M20	60	-	A			
SG34A			GPL - 22	4	M22	60	-	B		ピン接合部ウェブに 2CPL-6 (L=500)	
SG30	H- 300x 150x 6.5x 9	SN400B	GPL - 9	3	M20	60	-	A	1-φ 19 @300 (H=80)		
SB50	H- 500x 200x 9x 19	SS400	GPL - 9	5	M20	60	-	A	1-φ 19 @300 (H=80)		
SB40	H- 400x 200x 8x 12	SS400	GPL - 9	4	M20	60	-	A	1-φ 19 @300 (H=80)		
SB35	H- 350x 175x 7x 11	SS400	GPL - 9	3	M20	60	-	A	1-φ 19 @300 (H=80)		
SB34	H- 340x 250x 9x 14	SS400	GPL - 9	3	M20	60	-	A			
SB30	H- 300x 150x 6.5x 9	SS400	GPL - 9	3	M20	60	-	A	1-φ 19 @300 (H=80)		
SB25	H- 250x 125x 6x 9	SS400	GPL - 9	2	M20	60	-	A			
HV1	2L- 100x 100x 10	SS400	GPL - 25	3	M20	60	-	A			
HV1A	2L- 100x 100x 13	SS400	GPL - 25	4	M20	60	-	A			
HV2	φ 165.2x 6.0	STK400	GPL - 25	3	M22	60	-	A			
HV3	φ 190.7x 8.2	STK400	GPL - 25	4	M22	60	-	A			
HV11	2L- 65x 65x 6	SS400	GPL - 22	3	M20	-	-	A			

鉄骨柱脚断面表

【特記事項】
・
・

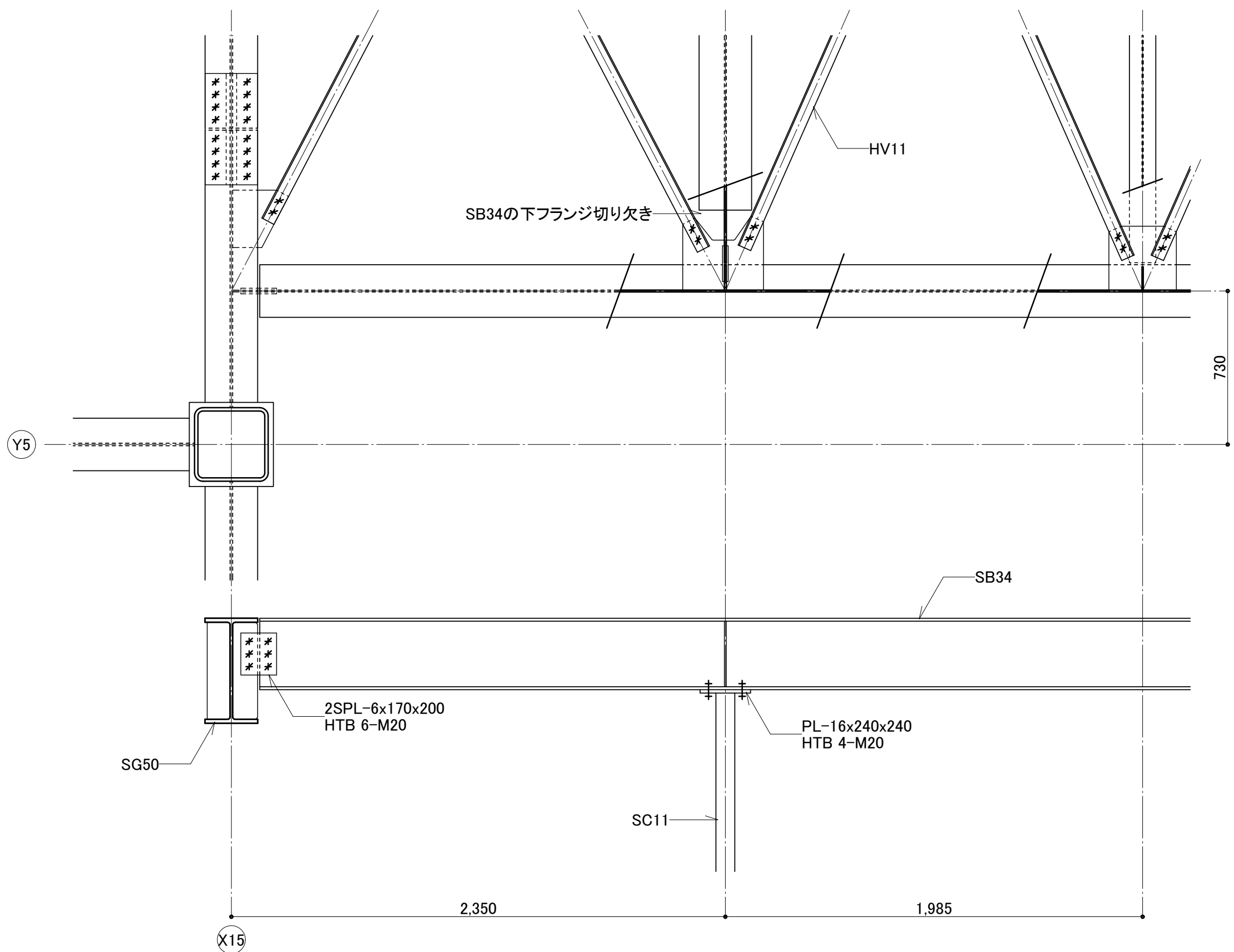
符 号	SC1	SC2	SC11
柱脚詳細	露出柱脚	露出柱脚	露出柱脚
▽ 基礎梁天端			▽ スラブ天端 
			
ベースプレート	PL- 40x 560x 560 [TMCP385B]	PL- 36x 350x 350 [SN490B]	PL- 16x 240x 240 [SN400B]
アンカーボルト	8 - D41 [BPD-SD390]	4 - M30 [BPM-SD490]	4 - M16 [SS400]
備 考	既製柱脚: 35-4H41 (セレクトベース) ベースモルタル無収縮 t=30	既製柱脚: 216-13V2 (ベースバック) ベースモルタル無収縮 t=30	ベースモルタル無収縮 t=30

柱梁仕口詳細



SC1⇄SC2切替え箇所の仕口では
SC2側のダイアフラム板厚を1サイズアップ

エントランスキャノピー 鉄骨詳細



特記

工事名称
東秩父村新庁舎建設工事

図面名称
鉄骨部材断面表、鉄骨柱脚断面表

図面尺度

1/20 (A1)

1/40 (A3)

日付

区分

構造

図面番号

S-032

鐵骨梁繼手表

[特記事項]

・SPLは母材と同等強度の鋼材とし、特記なき高力ボルトは S10T とする。

符 号		SG50	SG50A	SG50B	SG45	SG35	SG34	SG30
継 手 符 号		GJ50	GJ50A	GJ50B	GJ45	GJ35	GJ34	GJ30
断 面		H- 500x 250x 12x 19	H- 500x 200x 9x 19	H- 500x 300x 12x 25	H- 450x 250x 9x 16	H- 350x 175x 7x 11	H- 340x 250x 9x 14	H- 300x 150x 6.5x 9
鋼材種別		SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B
形 状								
フランジ	S.PL	2PL- 16x 250x 650 4SPL- 16x 100x 650	2PL- 12x 200x 410 4SPL- 16x 80x 410	2PL- 16x 300x 620 4SPL- 19x 110x 620	2PL- 12x 250x 530 4SPL- 12x 100x 530	2PL- 9x 175x 290 4SPL- 9x 70x 290	2PL- 12x 250x 530 4SPL- 12x 100x 530	2PL- 9x 150x 290 4SPL- 9x 60x 290
	HTB	40- M20	24- M20	48- M20	32- M20	16- M20	32- M20	16- M20
ウェブ	S.PL	2PL- 12x 350x 290	2PL- 9x 320x 170	2PL- 12x 350x 290	2PL- 9x 320x 170	2PL- 6x 260x 170	2PL- 9x 200x 290	2PL- 6x 200x 170
	HTB	16- M20	10- M20	16- M20	10- M20	6- M20	12- M20	4- M20
備 考								

座屈拘束ブレース断面表

[特記事項]

・下表に示す芯材断面、記載の値以上の許容耐力を有し、認定もしくは評価を取得したものとする。

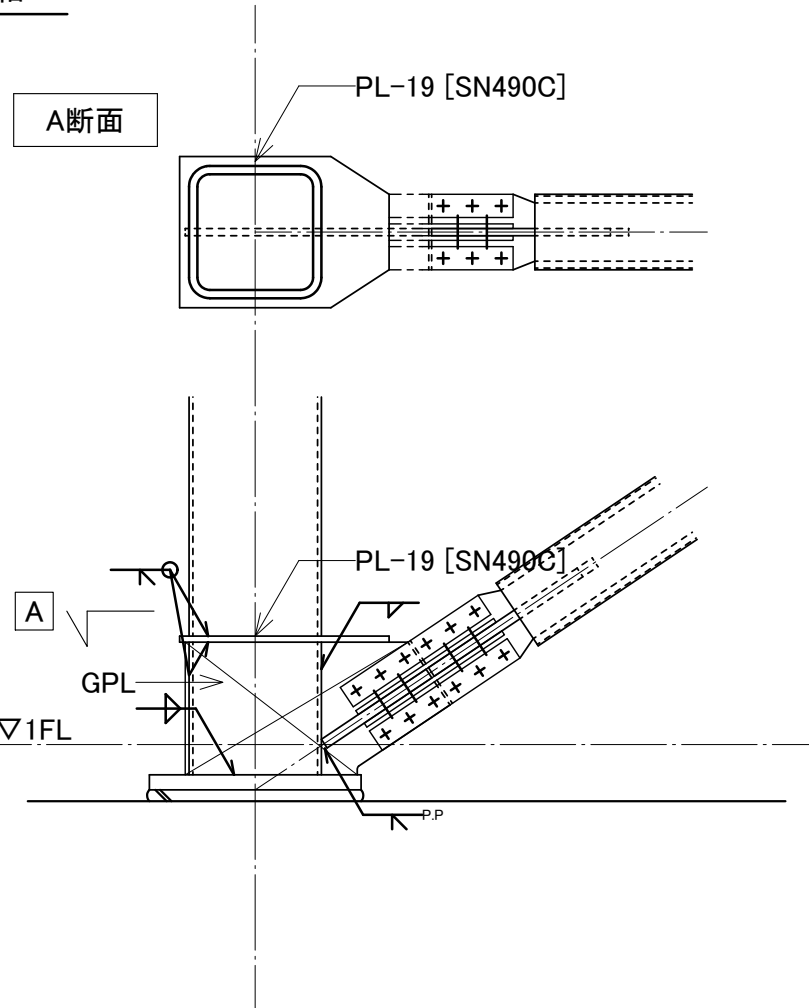
・ブレースの部材ランクは BA ランクとする。

・芯材、補剛材は各メーカーの仕様の断面としてもよい。

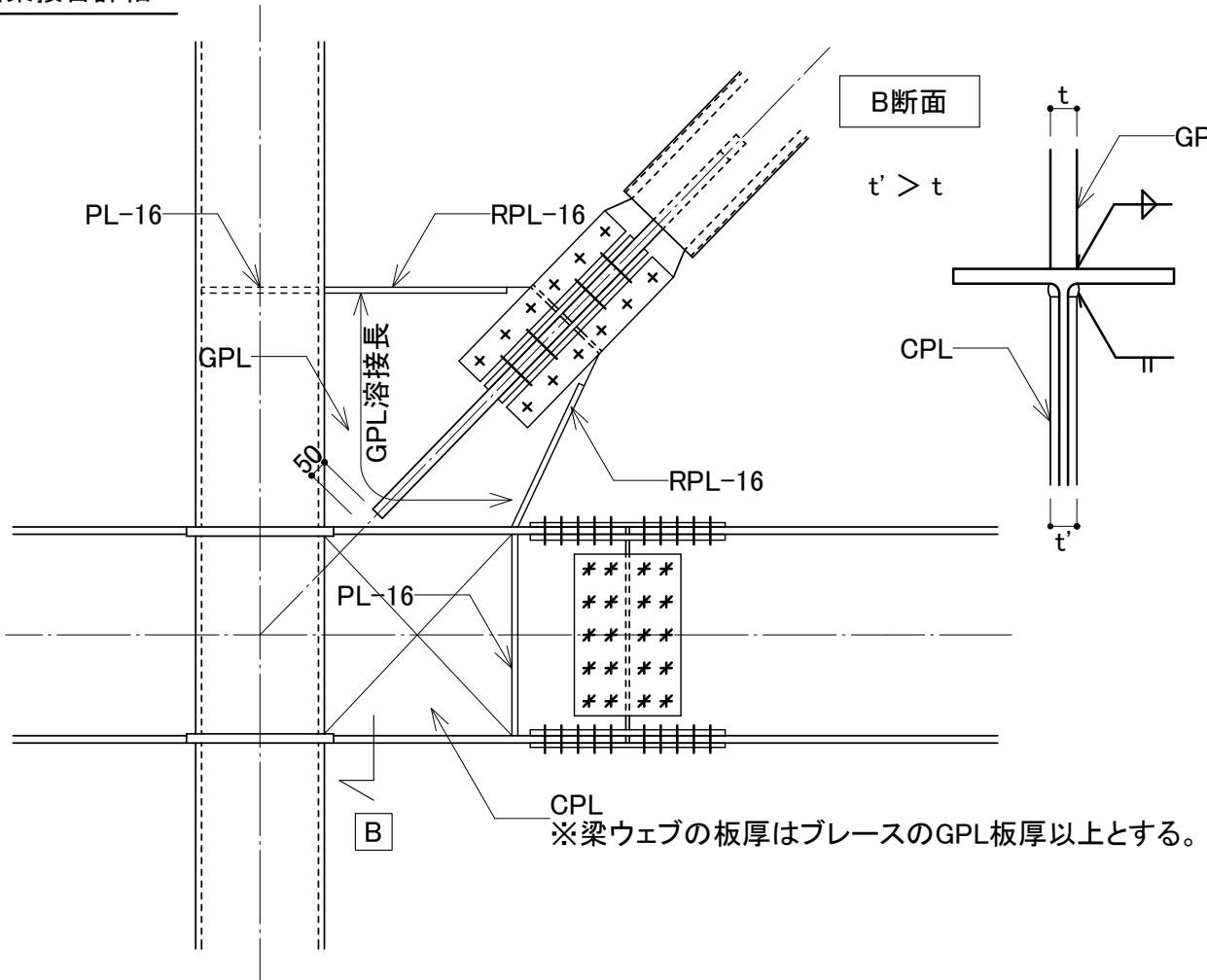
・ブレース端部の高力ボルトは、床コンクリートの打設・硬化後に本締めを行う。

[illegible]

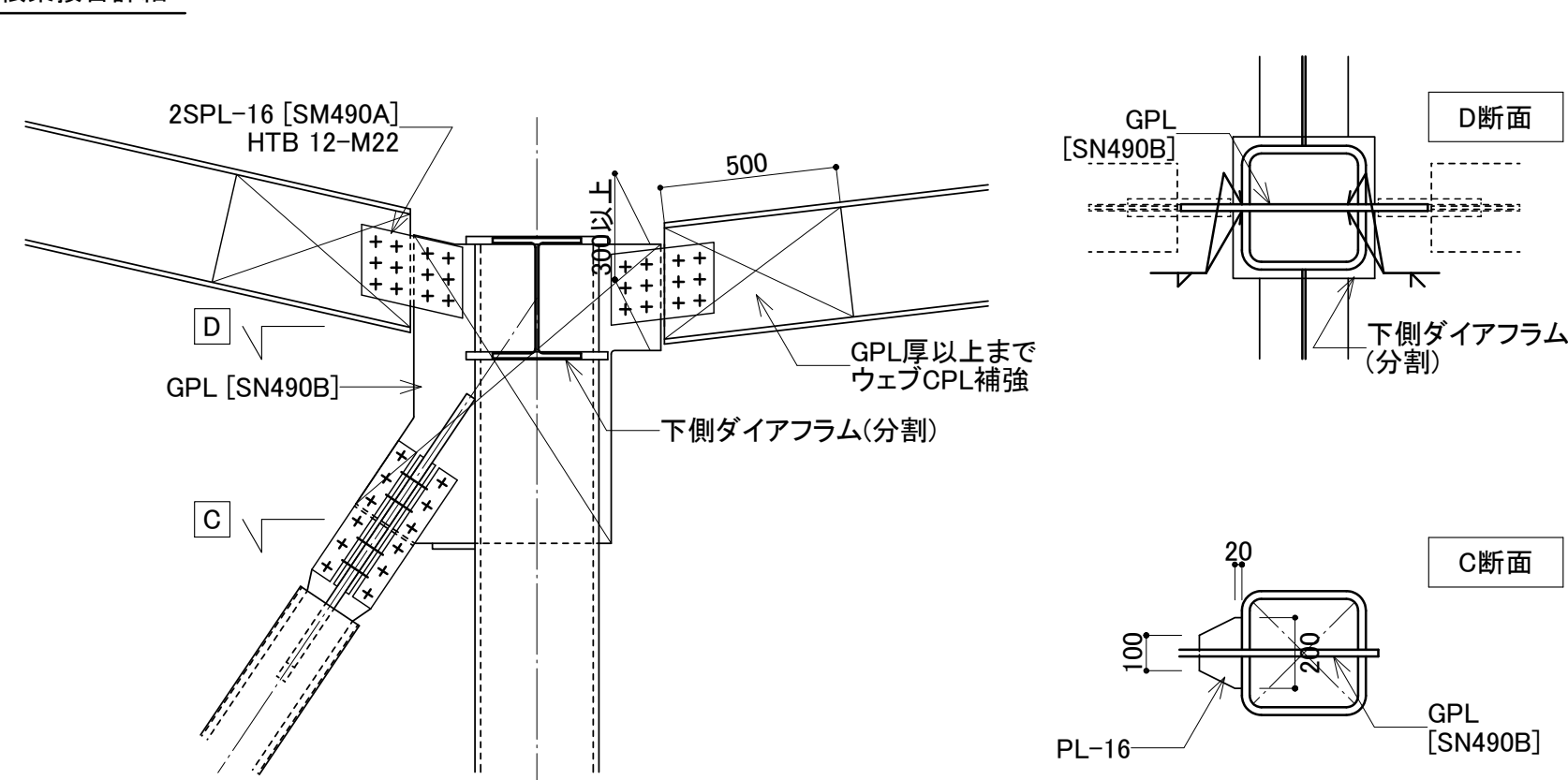
座屈拘束ブレース接合部詳細



2階梁接合詳細

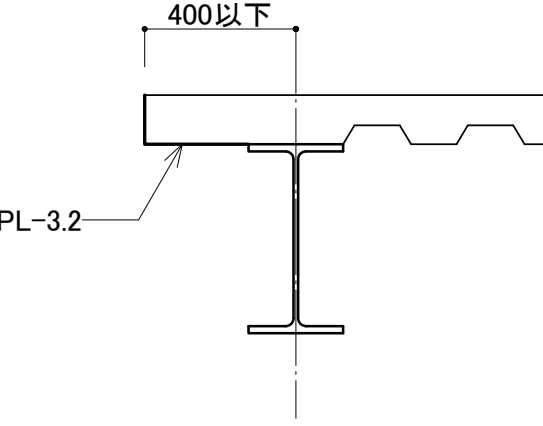
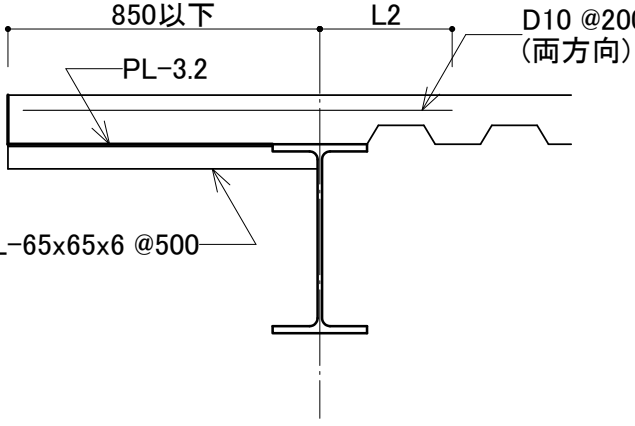
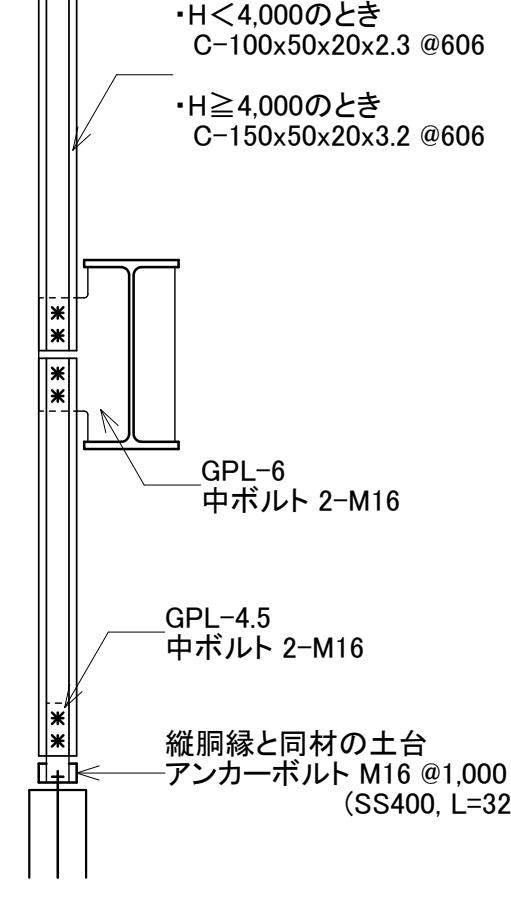
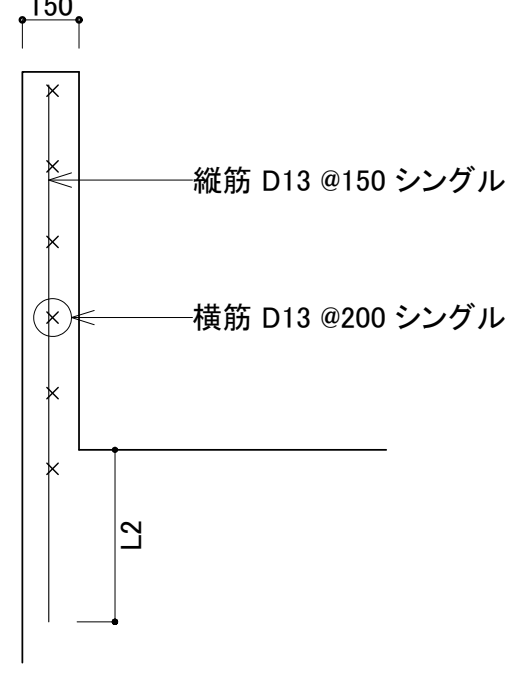
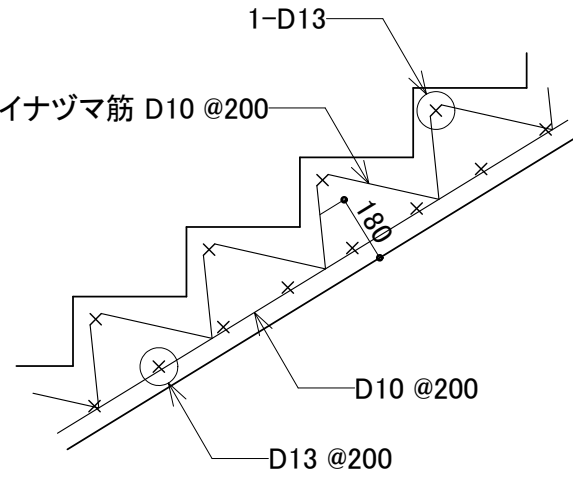
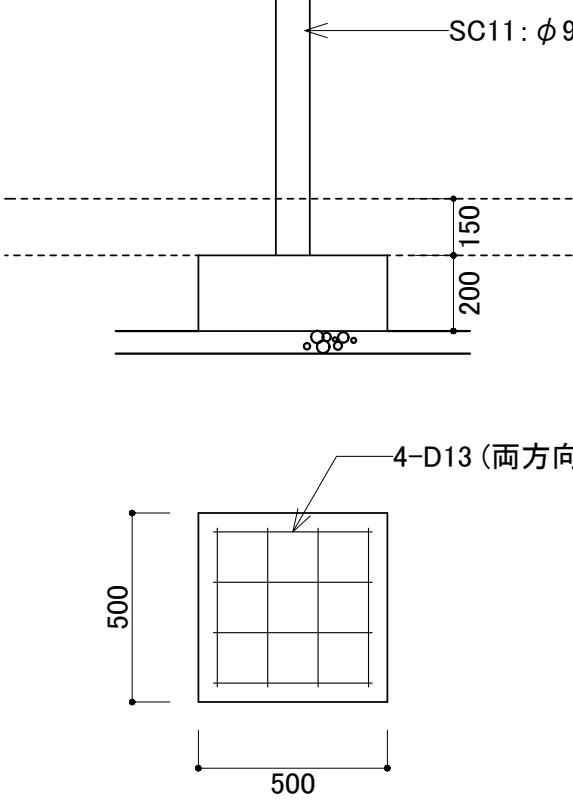
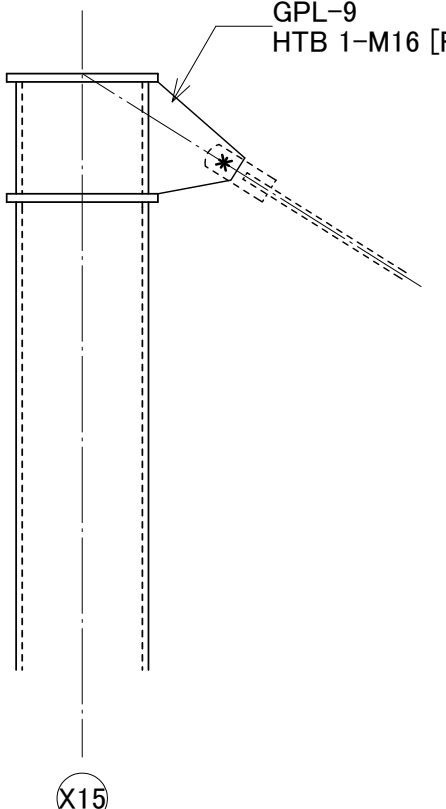


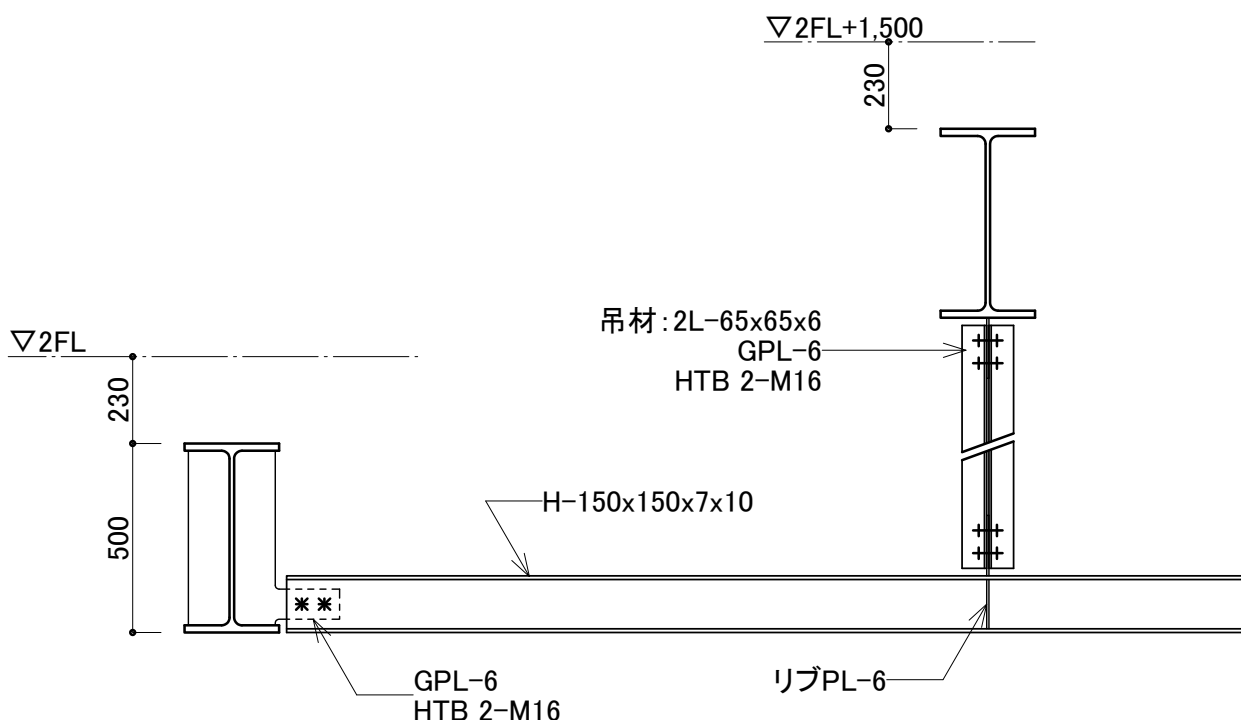
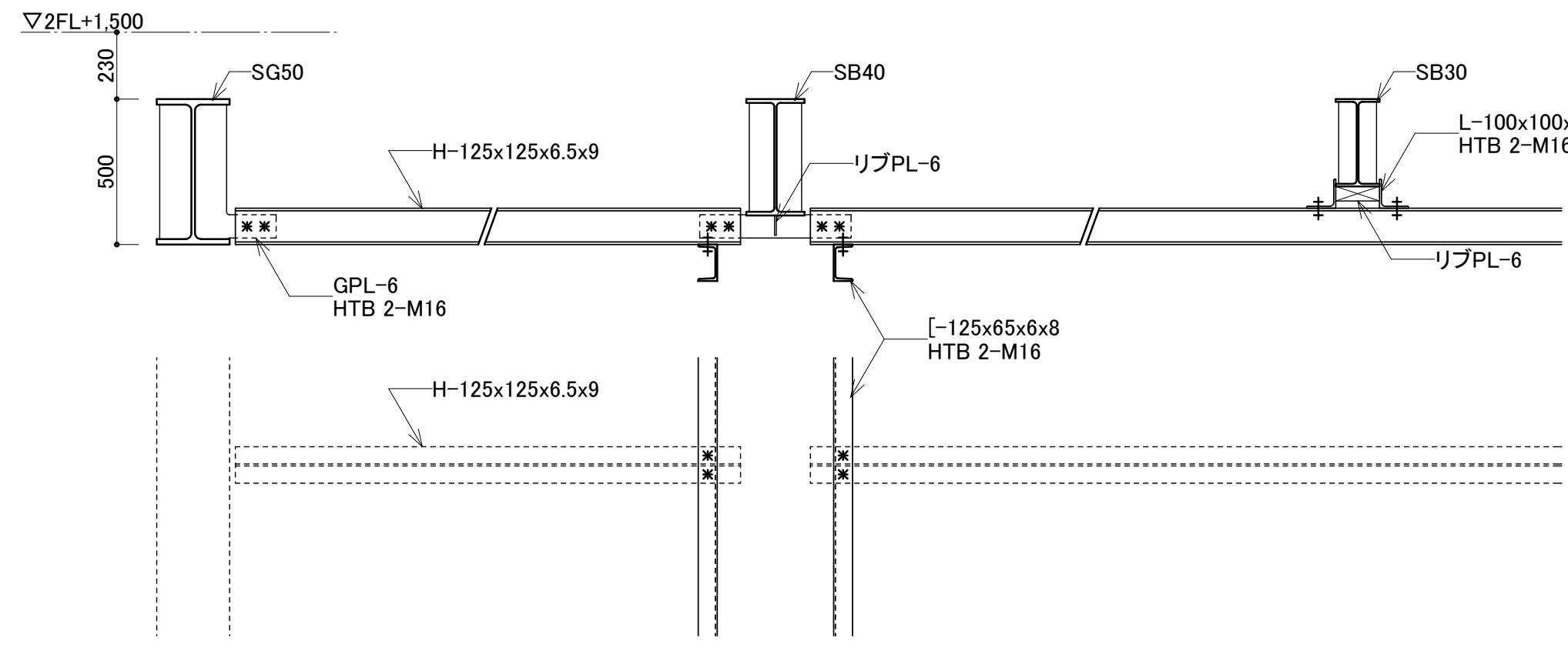
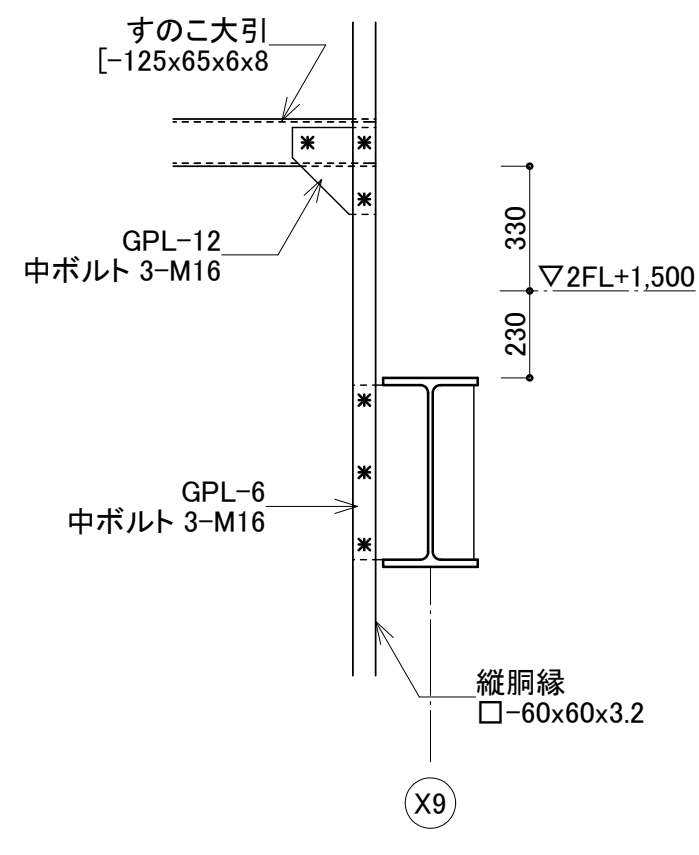
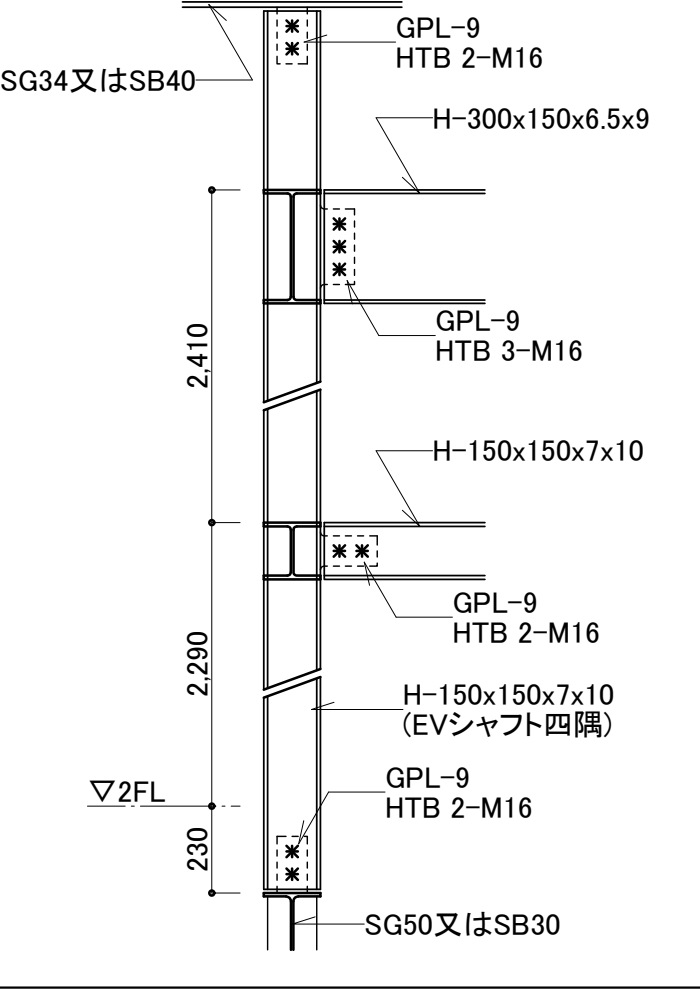
屋根梁接合詳細

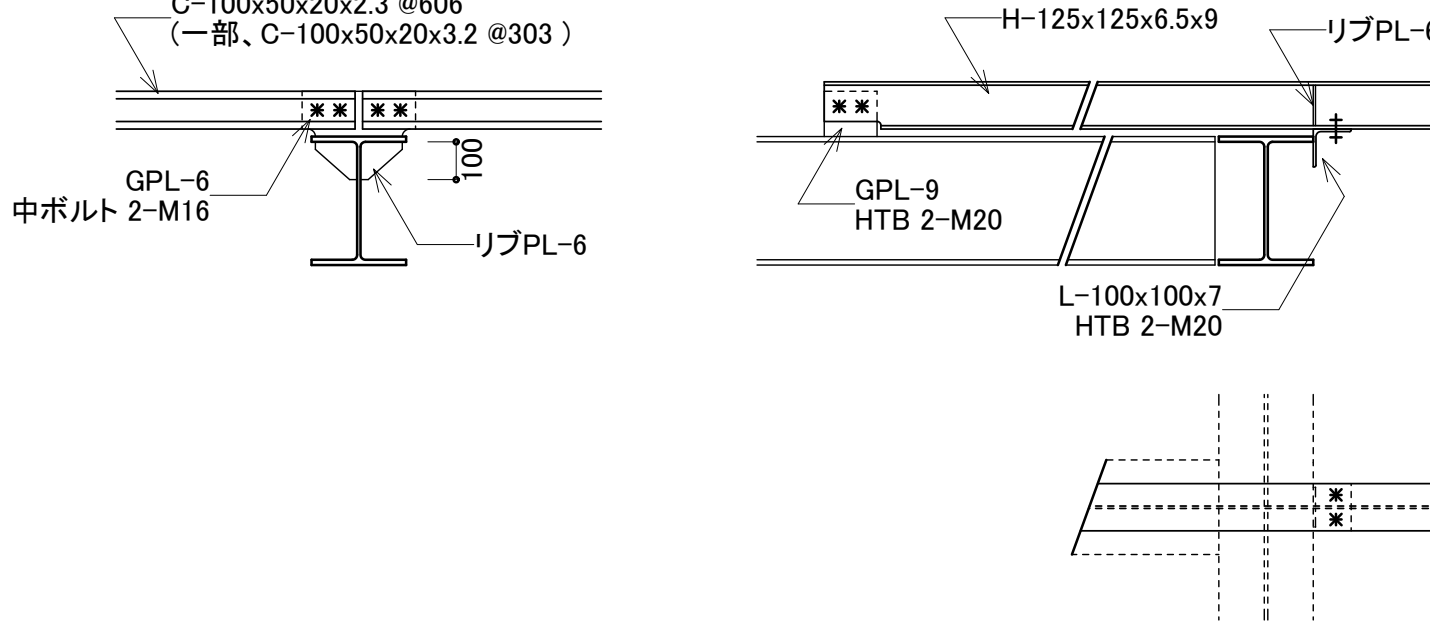


			特記	工事名称	図面尺度	目付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/20 (A1)		構造	S-033
				図面名称 鉄骨梁継手表、座屈拘束ブレース断面表	1/40 (A3)			

その他部材断面表

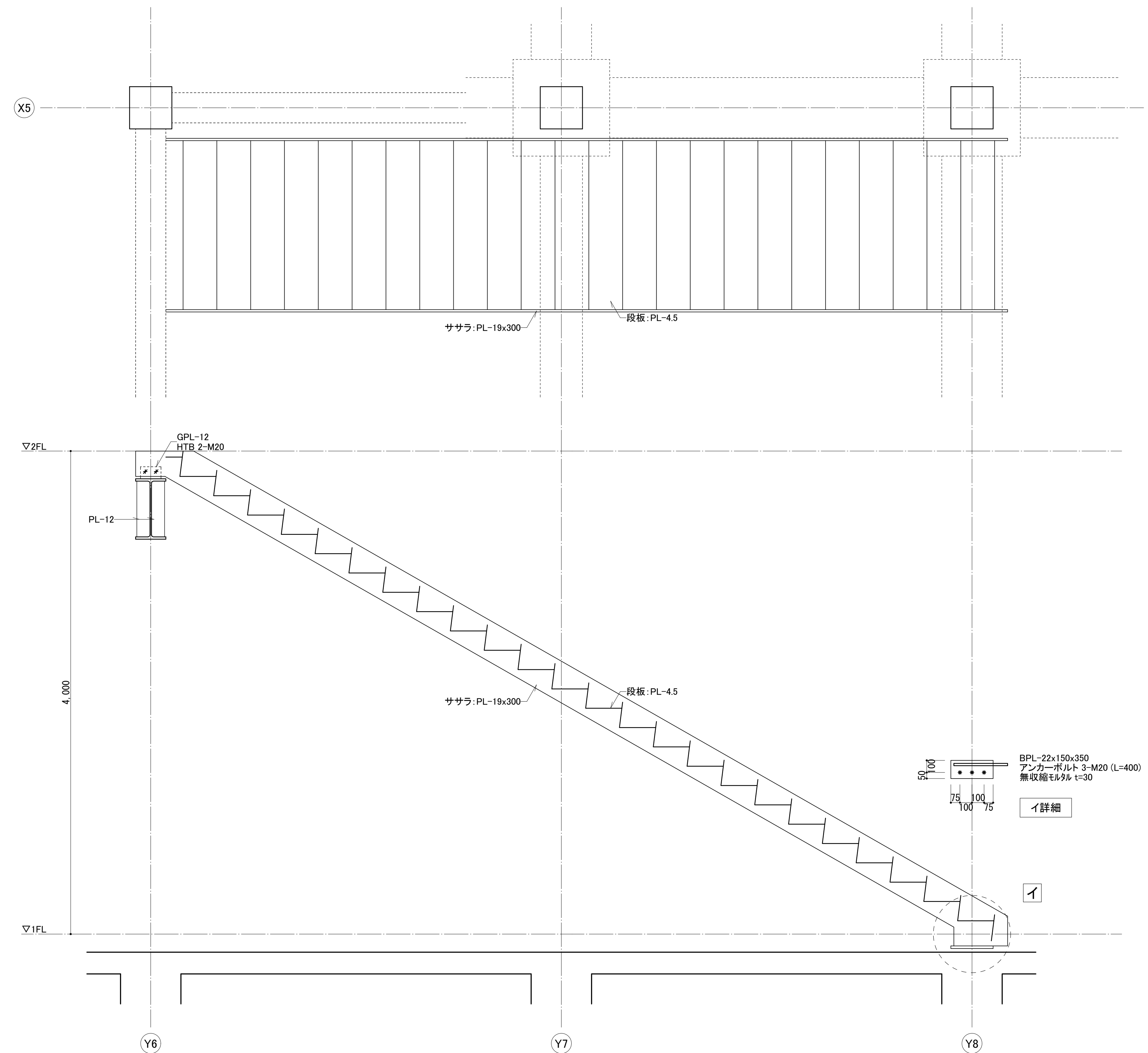
位 置	2F デッキスラブ端部	2F スラブ跳ね出し	外装材 縦胴縁	1F 外装材脚部 RC立上り	通用口階段	キャノピー支柱基礎	緊急用キャノピー吊材下地
形 状							
備 考		オープンテーブルや屋内ひろば上部に適用					Y5, Y6+1,700の柱に適用

位 置	可動間仕切り下地鉄骨	舞台機構すのこ鉄骨	客席照明バトン鉄骨	EV鉄骨
形 状				
備 考	下地鉄骨下端には受けネコ L-75x75x6 @1,500 (収納部 @500)		すのこ大引き箇所以外では、縦胴縁 C-60x30x10x2.3 @500	

位 置	屋根母屋					
形 状						
備 考						



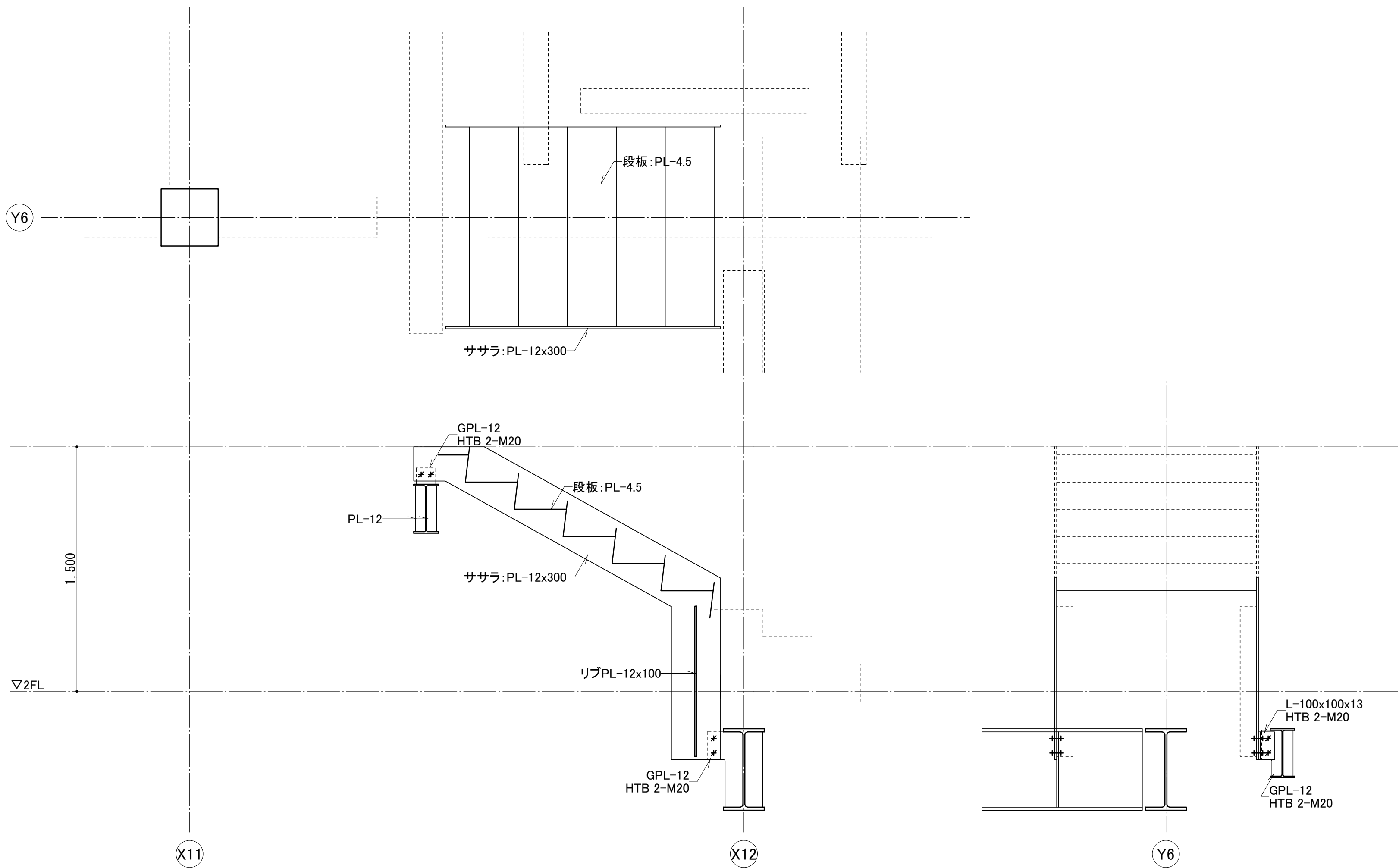
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/20 (A1)		構造	S-035
				図面名称	1/40 (A3)			
				階段詳細図 (1)				



階段2 詳細図

【特記事項】
・特記なき限り鋼材は SS400 、HTBIは S10T とする。

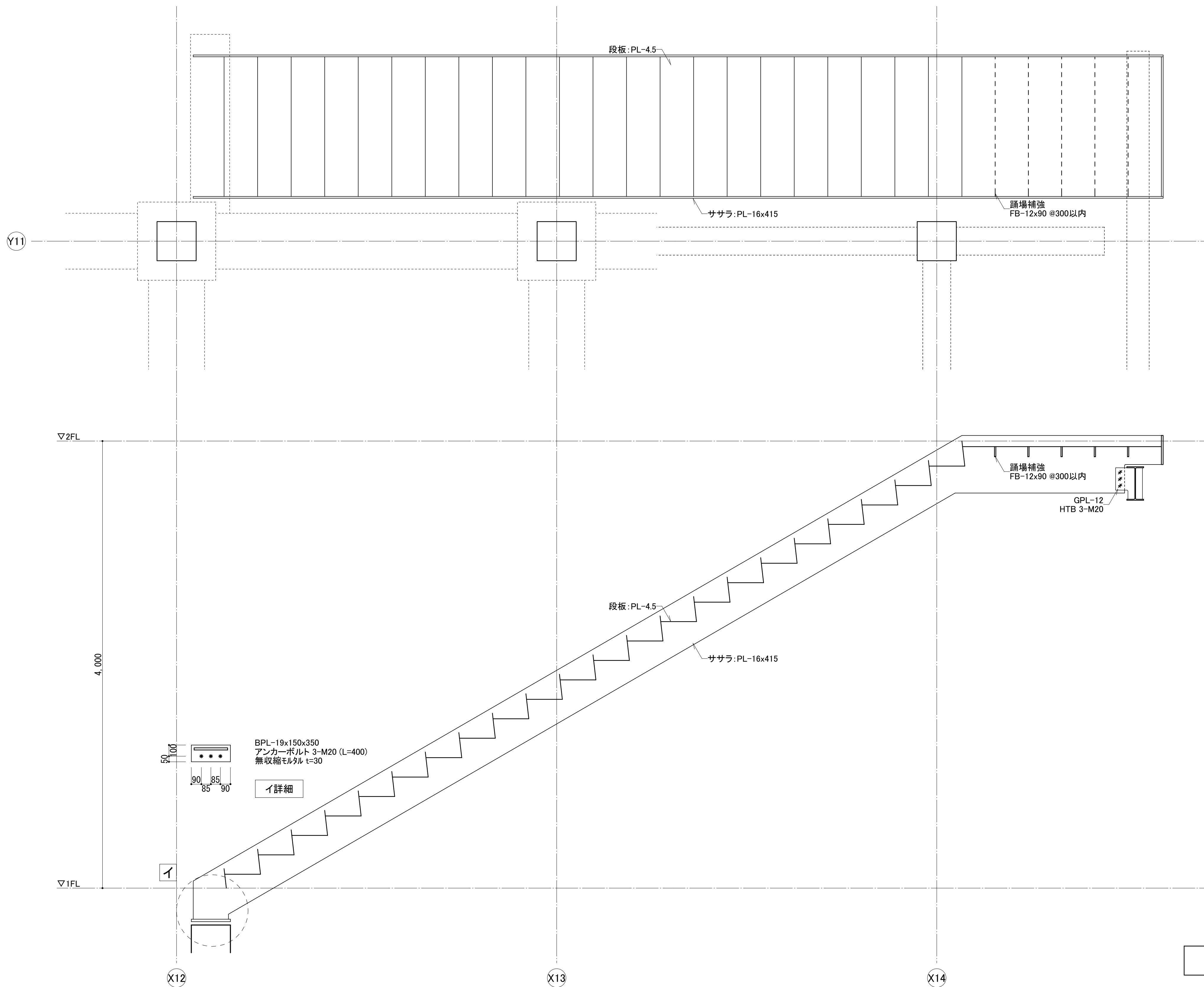
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事				
				階段詳細図 (2)	1/20 (A1) 1/40 (A3)		構造	S-036



階段3 詳細図

【特記事項】
・特記なき限り鋼材は SS400、HTBIは S10T とする。

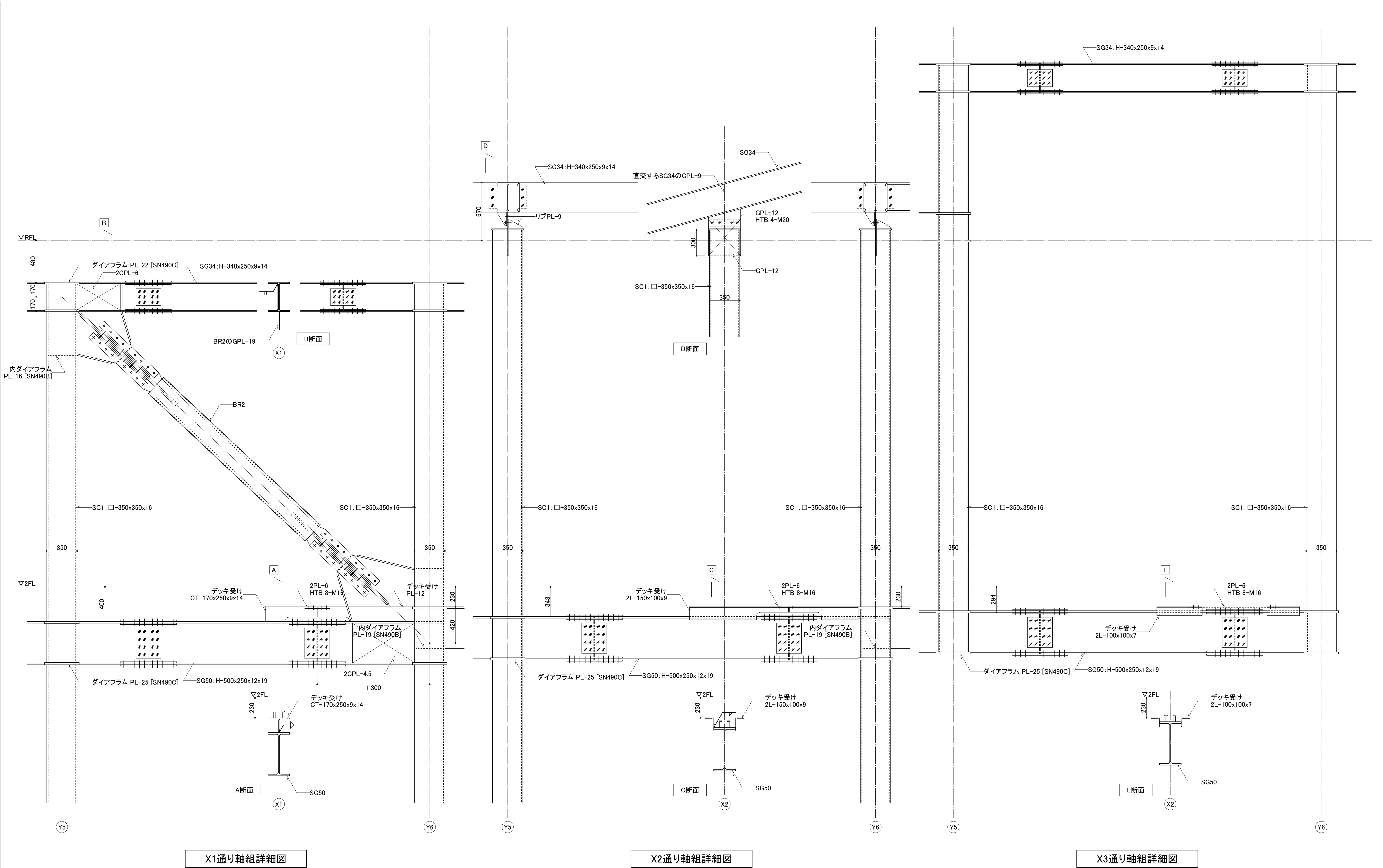
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/20 (A1)		構造	S-037
				図面名称	1/40 (A3)			
				階段詳細図 (3)				



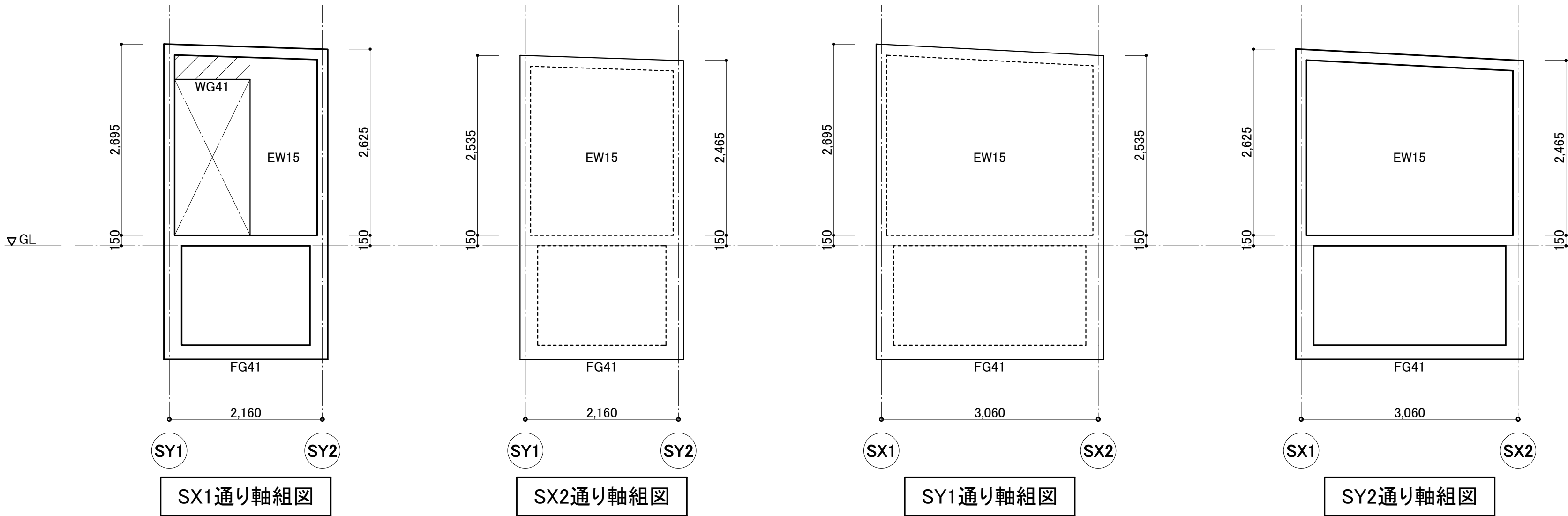
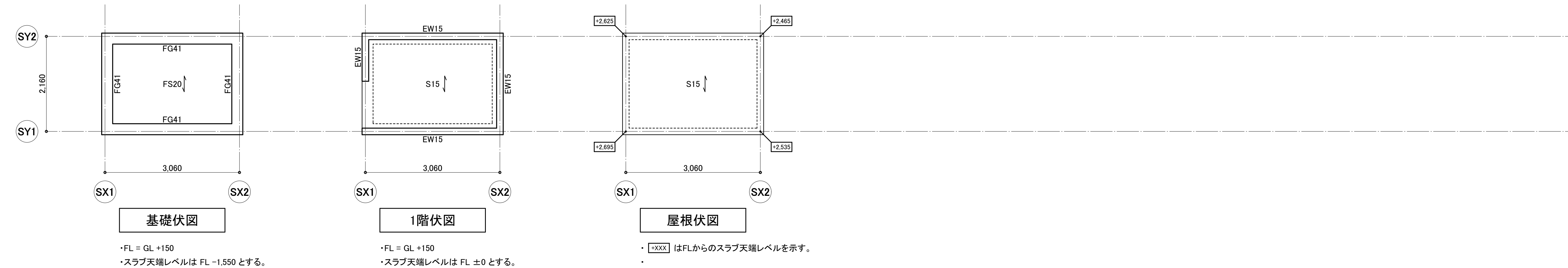
階段5 詳細図

【特記事項】
・特記なき限り鋼材は SS400 、HTBIは F8T とする。
・鋼材は全て溶融亜鉛メッキ処理とする。

			特記	工事名称	図面尺度 1/20 (A1) 1/40 (A3)	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事 階段詳細図 (4)			構造	S-038



			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/20 (A1)		構造	S-039
				図面名称	鉄骨詳細図 (1)			



部材リスト

部 位	符 号	断 面	備 考
壁	EW15	t=150	縦筋、横筋とも D13 @150 シングル
梁	FG41	250x1,750	主筋: 3-D16 (全断面) STP: □-D13 @200 腹筋: 8-D10
	WG41	150x450	主筋: 2-D13 (全断面) STP: 1-D10 @150
スラブ	FS20	t=200	主筋、配力筋とも D13 @200 ダブル
	S15	t=150	主筋、配力筋とも D13 @150 ダブル

※コンクリートの設計基準強度は全て Fc24 (S18) とする。

工事名称	東秩父村新庁舎建設工事	図面尺度	日付	区分	図面番号
	屋外倉庫01 伏図、軸組図、断面表			構造	S-060